

地域医療支援センターに係る  
情報交換会

平成24年5月11日

北海道

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

北海道は、東北六県と新潟県を合わせた面積であり、札幌市と根室市との距離は、東京都大阪に相当するなど、広域・分散型の地域特性を有し、医師の不足や地域偏在、さらには診療科の偏在が、地域医療を確保する上で大きな課題となっています。

道としては、地域医療の確保を道政の最重要課題と位置付け、医師の養成や派遣システムの構築など、各種施策を推進しています。

※ 詳細は、別添資料1「北海道の地域医療の現状と道の取組みについて」を参照。

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※ 24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

※ 別添資料1「北海道の地域医療の現状と道の取組みについて」を参照願います。

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

※ 別添資料1「北海道の地域医療の現状と道の取組みについて」を参照願います。

#### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

地方の取り組みには限界があり、こうした医師不足を解消するためには、臨床研修の見直しなど、国における医師の養成・確保にかかる制度の抜本的な見直しが必要であると考えております。

このため、医師の養成や確保に関わる制度の見直しについて、医育大学や医師会、市町村などで構成をする北海道医療対策協議会として、本年2月10日に国に対して要請を行ったところです。

（提言項目）

- ①医育大学の入学定員や地域枠の拡大
- ②臨床研修制度の見直し
- ③後期研修医の計画的な配置
- ④総合的な診療を行う医師の育成に対する支援
- ⑤社会医療法人の認定要件拡大
- ⑥特定診療科に関する診療報酬の充実
- ⑦女性医師の就業環境の改善
- ⑧医師確保対策推進のための財政支援

※ 別添資料2「医師確保のための提言について」を参照願います。

#### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

（新規事業）

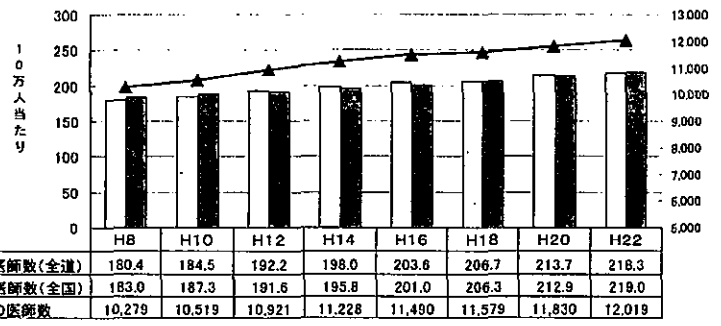
- 医学生（奨学金貸与者）相談支援
  - ・ 奨学金貸付制度を利用している医学生に対する相談支援を実施（リーフレット作成、医学生への説明会・相談など）
- 地域医療を担う青少年育成
  - ・ 地域医療を担う人材育成のため、中学生等を対象とした体験学習等を実施（講義、模擬手術、検査体験、医学生等との交流など）

～以上～

1 本道の地域医療の現状

(1) 医師の状況

- ① 医療施設（病院・診療所）に従事する医師数の推移（平成8年～平成22年）
  - 道内の人口10万人当たり医療施設従事医師数は、平成12年の調査で初めて全国平均を上回ったが、平成22年で再び全国平均を下回っている。
  - 平成22年12月末の10万人当たり医療施設従事医師数  
全道218.3人：全国219.0人

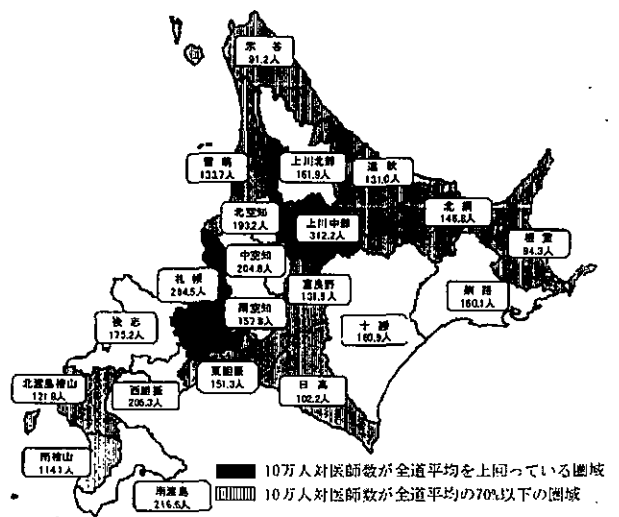


② 2次医療圏別格差（平成20年末）

○ 札幌圏に全道の医師の約半分が集中しており、地域偏在が著しい。（単位：人）

| 区分        | 北海道     |                   |               |             |          |
|-----------|---------|-------------------|---------------|-------------|----------|
|           | 全道      | 市部                | 町村部           | 最高圏域        | 最低圏域     |
| 医療施設従事医師数 | 280,431 | 12,019<br>(92.3%) | 922<br>(7.7%) | 札幌圏 6,196   | 南檜山圏 30  |
| 人口10万対    | 219.0   | 218.3             | 249.4         | 上川中部圏 312.2 | 宗谷圏 91.2 |

| 順位 | 圏域    | 人口10万対医師数 |
|----|-------|-----------|
| 1  | 上川中部  | 312.2     |
| 2  | 札幌    | 264.5     |
| 3  | 南渡島   | 216.6     |
| 4  | 西胆振   | 205.3     |
| 5  | 中空知   | 204.8     |
| 6  | 北空知   | 193.2     |
| 7  | 後志    | 175.2     |
| 8  | 上川北部  | 161.9     |
| 9  | 十勝    | 160.9     |
| 10 | 釧路    | 160.1     |
| 11 | 南空知   | 157.8     |
| 12 | 東胆振   | 151.3     |
| 13 | 北檜    | 146.8     |
| 14 | 留萌    | 133.7     |
| 15 | 富良野   | 131.9     |
| 16 | 遠軽    | 131.0     |
| 17 | 北渡島檜山 | 121.8     |
| 18 | 南檜山   | 114.1     |
| 19 | 日高    | 102.2     |
| 20 | 根室    | 94.3      |
| 21 | 宗谷    | 91.2      |
|    | 全道    | 218.3     |

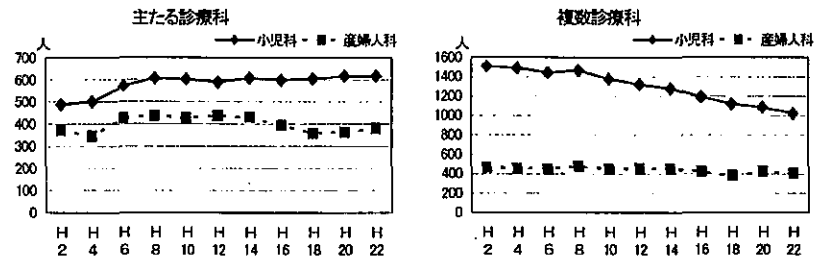


北海道の地域医療の現状と道の取組みについて

平成24年3月  
北海道保健福祉部

(イ) 道内の小児科・産婦人科医師の推移

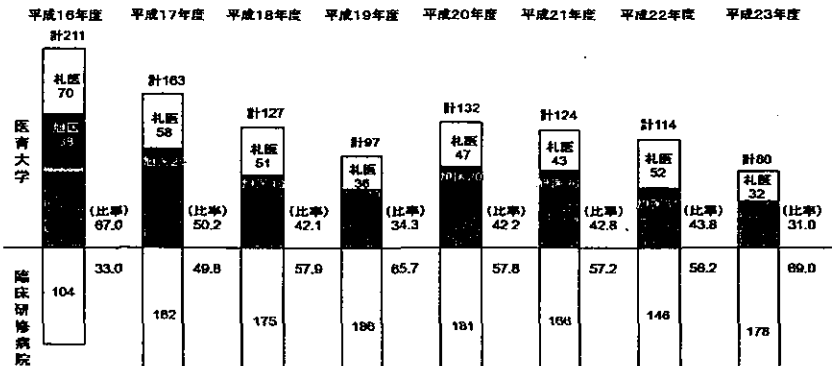
○ 小児科・産婦人科医師の減少が全国的な問題となっているが、道内の小児科を主たる診療科とする医師は増加傾向にある。



| 年   | 主たる診療科 |      | 複数診療科 |      |
|-----|--------|------|-------|------|
|     | 小児科    | 産婦人科 | 小児科   | 産婦人科 |
| H2  | 488    | 371  | 1,509 | 466  |
| H4  | 501    | 347  | 1,492 | 455  |
| H6  | 572    | 428  | 1,442 | 453  |
| H8  | 608    | 439  | 1,469 | 479  |
| H10 | 603    | 428  | 1,377 | 450  |
| H12 | 590    | 438  | 1,322 | 457  |
| H14 | 608    | 430  | 1,278 | 455  |
| H16 | 598    | 395  | 1,190 | 422  |
| H18 | 604    | 359  | 1,117 | 381  |
| H20 | 617    | 364  | 1,085 | 423  |
| H22 | 618    | 379  | 1,021 | 405  |

(ウ) 道内の卒後臨床研修医の状況

○ 医師の卒後臨床研修必修化に伴い、医育大学での卒後臨床研修を希望する医師が減少傾向にある。



③ 診療科別医師数

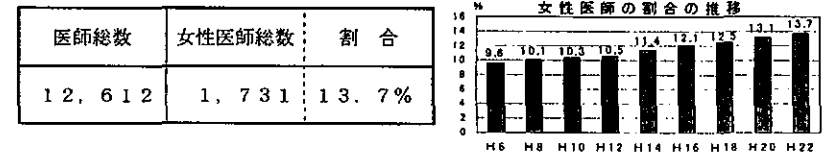
○ 診療科別の医師数は、消化器科、循環器科といった専門内科を主たる診療科とする医師が増加する一方、一般内科を主たる診療科とする医師は減少している。

| 年   | 内科    | 整形外科  | 外科  | 精神科 | 小児科 | 消化器内科(胃腸内科) | 循環器内科 | 眼科  | 麻酔科 | 脳神経外科 |
|-----|-------|-------|-----|-----|-----|-------------|-------|-----|-----|-------|
| H22 | 2,779 | 912   | 742 | 672 | 618 | 606         | 544   | 478 | 459 | 381   |
| H8  | 3,294 | 1,061 | 765 | 600 | 483 | 403         | 384   | 382 | 372 | 354   |

注) 平成20年以降の調査では、標ぼう診療科名の改正が行われたため、8年の調査とは単純な比較はできない。

④ 女性医師の状況 (H22年末)

○ 道内の女性医師は年々増加し、平成22年には13.7%に達している。  
○ 医師国家試験合格者(全国ベース)に占める女性の割合は、平成24年31.8%。

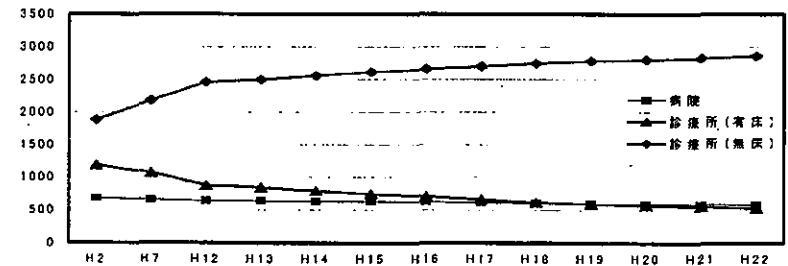


○ 一方で、女性医師は男性医師に比べ、出産や育児を理由として、一時的に職を離れる場合も多い。

⑤ 最近の医師の意識状況

(ア) 道内の病院・診療所の施設数の推移

○ 医師の中に、相対的に拘束時間が短い開業医を志向する傾向が高まっており、無床診療所が増加している。



| 区分      | H2    | H7    | H12   | H13   | H14   | H15   | H16   | H17   | H18   | H19   | H20   | H21   | H22   |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 病院      | 682   | 657   | 638   | 638   | 634   | 633   | 627   | 620   | 613   | 640   | 594   | 588   | 584   |
| 診療所(有床) | 1,187 | 1,064 | 870   | 839   | 787   | 747   | 707   | 663   | 617   | 595   | 570   | 552   | 526   |
| 診療所(無床) | 1,887 | 2,178 | 2,457 | 2,495 | 2,557 | 2,614 | 2,657 | 2,700 | 2,749 | 2,786 | 2,805 | 2,826 | 2,862 |

注) 各年10月1日現在(北海道保健統計年報)

2 北海道医療対策協議会の取組【会長：知事（H19.5就任）】

(1) 趣 旨

北海道医療対策協議会におけるこれまでの協議の中で、課題の整理が一定程度終了し、今後の取組の方向性が明らかとなってきたことから、平成18年度からは課題ごとに分科会を新たに設置し、各課題について対策の具体的な実現に向けた検討・協議を進めている。

【北海道医療対策協議会における取組み】

北海道医療対策協議会（～17年度）

○ 検討・協議事項………全体会議で各課題について検討・協議

(1) 医師派遣（紹介）システムについて  
・システムの手順、対象医療機関、スケジュールの決定

⇒ 医師派遣（紹介）連絡調整会議  
・医師派遣（紹介）に係る全体調整の実施

(2) 地域医療を担う医師の養成について  
・地域医療を担う医師養成に向けた教育プログラム、入学試験における地域枠、奨学金制度など大学における取組み及び市町村の協力のあり方についての意見交換

(3) 自治体病院等広域化について  
・道立保健所などが中心となり、各地域における広域化に向けた検討を促進

平成18年3月28日  
「第七回北海道医療対策協議会」で合意

北海道医療対策協議会（18年度～）

○ 全体会議での検討・協議事項  
・今後の取組の方向性について議論、各分科会の検討結果を受けた意思決定 ほか

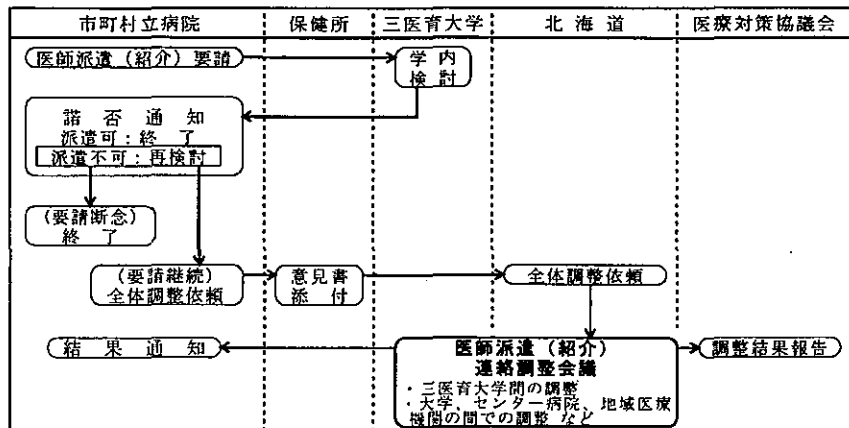
○ 分科会の設置………各課題について対策の具体的な実現に向けた検討・協議

(1) 医師派遣（紹介）連絡調整分科会（既設：名称変更、機能拡充）  
・医師派遣（紹介）システムの手順、対象医療機関、スケジュールの決定  
・医師派遣（紹介）に係る全体調整の実施 など

(2) 地域医療を担う医師養成検討分科会（新設）  
・大学と市町村が協力して取り組む医師養成の方策についての検討 など

(3) 自治体病院等広域化検討分科会（新設）  
・自治体病院等の機能分担や広域連携の推進方策についての検討・協議及び各地域の取組みに対する具体的な支援 など

○ 新たな医師派遣（紹介）システム実施フロー



(2) 医療機関の状況

① 病床規模別の病院の状況

- 病床規模別の病院の状況は、全国とほぼ変わらない。
- 市町村立病院に限ると、100床未満の小規模な病院の比率が、際だって高い。

|          | 100床未満 | 100～200床 | 200～300床 | 300～400床 | 400～500床 | 500～600床 | 600～700床 | 700床以上   |
|----------|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 全 国      | 460    | 367      | 729      | 1,124    | 2,758    | 2,225    | 1,007    | 8,670    |
| (構成比)    | (5.3%) | (4.2%)   | (8.4%)   | (13.0%)  | (31.8%)  | (25.7%)  | (11.6%)  | (100.0%) |
| うち市町村立病院 | 59     | 57       | 87       | 72       | 195      | 170      | 60       | 700      |
| (構成比)    | (8.4%) | (8.1%)   | (12.4%)  | (10.3%)  | (27.9%)  | (24.3%)  | (8.6%)   | (100.0%) |
| 全 道      | 25     | 12       | 46       | 76       | 192      | 181      | 51       | 583      |
| (構成比)    | (4.3%) | (2.1%)   | (7.9%)   | (13.0%)  | (32.9%)  | (31.0%)  | (8.7%)   | (100.0%) |
| うち市町村立病院 | 6      | 2        | 6        | 4        | 12       |          |          | 89       |
| (構成比)    | (6.7%) | (2.2%)   | (6.7%)   | (4.5%)   | (13.5%)  |          |          | (100.0%) |

○ 全国の数値は平成22年10月1日現在（厚生労働省「平成22年医療施設（動態）調査」）

○ 全道の数値は平成23年4月1日現在道調べ

② 市町村立病院における医師の充足状況（H21.22 医療監視結果）

- 道内の市町村立病院のうち、7割近くの病院が医療法で定める医師標準数を満たしていない。
- また、1割強の病院は医師充足率が70%以下であり、診療報酬の減額の対象となる。

|               | 平成21年度      | 平成22年度      |
|---------------|-------------|-------------|
| 市町村立病院数       | 90病院        | 90病院        |
| 標欠となっている病院数   | 49病院(54.4%) | 25病院(27.8%) |
| 医師充足率70%以下の病院 | 10病院(11.1%) | 7病院(7.8%)   |
| 医師充足率50%以下の病院 | 3病院(3.3%)   | 2病院(2.2%)   |

一般病院において必要な医師数に係る算定式

$$\frac{\text{精神科床及び療養病床の入院患者数}}{3} + \frac{\text{精神科床及び療養病床以外の入院患者数}}{2.5} + \frac{\text{外来患者数}}{2.5} = A$$

↑ 小数部2位以下切り捨て

(1) Aが5.2までは  
医師：3人

(2) Aが5.2を超える場合には  
医師： $\frac{A-5.2}{1.6} + 3$ 人

(2) 即効性のある医師確保対策

| 区分                  | 概要   | 開始年度    | 22年度実施状況  | 23年度(2月末)実施状況                                     |
|---------------------|--|---------|---|---|
| ①地域医療支援センター         | 医師不足が深刻な市町村立病院などに医育大学所属医師を派遣   | 札医大 H13 | 派遣医師数 11名<br>(派遣定員 15名)                           | 派遣医師数 12名<br>(派遣定員 15名)                           |
|                     |  | 旭医大 H21 | 派遣医師数 5名<br>(派遣定員 6名)                             | 派遣医師数 5名<br>(派遣定員 6名)                             |
| ②地域医療指導医派遣システム推進事業  | 地域の中核的な病院に安定的に指導医を派遣するため、道内医育大学と連携の上、指導医派遣のためのシステムを構築                | H22     | 大学研修 8名<br>(研修定員 8名)                              | 大学研修 5名<br>(研修定員 8名)<br>地域派遣 7名                   |
| ③小児三次救急医療体制整備促進事業   | 小児救急の拠点となる医療機関の体制整備を行うため、専門医の配置を支援                                   | H22     | 5医療機関   | 5医療機関   |
| ④地域医療サポートセンター整備事業   | 地方・地域センター病院から地域の医療機関への医師派遣事業に対し支援                                    | H10     | 派遣日数<br>延べ 1,929日<br>・地方センター病院5カ所<br>・地域センター病院6カ所 | 派遣日数<br>延べ 1,735日<br>・地方センター病院5カ所<br>・地域センター病院6カ所 |
| ⑤緊急臨時的医師派遣事業        | 都市部の医療機関から医師不足が深刻な地域の医療機関に対して、北海道医師会、北海道病院協会などの協力を得て、緊急に医師を派遣する体制を整備 | H20     | 派遣先 44医療機関<br>延べ 3,260日                           | 派遣先 49医療機関<br>延べ 2,872日                           |
| ⑥専門医派遣システム推進事業      | 地方センター病院等において不足している専門医師を確保するため、専門病院や大学病院等と連携の上、専門医派遣のためのシステムを構築      | H23     |   | 派遣日数 62日  |
| ⑦医師研修費貸付事業(大学院・研修医) | 道内医育大学の大学院生及び臨床研修病院に在籍する臨床研修医を対象に研修費を貸付した医師を地域の医療機関に派遣               | H20     | 派遣医師数 1名<br>(貸付人数 7名)                             | 派遣医師数 3名<br>(貸付人数 7名)                             |
| ⑧救急勤務医・産科医等確保支援事業   | 救急医・産科医の処遇改善のための手当を支給する医療機関に対し支援                                     | H21     | 救急 18医療機関<br>産科 35医療機関                            | 救急 24医療機関<br>産科 37医療機関                            |
| ⑨女性医師等就労環境改善緊急対策事業  | 女性医師が働きやすい職場の環境整備に取り組む医療機関に対し支援                                      | H21     | 3医療機関   | 5医療機関   |
| ⑩女性医師等勤務環境整備事業      | 育児等で離職した女性医師等の復職のための相談・研修事業等に補助                                      | H22     | 2医育大学<br>1医療機関                                    | 3医育大学・1団体・<br>1医療機関<br>(復職医師数:2名)                 |
| ◇東京事務所における医師確保      | 東京事務所において地域医療振興協会や全国自治体病院協議会など関係団体と連携し医師を確保                          | H20     | 確保医師数 5名  | 確保医師数 4名  |

3 医師確保対策の実施状況

(1) 総合的な医師確保対策【地域医師連携支援センター】

| 区分                                  | 概要   | 開始年度 | 22年度実施状況  | 23年度(2月末)実施状況   |
|-------------------------------------|--|------|---|---|
| ①医師不足状況調査                           | 道内の医療機関に対してアンケート調査などを実施  | H22  | 必要医師数 1,007人<br>(回収率 83.0%)   | 必要医師数 1,075人<br>(回収率 80.5%)   |
| ②-1北海道地域医療振興財団ドクターバンク事業(常勤医)        | 財団に求人登録した医療機関に対して、財団のドクターバンクから医師を紹介・斡旋   | S61  | 紹介成立数 15名<br>(登録医師 129)   | 紹介成立数 12名<br>(登録医師 137名)  |
|                                     | (再掲)<br>女性医師バンク  | H17  | 紹介成立数 1名<br>(登録医師 18名)  | 紹介成立数 2名<br>(登録医師 21名)  |
| ②-2北海道地域医療振興財団ドクターバンク登録医師の派遣(短期勤務医) | ドクターバンクから休暇取得時等の代替医師や診療協力のため、医師を地域の医療機関に派遣                                       | S61  | 派遣日数<br>延べ 2,733日<br>(登録医師 190名)                                    | 派遣日数<br>延べ 2,476日<br>(登録医師 201名)  |
|                                     | (再掲)<br>熟練ドクターバンク  | H16  | 派遣日数<br>延べ 968日<br>(登録医師 62名)                                       | 派遣日数<br>延べ 788日<br>(登録医師 65名)   |
| ③道職員医師の採用・派遣                        | 道内外の医師を道職員として採用し、地域の医療機関に派遣  | H19  | 派遣医師数 -   | 派遣職員数 1名  |
| ④指導医養成事業                            | 道内臨床研修病院等の医師を対象に、プライマリケアの指導方法等に関する講習会を実施   | H19  | ○1回目(9月)<br>講習「プライマリケア」への参加者数 16名<br>○2回目(2月)<br>北海道医師会との共催参加者数 28名 | ○1回目(9月)<br>講習「プライマリケア」への参加者数 14名<br>○2回目(3月開催予定)<br>北海道医師会との共催参加者数 31名 |
| ⑤道外医師招聘等事業                          | 北海道の地域医療に関心のある医師や医学生を対象に、道内臨床研修病院等の情報を広く周知するほか、臨床研修病院合同説明会や地域医療体験実習などによる招へい活動を実施 | H19  | ○合同説明会参加学生数<br>札幌 190名<br>東京 27名<br>計 217名                          | ○合同説明会参加学生数<br>札幌 187名<br>福岡(11月) 44名<br>福岡(2月) 169名<br>計 400名          |
|                                     |  |      | ○地域医療体験実習参加学生数 7名   | ○地域医療体験実習参加学生数 3名   |
| ⑥医師版移住促進事業                          | 北海道での勤務を考えている道外の医師を対象に地域医療の現場視察や体験勤務を実施  | H19  | 地域勤務 4名<br>(視察体験者数 8名)  | 地域勤務 4名<br>(視察体験者数 13名)   |
| ⑦北海道地域医療対策協議会事業                     | 地域医療の確保等に関する諸問題への対応策について協議・検討を行う。  | H16  | ・医師派遣(紹介)連絡調整分科会<br>・地域医療を担う医師養成検討分科会<br>・自治体病院等広域化検討分科会            | ・医師派遣(紹介)連絡調整分科会<br>・地域医療を担う医師養成検討分科会<br>・自治体病院等広域化検討分科会                |



(3) 中・長期的な医師確保対策

| 区分                   | 概要  | 開始年度 | 22年度実施状況  | 23年度(2月末)実施状況                                  |
|----------------------|---|------|---|--|
| ①自治医科大学卒業医師          | 自治医科大学卒業後、道職員として採用し、一定期間地域の医療機関に派遣(研修期間の医師を除く)            | S53  | 派遣職員数 10名   | 派遣職員数 9名                                       |
| ②寄附講座設置事業            | 医科大学に地域医療に関する寄附講座を設置し、医師の養成に関する調査・研究を支援                   | H22  | (礼医大) 道医医療推進学講座 (旭医大) フロンティア講座                          | (礼医大) 道医医療推進学講座 (旭医大) フロンティア講座                 |
| ③総合内科医業成研修センター運営支援事業 | 地域の中核的な病院において、幅広い診療を行うことができる総合内科医師を養成する研修センターを設置し、運営費を支援  | H22  | 実施医療機関11病院 研修医数 13名<br>〔センター指定 23医療機関〕                  | 実施医療機関11病院 研修医数 22名<br>〔センター指定 23医療機関〕         |
| ④医学生地域医療体験実習支援事業     | 地域枠入学生等本道の地域医療に興味を有する医学生を対象に医科大学が行う学外実習を支援                | H23  |   | 礼医大(実習先:礼医等) 参加者37名程度<br>旭医大(実習先:旭医等) 参加者40名程度 |
| ⑤医師奨学金賞付事業(医学生)      | 道内医科大学の地域枠入学者を対象に、医師免許取得後、一定期間、地域の医療機関に勤務することを条件とする奨学金を賞付 | H20  | 賞付人数 12名<br>礼医大 12名<br>旭医大 17名<br>計 29名                 | 賞付人数 15名<br>礼医大 15名<br>旭医大 17名<br>計 32名        |
| ◇医科大学の定員増            | 医師の絶対数の増加に向けて、道内三医科大学の定員増を図る                              | H20  | 礼医大 110名<br>北大 112名(+7)<br>旭医大 122名(+10)<br>計 344名(+17) | 礼医大 110名<br>北大 112名<br>旭医大 122名<br>計 344名      |

地域医療体制の確保に向けた包括的な地域医療政策の展開【北海道】

〈医師不足〉  
医師の養成数  
医師の地域偏在  
診療科別の偏在  
など

国への要望(提言)

- 1 医科大学の入学定員や地域枠の拡大
- 2 臨床研修制度の見直し
- 3 後期研修医の計画的な配置
- 4 総合的な診療を行う医師の育成に対する支援
- 5 社会医療法人の認定要件の拡大
- 6 特定診療科に関する診療報酬の充実
- 7 女性医師の就業環境の改善
- 8 医師確保対策推進のための財政支援

地域医療体制の確保

中・長期的な医師確保対策

- 医師養成
  - ・自治医科大学の運営費負担
  - ・地域医療に関する寄附講座の設置
  - ・総合内科医業成研修センターの設置
  - ・医学生地域医療体験実習への支援
- 資金賞付
  - ・医学生(地域枠入学者)への奨学金の賞付

即効性のある医師確保対策

- 常勤医師確保
  - ・医科大学地域医療支援センターからの医師派遣
  - ・地域医療指導医派遣システムの推進
  - ・小児救急担当専門医の配置支援
  - ・東京事務所における医師確保
- 資金賞付
  - ・大学院生、臨床研修医への研修費の賞付
- 短期医師確保
  - ・地域医療サポートセンターへの支援
  - ・医師不足地域への緊急臨時的な医師派遣
  - ・地方センター病院等に専門医を派遣するシステムの構築
- 勤務環境整備
  - ・救急勤務医、産科医処遇改善の支援
  - ・女性医師等就労環境改善緊急対策事業
  - ・女性医師等勤務環境整備事業

総合的な医師確保対策  
【地域医師連携支援センター】

- 1 医師不足状況把握・分析
  - ・医師不足状況調査の実施
- 2 医師不足病院の支援
  - ・地域医療対策支援事業
  - 〔地域医療振興財団ドクターバンク、女性医師バンク、熟練ドクターバンク〕
  - ・地域医療支援派遣医師確保事業(道職員として採用した医師の派遣)
- 3 医師のキャリア形成支援
  - ・臨床研修病院の指導医養成講習会の開催
- 4 情報発信と相談への対応
  - ・道外医師への積極的な招へい活動や本道の地域医療の情報発信
  - ・「北海道暮らしフェア」と連携した医師の移住促進
- 5 地域医療関係者との協力
  - ・北海道医療対策協議による協議・検討

## 医師確保のための提言について

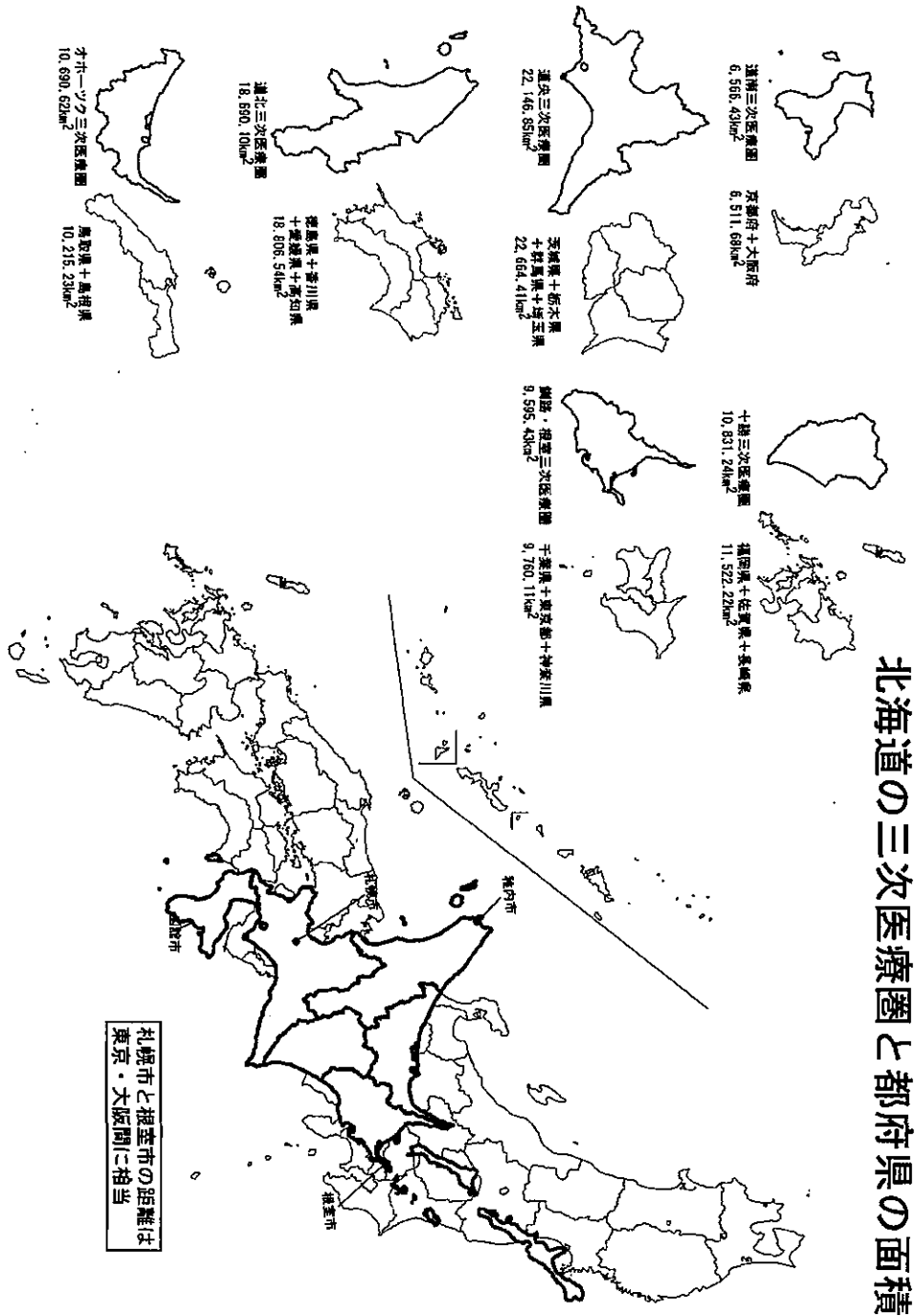
(平成24年2月 北海道医療対策協議会)

### 1 本道の現状・課題

- (1) **医師の不足**
  - ・ 医療機関が担うべき機能を維持するために確保しなければならない必要医師数は増加している。  
(H22:1,007人⇒H23:1,075人)
- (2) **医師の地域偏在**
  - ・ 北海道の人口10万人当たり医師数は全国平均を上回るものの、4つの三次医療圏では下回り、根室や宗谷などの二次医療圏では全国平均の半数以下となっている。
- (3) **診療科の偏在**
  - ・ 診療科の偏在により外科系や産婦人科の医師が不足し、救急医療や分娩体制の確保に苦慮している。

### 2 国への提言

- (1) **医歯大学の入学定員や地域枠の拡大**
  - ・ 医歯大学の入学定員や奨学金と連動した地域枠の拡大及び専任教員の定数増や教育施設等の増改築に対する財政支援
- (2) **臨床研修制度の見直し**
  - ・ 医師不足地域での研修の実施など地域医療研修の充実
  - ・ 研修希望者と募集定員数の乖離の解消と地理的条件など地域の実情を踏まえた都道府県毎の定員数の見直し
- (3) **後期研修医の計画的な配置**
  - ・ 指導医の計画的な配置と地域・診療科毎の後期研修医の定数設定と配置
- (4) **総合的な診療を行う医師の育成に対する支援**
  - ・ 地域医療を担う総合医などに係る学会認定制度の確立や診療科名の標ぼう科目への追加
- (5) **社会医療法人の認定要件の拡大**
  - ・ 社会医療法人の認定要件としているへき地医療の実施対象について、「へき地診療所」から「都道府県知事が定める医療機関」に拡大
- (6) **特定診療科に関する診療報酬の充実**
  - ・ 医師不足が深刻な特定診療科に関する診療報酬の充実と勤務環境の改善
- (7) **女性医師の就業環境の改善**
  - ・ 女性医師の復職に向けた保育サービスや研修体制の充実、多様な勤務形態の導入促進
- (8) **医師確保対策推進のための財政支援**
  - ・ 医師確保対策に対する財政支援の充実と地域医療再生計画終了後の支援の継続



札幌市と根室市の距離は  
東京・大阪間と同程度

青森県

## 地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

### 【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

人口10万対医師数は、医師不足が深刻な東北の中でも、岩手県に次いで2番目に低い水準にあり、二次医療圏で津軽圏域以外は全て全国平均以下となっており、医師数の絶対的な不足と地域偏在が大きな課題となっている。

このため、県としては、地域全体で医師及び医師を目指す若い人を支え、育てるシステムを作り、青森県に定着するためのグランドデザインが必要であると考え、3つの戦略「優れた医育環境（医師が学ぶ環境）」「意欲が湧く環境（医師が働く環境）」「仕組みを整える」による中長期を見据えた総合的・抜本的な「良医を育むグランドデザイン」を策定し、これに沿った取組を行っている。

<主な取組>

#### I 優れた医育環境（医師が学ぶ環境）

- ①医師を志す中学・高校生の段階の取組（ドクタートーク、医療チュートリアル体験、外科手術体験セミナー）
- ②医学生の段階の取組（弘前大学医師修学資金制度、弘前大学における地域医療実習、県外の医学生地域医療実習、臨床研修合同説明会、知事と弘前大学医学部生の懇談）
- ③臨床研修医の段階の取組（臨床研修医セミナー、臨床研修医ワークショップ）
- ④指導医の段階の取組（指導医講習会）

#### II 意欲が湧く環境（医師が働く環境）、III 仕組みを整える

- ①自治体病院の機能再編成（西北五地域）
- ②女性医師の働きやすい環境づくり
- ③住民が支える地域医療（地域医療研究会）

### 【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

#### 【設問5】に記載の事業の他、

地域医療支援センターに、卒業後の一定期間県内自治体医療機関等勤務（義務期間の半分の期間は町村部中小医療機関勤務）を資金返還免除条件とする医師修学資金制度を連動させ、同奨学資金被貸与医師をセンターに登録し、センター専任医師が大学等と調整し作成する勤務プログラムに基づいて県内自治体医療機関等に配置する仕組みとしている。

この配置に当たっては、自治体病院の再編・ネットワーク化が進展している地域を優先するなど再編・ネットワーク化を促進する配置方針としている。

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

- ①無料職業紹介実績2名
- ②医師修学資金特別枠被貸与者の勤務プログラム作成数3名(内科、外科、泌尿器科)
- ③県内臨床研修病院初期研修採用者数65名
- ④県外医学生に対する進路相談会実施箇所及び参加学生数 9都市 50名
- ⑤UIターン等登録医師(H23年度)(義務年限自治医、修学資金特別枠含む) 8名

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

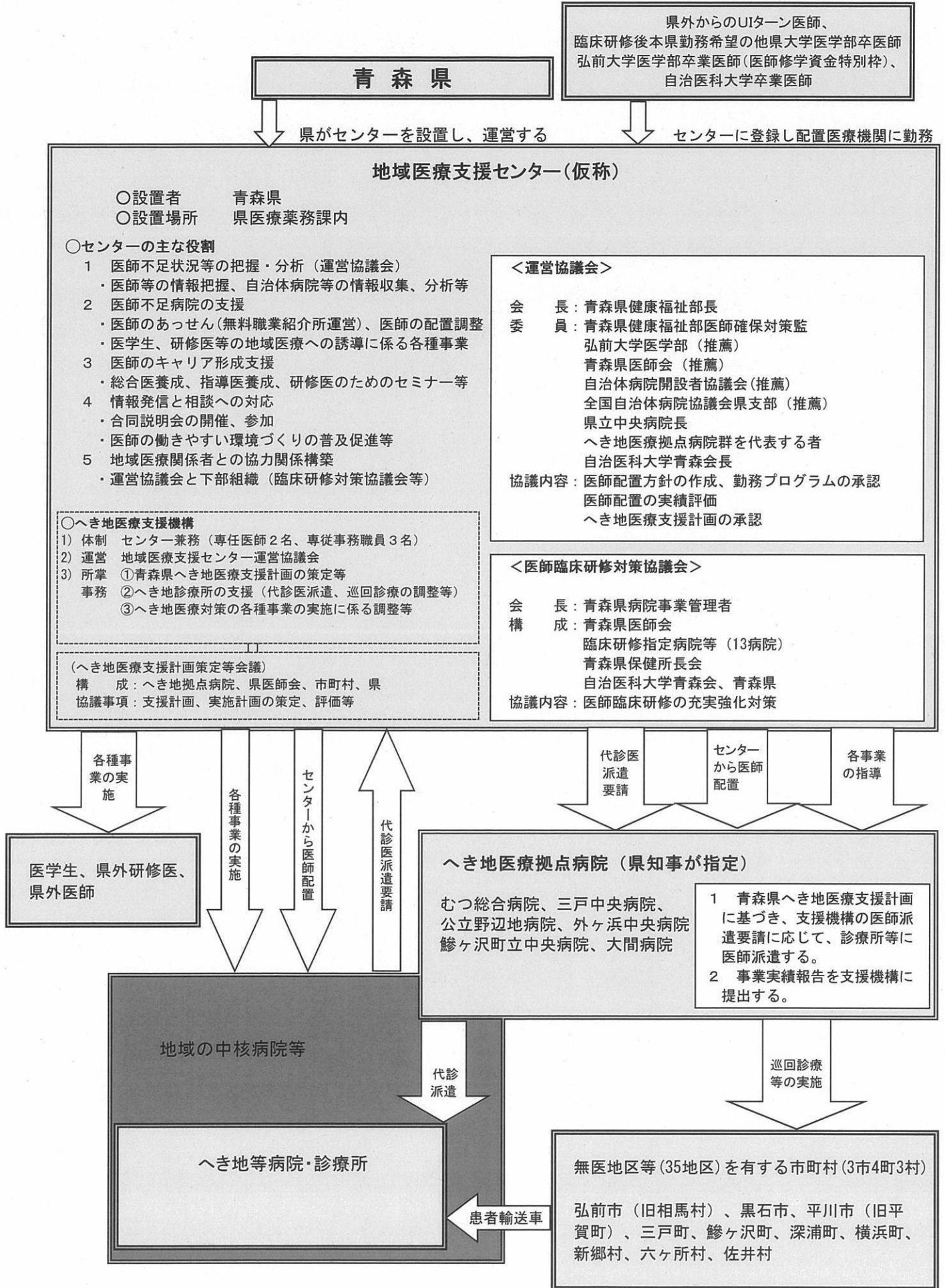
- ①町村部の中小医療機関勤務を義務づけられる奨学金被貸与医師の地域医療に対する意識醸成(モチベーション)を図ること。
- ②へき地等において医療ニーズの高い、いわゆる「総合医」の育成を図ること。

### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- <医療人財早期育成>
- ①ドクタートーク(中高校生対象)
  - ②医療チュートリアル体験(高校生対象)
  - ③外科手術体験セミナー(中高校生対象)
- <臨床研修>
- ①臨床研修病院合同説明会の開催(県内、東京、大阪、福岡)
  - ②指導医養成講習会(年2回)
  - ③研修医セミナー、研修医ワークショップの開催
  - ④医学生等のための進路相談会(県外10都市予定)
  - ⑤弘前大学卒医師県内定着促進事業
    - ・医学生との懇談会
    - ・地域医療(へき地医療)実習
  - ⑥県外医学生のへき地医療等医療実習(短期1週間程度10名、長期1月間程度5名)
- <その他>
- ①総合医育成支援事業
    - ・指導医養成
    - ・プログラム構築

# [地域医療支援センター概要図]



石手県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- ・医師養成事業や臨床研修の環境整備・体制の充実、病院勤務医の勤務環境の改善
- ・養成医師の計画的な配置、派遣調整や地域病院等への診療応援等による医師の地域偏在、診療科偏在の改善

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ・即戦力医師招聘事業
  - ・高校生医学部進学セミナー、医師奨学生サマーガイダンス、いわて医学奨学生地域医療セミナーの開催
  - ・臨床研修指導医講習会、臨床研修医OSCE・合同勉強会の開催
  - ・地域医療支援センター運営委員会開催など
- 別紙のとおり。

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

別紙のとおり。

【設問4】

貴道府県の地域医療支援センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

奨学金養成医師の配置調整に当たる事務局体制のあり方。



**【設問 5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

24年度は現状の事業に加え岩手医科大学に医師派遣事業を委託実施。  
25年度以降の新規事業については今後検討。

～以上～

## 地域医療支援センター事業

### 平成 23 年度事業実績と平成 24 年度事業内容について

#### 事業の概要

##### (1) 医師確保の取組

###### ○即戦力医師の招聘事業

- ・他県在住の本県出身医師、本県地域医療に興味のある他県出身医師、新たな大学医局ルート等に対し訪問活動を行い、即戦力医師招聘に努め県内医師不足の解消を図った。
- ・招聘医師数 24 名
- ・平成 24 年度も同内容で活動

##### (2) 医師を志す者の拡大の取組

###### ○高校生医学部進学セミナー

- ・県内高校生向けに県立病院医師による講演と臨床研修医とのフリートーキングを行い、医師という職業に対する理解を深め、医師を志すための動機付けを図った。
- ・平成 24 年 3 月 13 日（火）「アイーナ」で開催。参加高校生（1、2 年生）133 名。
- ・平成 24 年度も同内容で開催を計画。

###### ○奨学金制度広報等実施

- ・県奨学金制度の内容を記載したクリアファイル 1000 部作成。上記セミナーで配布のほか、岩手医大オープンキャンパス等で配布。
- ・平成 24 年度は奨学金制度ポスターを作成予定。県内各高校及び全国医学部に配布予定。

##### (3) 医師奨学生の確実な地域定着に向けた取組

###### ○いわて医学奨学生サマーガイダンス

- ・知事や研修病院の指導医の講演を聞きながら、参加者一人一人が自分の将来と地域医療について考えてもらう機会を提供した。
- ・平成 23 年 8 月 18 日（木）「エスポワールいわて」で開催  
参加者：平成 23 年度の新規奨学金貸付者 36 名参加
- ・平成 24 年度も同内容で開催を計画。

###### ○いわて医学奨学生地域医療セミナー

- ・県の医学奨学金を貸与している医学生（4、5 年生）に対し、地域医療の現場の医師の講演会や各研修病院の指導医、研修医との意見交換を通じ、地域医療への理解を深めてもらった。
- ・平成 24 年 3 月 17 日（土）～18 日（日）「ホテル安比グランド」で開催。  
参加者：医学部 4、5 年生 27 名。
- ・平成 24 年度も同内容で開催を計画。

#### (4) 臨床研修体制の充実と環境整備

##### ○臨床研修指導医講習会

- ・臨床研修医定着に向け、充実した研修プログラムの提供と指導医の資質向上を図った。
- ・平成23年11月11日(金)～12日(土)「ホテル安比グランド」で開催 参加者：指導医27名。
- ・平成24年度も同内容で開催を計画。

##### ○臨床研修医合同オリエンテーション

- ・県内の臨床研修病院に採用された初期臨床研修医を対象に法令、規則等の知識や基本的な手技等の習得や臨床研修医間のネットワーク形成を図った。
- ・平成23年9月9日(金)～11日(日) 「ホテル安比グランド」で開催 参加者：研修医 67名。
- ・平成24年度も同内容で開催を計画。

##### ○臨床研修医OSCE・臨床研修医合同勉強会

- ・初期臨床研修医(2年次)を対象に、複数の科目について、知識、技能、態度等の臨床能力を客観的に評価し、基本的な診療能力がどれだけ身についているかを測ることにより、臨床研修病院の指導体制の質の向上を図ることを目的として実施。今回、より進化させ、指導・教育を主目的として、手技等の習得を図る機会として実施した。
- ・平成23年10月1日(土)～2日(日)「ホテル安比グランド」で開催 参加者：研修医 54名。
- ・平成24年度はOSCEを進化させ、指導・教育を主目的として、手技等の習得を図る機会「レジデントスキルアップセミナー」として実施する。

#### (5) 運営委員会の開催

##### ○地域医療支援センター運営委員会(地域医療対策協議会)

- ・被災地の医療体制状況、地域医療支援センターの設置、医師確保対策事業実施状況及び医師養成事業による養成医師の配置等について協議した。
- ・平成24年2月3日(金)「エスポワールいわて」で開催。

宮城県

【設問 1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

【医師不足に関する課題】

- 絶対数不足（人口 10 万対医師数（県平均）が全国平均以下）
- 地域偏在（人口 10 万対医師数（二次医療圏別）が、仙台医療圏のみ全国平均を上回り、仙台市に限っては全国平均の約 1.5 倍）
- 診療科による偏在（産科、小児科、救急の医師不足）

【県としての主な取組】

- ドクターバンク事業（本県地域医療に従事する医師を県で採用し自治体病院へ派遣）
- 医学生修学資金貸付事業（医学生に奨学金を貸付け、医師免許取得後一定の地域医療従事を条件に償還免除）
- 医師育成機構運営事業（臨床研修体制の整備、医師のキャリア形成支援等を通じ、医師の招聘・県内定着を促進）
- 研修施設整備への助成（東北大学が整備する地域開放型のスキルズラボや医療手技訓練施設等の整備に助成を行い、医療技術者の研修環境整備促進）  
等

【設問 2】

設問 1 で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※ 24 年度から実施の 5 県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- 地域医療支援センターに相当する業務については、本県の場合「宮城県医師育成機構」（H23.2.8 設立）が担当。
- 東北大学、医師会、医療機関、県の 4 者で構成し、平成 23 年度以降臨床研修医の合同研修会などの各種事業展開を予定していたが、東日本大震災の影響により活動停滞。
- 実質的には平成 24 年度から活動本格化。

【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

ー （設問 2 のとおり）

**【設問4】**

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

－ （設問2のとおり）

**【設問5】**

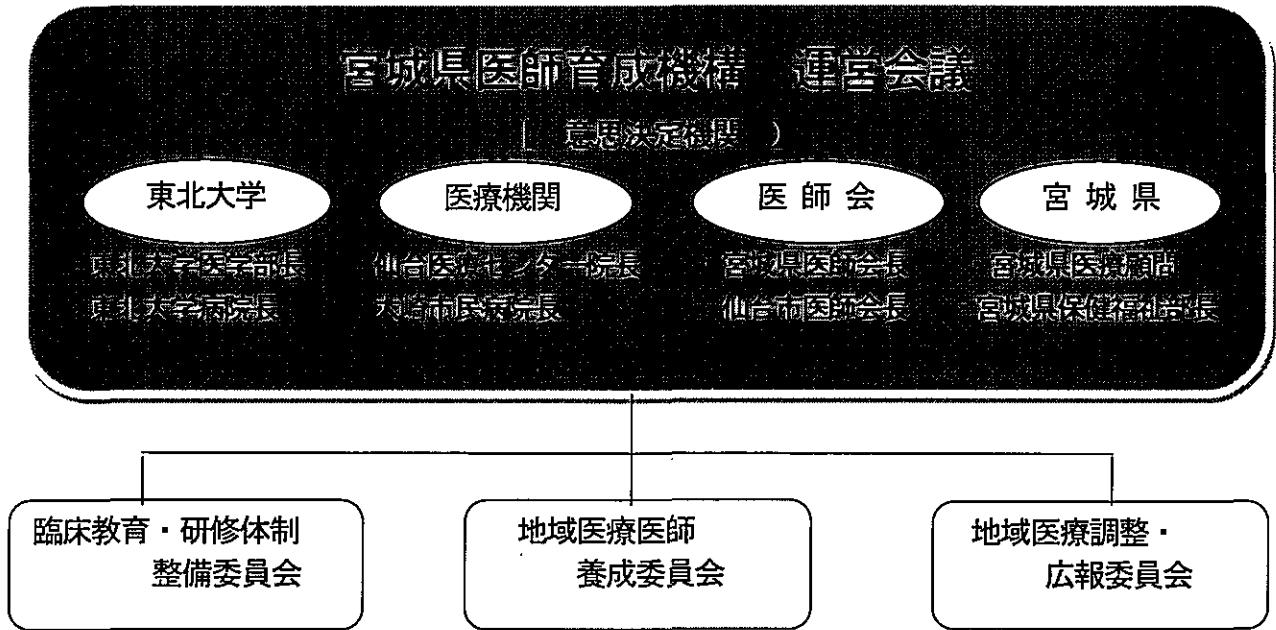
今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- 臨床研修医合同研修会「ウェルカムみやぎ」の開催（4/6に開催済み）
- 医師募集の広報活動（ホームページ開設，業界紙への医師募集広告掲載 等）
- 医師招へい活動（問い合わせ医師の面談・病院見学等を通じ勤務病院斡旋）
- 医師のキャリアプラン作成（修学資金貸付医師，医学生等のキャリア形成支援）

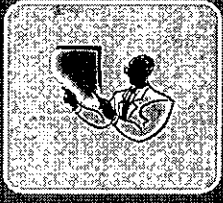
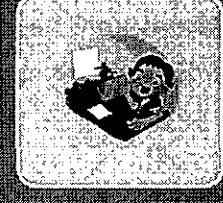
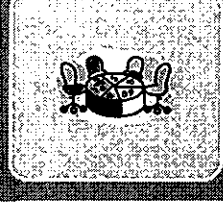
等

～以上～

宮城県医師育成機構 組織体制



宮城県医師育成機構 事業内容

|   |   |
|---|---|
|  | <p><b>臨床教育・研修体制整備委員会</b> ～医療機関の魅力を高めて全国の医師にアピールする～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○臨床研修体制整備・情報発信（合同研修プログラムの作成）</li> <li>○臨床研修医のネットワーク形成（「ウエルカムみやぎ」）</li> <li>○専門医の養成、学位の取得等医師のキャリア形成支援</li> </ul> |
|  | <p><b>地域医療医師養成委員会</b> ～地域医療に従事する医師を育てる～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域枠医師のキャリア形成支援（修学資金貸付医師）</li> <li>○自治医科大学卒業医師のキャリア形成支援</li> <li>○医師を志す高校生支援</li> </ul>                                    |
|  | <p><b>地域医療調整・広報委員会</b> ～医師が安心して働ける環境を整備する～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合相談窓口の設置</li> <li>○地域医療に従事する医師の支援（他科医の調整）</li> <li>○医師のあっせん（ドクターバンク、ドクターキュービッド）</li> <li>○地域医療関係者との意見調整</li> </ul>    |

福島県



地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- 医師の絶対数の不足
  - ・ 福島県立医科大学及び私立大学医学部（地域枠）の定員増
  - ・ 修学資金の貸与
  - ・ ドクターバンクの運営
  - ・ 臨床研修病院合同ガイダンスの開催
  - ・ 福島県立医科大学に配置している地域医療等支援教員の公的病院等への派遣（非常勤）
  - ・ 女性医師への支援（離職防止・再就業の促進）
- 災害による医師不足
  - ・ 全国支援組織（被災者健康支援連絡協議会）からの派遣
  - ・ 福島県立医科大学災害医療支援寄附講座の開設
  - ・ 災害により離職した医師等を雇用する場合等の医療機関への財政的な支援
- 特定診療科医師の不足
  - ・ 研究・研修資金の貸与
  - ・ 手当等を支給する経費や病診連携に取り組む医療機関が支払う経費を補助することで、特定診療科医師の待遇改善
- 医師の地域間及び診療科間の偏在
  - ・ 修学資金の貸与
  - ・ 医学生を対象とした地域医療体験研修の開催

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- 修学資金の貸与及び被貸与者との個別面談等
- ドクターバンクの運営及び県内就業希望医師との個別面談
- 臨床研修病院合同ガイダンスの開催
- 特定診療科医師に対する研究・研修資金の貸与
- 医学生を対象とした地域医療体験研修の開催
- 福島県立医科大学に配置している地域医療等支援教員の公的病院等への派遣
- 女性医師支援

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

- 修学資金の貸与及び被貸与者との個別面談等
  - ・ 修学資金被貸与者 153人(平成23年度現在)
  - ・ 修学資金制度説明会 1回
  - ・ 個別面談 7人
- ドクターバンクの運営及び県内就業希望医師との個別面談
  - ・ 医師からの問合せ 約30件
  - ・ マッチング 5件
- 臨床研修病院合同ガイダンスの開催及び参加
  - ・ 県主催 1回(県内全16臨床研修病院参加 参加医学生 36名)
  - ・ 他主催者の合同ガイダンス等への参加 4回
- 特定診療科医師に対する研究・研修資金の貸与
  - ・ 研修資金 1名
  - ・ 研究資金 1名
- 医学生を対象とした地域医療体験研修の開催
  - ・ 3地域延べ6回
- 福島県立医科大学に配置している地域医療等支援教員の公的病院等への派遣
  - ・ 地域医療等支援教員 90人の配置
  - ・ 派遣回数 5,479回

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

- ・ 修学資金被貸与者との個別面談を予定しているが、修学資金制度が複数あり、また、被貸与者数が非常に多いことから、本人の希望を叶えつつ、県が抱える医師不足及び診療科偏在といった問題の解消を図りながら、一人ひとりのキャリアデザインを提示することは難しい。

### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・ 設問2の事業を引き続き実施
- ・ 修学資金被貸与者、自治医科大学卒業生等地域医療を担う医師のスキルアップを図る研修会等の実施
- ・ 地域医療を担う若手医師のスキルアップを図る研修会等の実施

# 平成24年度 福島県へき地医療等医師確保修学資金 修学生募集

福島県へき地医療等医師確保修学資金は、将来県内のへき地診療所等又は県立病院に医師として勤務しようとする医学部の学生に対し貸与するものです。

大学の医学部を卒業した後、2年以内に医師となり、臨床研修終了後県内のへき地診療所等に修学資金の貸与期間と同じ期間勤務した場合は、修学資金の返還の債務の全部を免除するほか、一定の事由に該当する場合は、返還の債務の全部又は一部を免除します。

## 1 貸与対象者

学校教育法第1条に規定する大学（大学院を除く。）の医学を履修する課程に在学する者で、将来県内のへき地診療所等又は県立病医院に医師として勤務する意思のある方。

○ 平成24年4月に入学した方だけでなく、2学年以上の方についても対象となります。

## 2 貸与額

**修学資金月額 235,000円**

**入学金に相当する額 1,000,000円（上限）**

○ 修学資金月額は平成24年4月分から貸与します。

○ 入学金に相当する額は平成24年度入学者を対象とし（希望者のみ）、各大学の入学金の額に同じ100万円を上限として貸与します。

## 3 貸与期間

契約に定められた月から大学を卒業する日の属する月までの間、毎月1月分ずつ貸与します。（正規の修業期間に限ります。）ただし、入学金に相当する額は、修学資金月額の初回貸与時に加算して貸与します。

4 募集人員 3名

5 募集期限 平成24年4月25日（水）まで

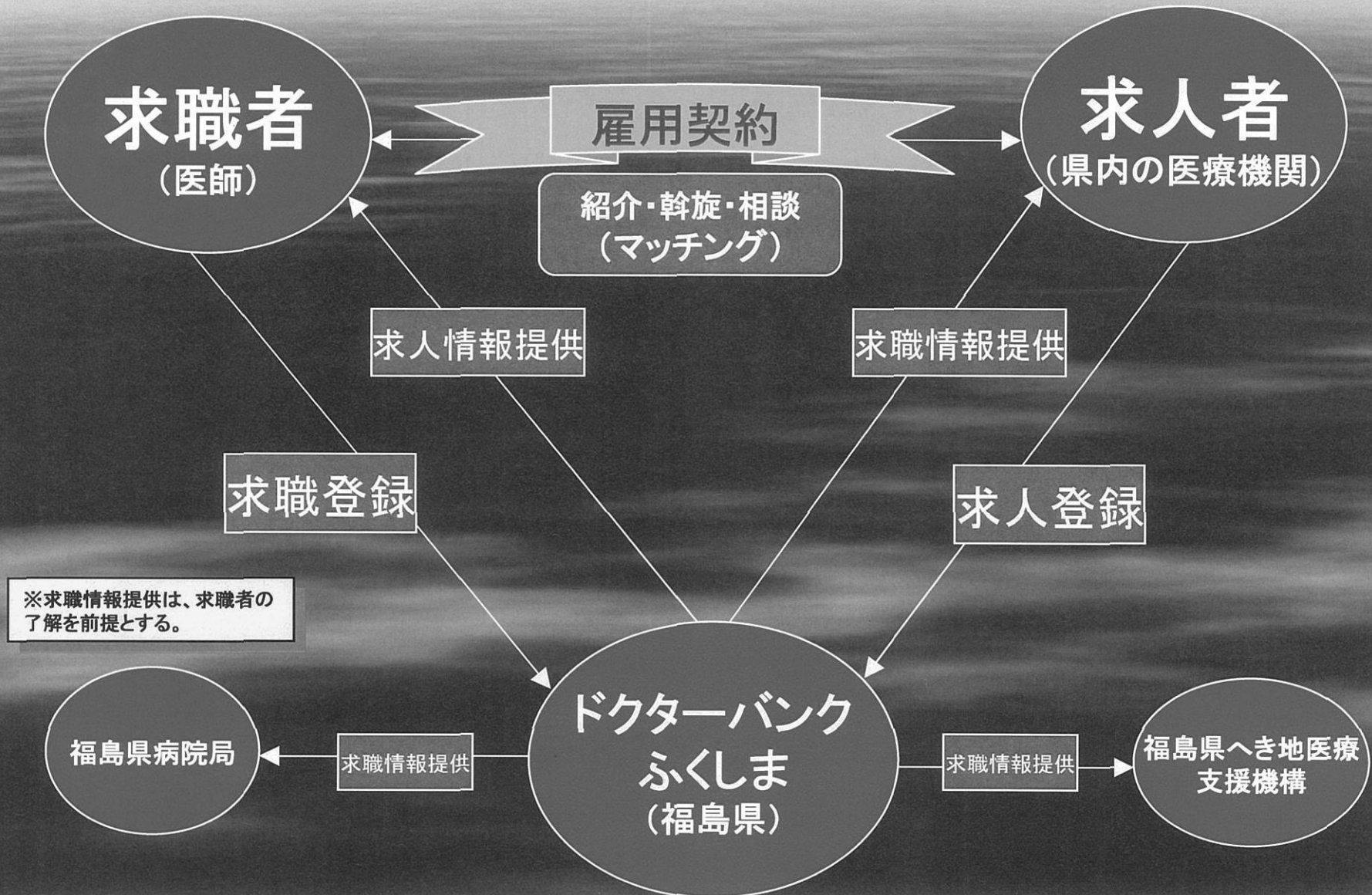
## 6 問合せ先

福島県地域医療支援センター TEL 024-547-1711  
（福島県地域医療支援センターのホームページに内容を掲載）

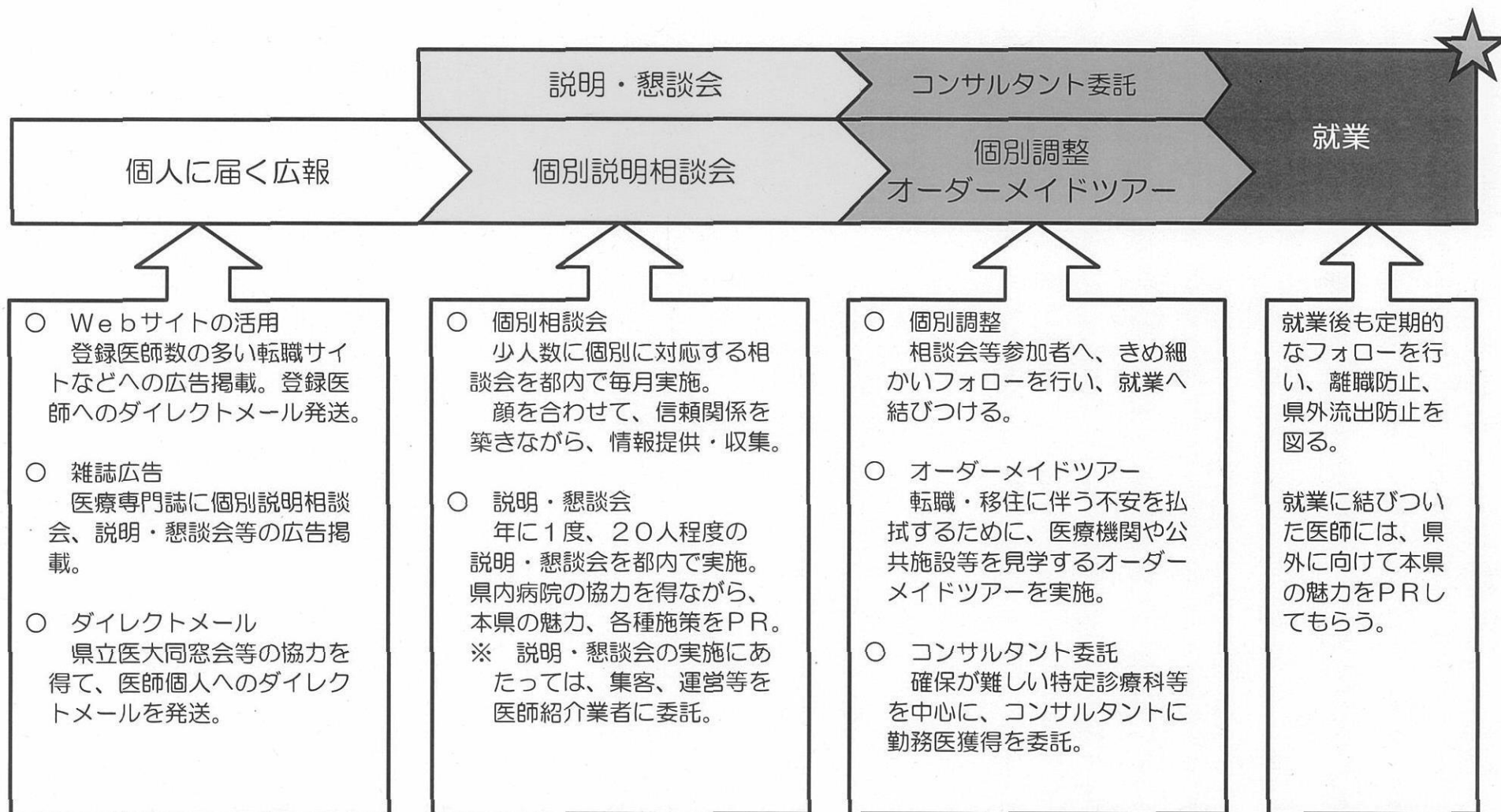
申請方法等詳細については、大学に送付している

「平成24年度福島県へき地医療等医師確保修学資金修学生募集のお知らせ」  
または、上記福島県地域医療支援センターのホームページをご覧ください。

# 「ドクターバンクふくしま」事業



●医師マッチング事業の展開



# 福島県 臨床研修病院 合同ガイダンス 2012 in 福島

日時

平成24年 **3/3** 土

13:30 ▶ 16:30

13:00～受付開始

参加無料  
学年不問

会場

福島県立医科大学 5号館 講義棟

※県外からお越しの医学生につきましては、福島駅から会場までの送迎を行います。当日12時30分までに、JR福島駅西口改札前にお集まりください。(要予約)

内容

- 各病院ごとのブースで個別説明・相談
- 各病院によるプレゼンテーション

申込方法

参加希望の方は電話・FAXまたはメールで「氏名・大学名・学年・連絡先・送迎の要/不要」を、下記までお知らせください。

TEL024-547-1711

FAX024-547-1715

E-mail: rmsc@pref.fukushima.jp

問い合わせ

福島県地域医療支援センター

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地  
TEL024-547-1711 FAX024-547-1715  
E-mail: rmsc@pref.fukushima.jp

臨床研修病院に関する情報 > ふくしま臨床研修 検索

主催

福島県臨床研修病院等連絡会議  
福島県臨床研修病院ネットワーク



## ■ 福島県の臨床研修病院 [16 病院]

- ① 公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 (福島市)
- ② 財団法人 大原綜合病院 (福島市)
- ③ 福島医療生活協同組合 医療生協 わたり病院 (福島市)
- ④ 日本赤十字社福島県支部 福島赤十字病院 (福島市)
- ⑤ 公立藤田綜合病院 (伊達郡国見町)
- ⑥ 財団法人太田綜合病院 附属 太田西ノ内病院 (郡山市)
- ⑦ 財団法人 星綜合病院 (郡山市)
- ⑧ 財団法人脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院 (郡山市)
- ⑨ 財団法人海援報恩会 寿泉堂綜合病院 (郡山市)
- ⑩ 公立岩瀨病院 (須賀川市)
- ⑪ 福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生綜合病院 (白河市)
- ⑫ 財団法人 竹田綜合病院 (会津若松市)
- ⑬ 福島県立会津綜合病院 (会津若松市)
- ⑭ 財団法人温知会 会津中央病院 (会津若松市)
- ⑮ いわき市立総合鶴城共立病院 (いわき市)
- ⑯ 独立行政法人労働者健康福祉機構 福島労災病院 (いわき市)

福島県地域医療支援センター 行

福島県臨床研修病院  
合同ガイダンス2012 in 福島  
参加申込書

この面を  
FAX 024-547-1715  
まで送信してください

|         |        |     |  |     |  |    |  |   |  |
|---------|--------|-----|--|-----|--|----|--|---|--|
| 氏名      |        |     |  | 大学名 |  | 学年 |  | 年 |  |
| 連絡先     | 住所     | 〒   |  |     |  |    |  |   |  |
|         | 電話番号   | ( ) |  |     |  |    |  |   |  |
|         | E-mail |     |  |     |  |    |  |   |  |
| 送迎の要/不要 | 要      | 不要  | ※提出いただいた個人情報、県が行っている医師支援策や臨床研修に関する情報提供をすること以外には使用しません。 |     |  |    |  |   |  |

用紙方向

# 福島県 臨床研修病院 合同ガイダンス 2012 in 福島

平成24年

**3/3** 土

参加無料  
学年不問

13:30 ▶ 16:30

13:00～受付開始

会場

福島県立医科大学  
5号館 講義棟

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地  
TEL 024-547-1711

## ■ 参加病院 (16 病院)

- |          |  |
|----------|--|
| 【福島市】    | ① 福島県立医科大学附属病院<br>② 大原綜合病院<br>③ 福島赤十字病院        |
| 【伊達郡国見町】 | ⑤ 公立藤田綜合病院                                     |
| 【郡山市】    | ⑥ 太田西ノ内病院<br>⑦ 星綜合病院<br>⑧ 総合南東北病院<br>⑨ 寿泉堂綜合病院 |
| 【須賀川市】   | ⑩ 公立岩瀨病院                                       |
| 【白河市】    | ⑪ 白河厚生綜合病院                                     |
| 【会津若松市】  | ⑫ 竹田綜合病院<br>⑬ 福島県立会津綜合病院<br>⑭ 会津中央病院           |
| 【いわき市】   | ⑮ いわき市立総合鶴城共立病院<br>⑯ 福島労災病院                    |



問い合わせ

福島県地域医療支援センター

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地 TEL024-547-1711 FAX024-547-1715  
E-mail: rmsc@pref.fukushima.jp

臨床研修病院に関する情報 > ふくしま臨床研修 検索

# 平成24年度 福島県特定診療科医師研究資金 貸与希望者募集のお知らせ

**福島県は、県外から転入され、福島県の地域医療に貢献していただける方を応援します！**

- 福島県では、**福島県外から転入され、新たに福島県内の医療機関の産科、小児科又は麻酔科の医師としてその診療に従事される方へ研究に必要な資金（最高300万円）を貸与**します。
- 所定の条件を満たしますと、**貸し付けた資金の全額について返還を免除**します。

## 1 対象者

次のいずれにも該当する医師の方が対象となります。

- 福島県外から転入された方
- 転入に伴い新たに福島県内の医療機関において、産科、小児科又は麻酔科の医師としてその診療に従事される方

※ 次のいずれかに該当する医師の方は対象外となります。

- 小児科又は麻酔科の医師で診療所で従事されようとしている方
- 非常勤の方
- 臨床研修又は後期研修中の方
- 福島県等から医師研究資金等の貸与を受け、その返還が済んでいない方
- 福島県から医師修学、医師研修資金等の貸与を受け、その返還が済んでいない方

## 2 貸与額

300万円 又は 200万円

## 3 貸与方法

貸与決定後、貸与額は一括で被貸与者名義の口座に振り込みます。

## 4 募集人数

- 300万円 …… 3名
- 200万円 …… 3名

## 5 返還免除

産科、小児科又は麻酔科の医師としてその診療に従事した期間が次の期間を経過した場合、貸与を受けた**研究資金の全額の返還が免除**されます。

- 300万円 …… 3年
- 200万円 …… 2年

## 6 返 還

次のいずれかに該当した場合、貸与を受けた研究資金の総額の返還及びその利息の支払いが必要となります。

- 福島県と被貸与者が締結した研究資金の貸与に関する契約が次の事由で解除された場合
  - 研究資金の貸与を受けることを辞退した場合
  - 研究資金の貸与の目的を達成する見込みがなくなったと認められる場合
- 福島県内の医療機関の産科、小児科又は麻酔科の医師として診療を行わなくなった場合（ただし、5に該当する場合は返還が免除されます。）

※ 当該貸付金は、返還免除時に免除額の一部が所得とみなされ課税される場合があります。詳しくは、お近くの税務署にて御相談ください。

## 7 申請方法

以下の書類を下記申請先まで郵送又は持参してください。

- (1) 特定診療科医師研究資金貸与申請書（様式第1号）
- (2) 県内医療機関特定診療科診療従事証明書（様式第2号）
- (3) 医師免許証の写し
- (4) 戸籍の附票、住民票の写し、その他の県外から転入したことを証する書類
- (5) 履歴書

※ (1) 及び (2) については、ダウンロードが可能です。

なお、以下のキーワードを入力し検索しますと、「福島県特定診療科医師研究資金」に関するWEBページへ容易にアクセスすることが可能です。

福島県特定診療科  検索

## 8 申請上の注意

研究資金の貸与を受ける場合、成年者で独立の生計を営み、研究資金の返還及び利息の支払いの責任を負うことができる資力を有する**保証人1名が必要**となります。

## 9 申請期限

募集人数に達するまで

※ あらかじめ下記の問い合わせ先まで連絡願います。

## 10 選考方法及び結果通知

申請書類及び面接審査により選考し、貸与の可否を書面で申請者に通知します。

## 11 申請先及び問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地  
福島県地域医療支援センター

電話 024-547-1711 FAX 024-547-1715

電子メールアドレス rmsc@pref.fukushima.lg.jp

## 平成23年度地域医療体験研修(冬期)日程表

| 月日              | 時間              | 行程            | 場所等                         |
|-----------------|-----------------|---------------|-----------------------------|
| 2月24日<br>(金)    | 9:00~<br>11:00  | 移動 (福島市→柳津町)  | 福島駅西口 8:30 発<br>県立医大 9:00 発 |
|                 | 11:00~<br>12:00 | 柳津町国保診療所 視察   | 柳津町                         |
|                 | 12:00~<br>13:00 | 昼食            | 柳津町                         |
|                 | 13:00~<br>13:30 | 移動 (柳津町→三島町)  |                             |
|                 | 13:30~<br>15:00 | 福島県立宮下病院 視察   | 三島町                         |
|                 | 15:00~<br>15:15 | 移動            |                             |
|                 | 15:15~<br>17:30 | 郷土料理作り、餅つき体験  |                             |
|                 | 17:30~<br>19:00 | 医療従事者・住民との懇談会 | 三島町<br>「森の校舎 カタクリ」          |
|                 | 19:00~<br>20:30 | 学生によるディスカッション |                             |
| 2月25日<br>(土)    | 7:30~<br>8:30   | 朝食            | 三島町<br>「森の校舎 カタクリ」          |
|                 | 8:30~<br>9:00   | 住民宅へ移動        |                             |
|                 | 9:00~<br>10:45  | 雪かたし体験        | 三島町                         |
|                 |                 | 住民宅での懇談       |                             |
|                 | 10:45~<br>12:00 | 移動 (三島町→猪苗代町) |                             |
|                 | 12:00~<br>12:45 | 昼食            | 猪苗代町                        |
|                 | 12:45~<br>13:45 | 野口英世記念館 見学    |                             |
| 13:45~<br>15:30 | 移動 (猪苗代町→福島市)   | 福島駅西口 15:00 着 |                             |
|                 |                 | 福島医大 15:30 着  |                             |

# 地域医療体験研修

## 参加者募集

奥会津地域の地域医療と  
地域文化に触れてみませんか？

【参加費】  
**無料**

### 平成24年 2月24日(金)~25日(土)

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 【研修内容】                                | 〈1日目〉・地域医療現場の視察<br>(柳津町国保診療所・福島県立宮下病院視察予定)<br>・医療従事者との意見交換会<br>・郷土料理作り、餅つき体験<br>〈2日目〉・雪かたし体験、地域住民との懇談<br>・野口英世記念館見学 |
| 【対象者】                                 | 地域医療に関心を持つ医学部学生   |
| 【募集定員】                                | 15名程度 ※定員になり次第締め切ります  |
| 【集合場所】                                | JR福島駅、または福島県立医科大学   |
| 【申込み方法】<br>右記のいずれかの方法で<br>申込みをしてください。 | ① FAXで申込書を下記宛てに送付<br>② 電子メール(下記QRコード)で必要事項を送信<br>③ 電話(0242-29-5506)で申込み   |



〔申込み・お問い合わせ先〕

福島県会津保健福祉事務所 総務企画部 総務企画課  
 電話 0242-29-5506 FAX 0242-29-5509  
 E-mail aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.jp  
 ホームページ ⇒ [奥会津の地域医療](#)

(メールでの申込み)





## 研修後に寄せられた体験談

〔平成 23 年度夏期研修参加者〕

今回の研修に参加し、様々なことを勉強させて頂きましたが、特に医療従事者と地域住民の方々との信頼関係の重要性を感じました。今回、視察した医療機関において、利用者の方々の御意見を伺う機会がありましたが、何においてもこのような医療機関の存在に感謝されていることが印象的でした。改めて、医療の充実というものが、生活の安心に直結していると実感しました。また、地域住民からの信頼感が、医師としての充実感ともなっているのであろうとも感じることができました。

昨今、医療訴訟の問題をよく耳にしますが、信頼関係が強い奥会津地方のような地域はある意味、医療の過疎地域ではないのかもかもしれないと感じました。

また、今回の研修で最も感じたことは、医療従事者は患者の苦しみを癒したいという誠意と真摯さでもって仕事に取り組んでおられる、そしてそれが医療従事者としての基本であるということを実感しました。

〔平成 23 年度夏期研修参加者〕

私は、神奈川県横浜市出身で都市部から離れた場所にある病院やそこでの医療がどのようなものなのか、今まで実際に見たことがありませんでした。小さな時に「Dr.コトー診療所」というドラマを見て、「何となく大変だけどやりがいのある仕事」なのだろうと思いました。しかし、今回の研修で実際に地域医療従事者の方や、住民の方のお話を聞き、本当にやりがいのある素敵な仕事だと思え、私もこのようなところで医師として医療に携わってみたいと思いました。

また、医師と患者さんとの距離感が近く、お互いの信頼関係が築かれていると感じました。地域で働く医師は、医師としての仕事の他に、夏は草刈り、冬は雪かきなどもしなければならぬとおっしゃっていて、地域とともに生活している医師の姿がとても印象に残りました。

普段ではできない貴重な体験ができました。このような地域の魅力をもっと多くの人に知ってほしいと思います。

〔平成 22 年度以前の研修参加者〕

〇様々な医師の生き方、ポリシーを聞くことで、自分の医師像、将来のビジョンを持つ手助けにもなりました。

〇地域医療と、自分の医師となるべきモチベーションに対する考えが深まり、とても良い機会を得たと思いました。

〇今までイメージしていた「診療所」とは全く異なる様子に驚きました。百聞は一見にしかず。実際、地域医療の現場をみられて良かったです。

〇今回出会った医師たちは、大学病院で手術や研究をする医師と同じで、地域医療のスペシャリストだと思いました。

〇私は、いわゆる「町医者」として、地域住民と深く付き合っていくことのできる医師になりたいと改めて思いました。

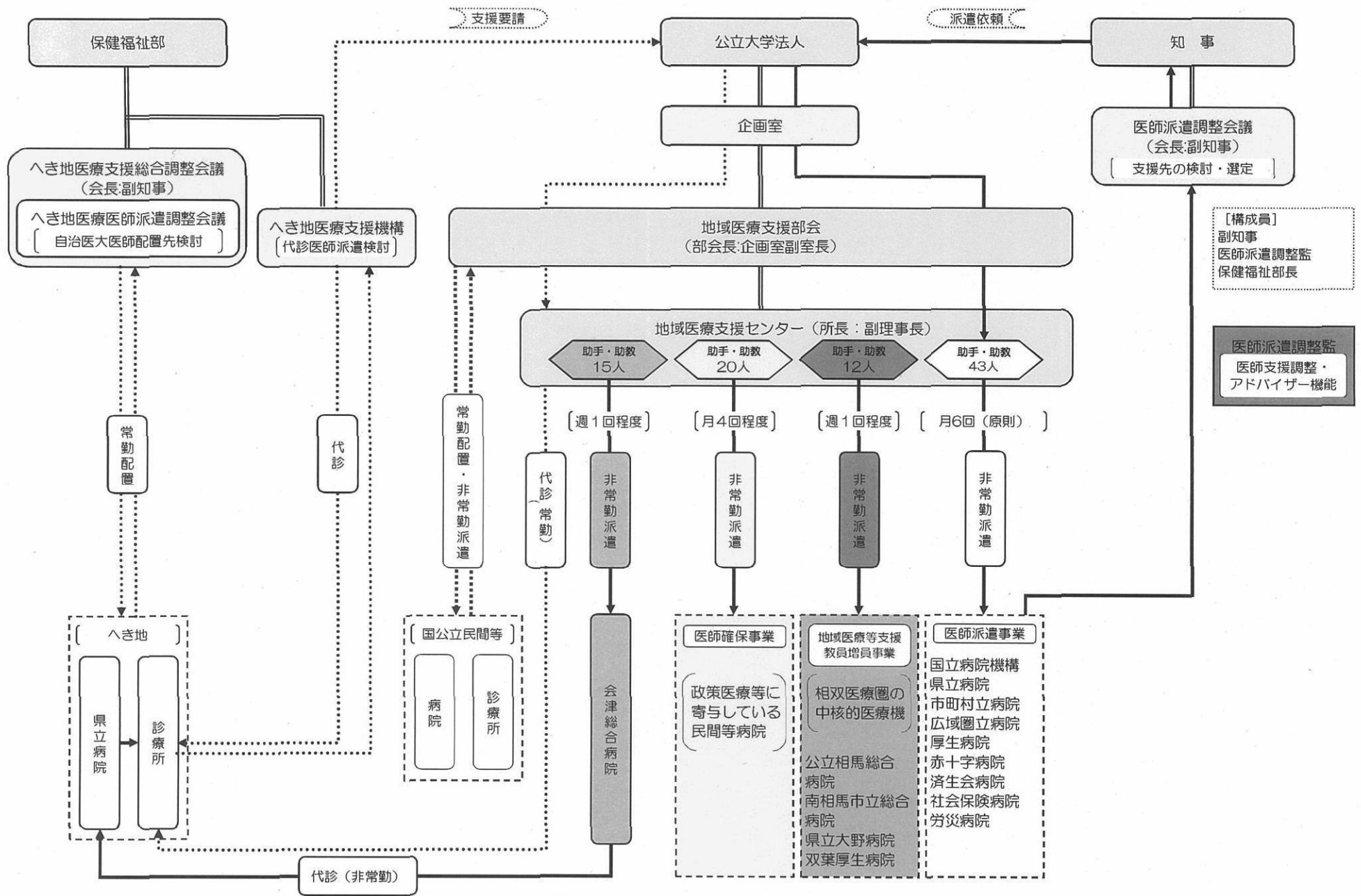
〇医師になってからでは、忙しく休みもとることが難しくなってくると思うので、学生のうちにこのような体験ができてとても良かった。

〇自らの目で見て、その地域に住む人々と向かい合い、話を聞いて、その上でまた自分で深く考える。それによって、一歩先の未来がビジョン化されると思います。それをしなければ、実情を知っているということにはなりませんし、自分の持っている知識も、ただ誰かから聞いたとか、何かで見たとかいう、その段階で止まってしまう事が分かりました。

〇他の大学の学生さん達との懇談も良い刺激、良い経験になった。



# 医師派遣システム



# 茨城県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- 本県の人口10万人当たりの医師数は166.8人であり、全国46位と低位にある。また、二次保健医療圏別では、9つのうち6つの医療圏で全国平均の半分に満たないなど医師の地域偏在が見られる。
- 医師の絶対数を確保するとともに、県北地域をはじめとした医師不足地域への医師の確保を図っていく必要がある。
- また、救急医療など政策的な医療提供体制を確保するとともに、医師不足診療科である小児科、産婦人科などの医師を確保していく必要がある。
- さらに、震災の影響により、医師の県外流出や新規就業のキャンセルなどが見られるなど、本県の医師確保に関する情勢は震災前とは一変し、極めて深刻な状況となっている。そのため、医師確保のための総合相談窓口を設置し、高校生・医学生・研修医・医師などそれぞれの段階に応じた総合的な医師確保対策を講じている。
  - ・地域枠や修学資金の貸与などによる地域医療を担う医師の養成・確保
  - ・筑波大学をはじめ5つの医科大学に設置している寄附講座を活用した、医師不足地域等への医師の確保

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- 地域枠学生や修学生との個別面談を実施し、状況把握や意識啓発、県内臨床研修病院の状況や、県の支援制度について情報提供を実施。
- 新6年生を対象に県内臨床研修病院へのマッチングに向けた意識付けを行うため卒後進路セミナーを開催

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

個別面談 : 面談者97名（対象者101名）  
卒後進路セミナー : 8名  
地域枠の設置 : 5大学25名（H24年度貸与者累計61名）  
修学資金貸与者 : H24年度予定 61名

#### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- 医師不足地域の指定医療機関での一定期間の従事義務など、派遣調整が可能となるような制度の検討。
- 地域枠や修学生が義務年限を離脱することなく、地域医療に従事できるような魅力ある研修環境の構築。

#### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

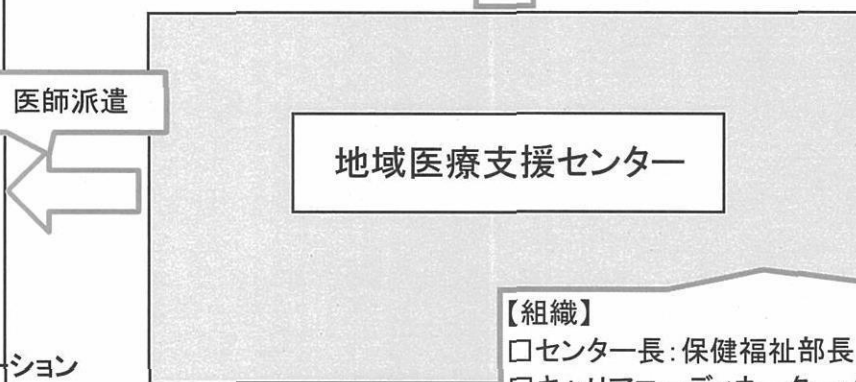
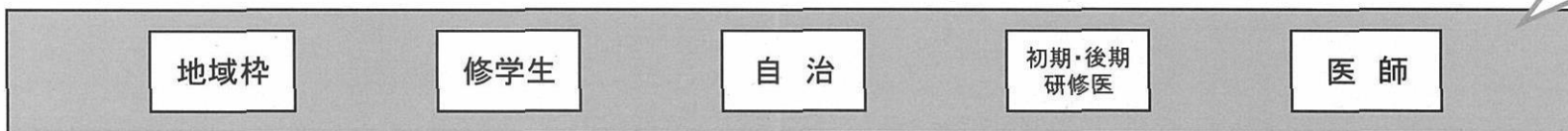
- 修学生医師や修学生を対象に、毎年、キャリアコーディネーターによる個別面談を実施し、地域医療に従事しながらでも、本人の志向に配慮したキャリア形成ができるようオーダーメイドのキャリア形成支援を実施。
- 地域医療に従事することへの不安の解消や、修学生や修学生医師間の連帯感や地域医療に従事する使命感を醸成するため、修学生の集いや修学生ゼミを開催。
- 医学への関心と本県の地域医療に貢献する意識を高め、将来の地域医療を担う人材を育成するため、高校生を対象とした病院見学会や医学生を対象とした地域医療セミナーなどを開催。
- 若手医師の研修環境の充実を図るため、地域医療に従事しながらでも、最新の医療技術等が学べるよう研修会・セミナー等を開催。

# 【地域医療支援センターの実施スキーム】

## 【センター設置の考え方】

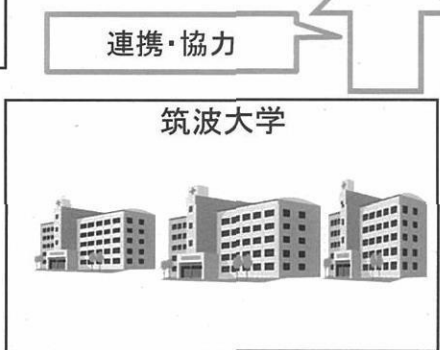
- センターは、医師修学資金や県地域枠の卒業医師をはじめとする若手医師のキャリア形成支援を行う。
- センターには、専任の医師であるキャリアコーディネーターを配置するとともに、教育インストラクターやアドバイザーなどのサポートスタッフ医師等を委嘱する。

ターゲット



- ### <センターの主な業務>
- ①地域枠等医師のキャリア形成支援
  - ②医師不足地域の病院等への医師派遣調整
  - ③地域医療に従事する医師の支援
  - ④総合相談窓口の設置と情報発信
  - ⑤指導医の養成と研修体制の整備
  - ⑥地域医療関係者との意見調整

【全体調整・意見聴取】  
県地域医療対策協議会(委員20名)



- ### 【組織】
- センター長:保健福祉部長, 副センター長:医監, 医師確保対策室長
  - キャリアコーディネーター:3名(うち1名は副センター長兼務)<任期2年間>
  - 専従事務職員:3名
  - サポートスタッフ医師等を委嘱(教育インストラクター4名, アドバイザー3名)<任期:2年間>
- ### 【運営】
- 地域医療支援センター運営委員会にて運営全般や派遣調整方針を協議する。<任期2年間>
  - ※運営委員会17名:センター長, 初期・後期研修病院代表, 医師不足地域病院代表, 地域枠関連病院代表, 県医師会, 筑波大学, キャリアコーディネーター, 教育インストラクター
  - ・運営委員会では, 県地域医療対策協議会で審議するキャリア形成支援や派遣調整のための原案を協議・作成する。
  - ・各年度ごとに実施する事業の協議・承認を行う。
  - その他, 地域枠大学協力員・臨時講師を配置(必要に応じて依頼)

6. 運営委員会:17名<任期2年間>

| 所属            | 役職等              | 氏名    |
|---------------|------------------|-------|
| センター長         | 茨城県保健福祉部長        | 土井 幹雄 |
| 日製日立総合病院      | 副院長              | 藤田 恒夫 |
| 筑波メディカルセンター病院 | 救命救急センター長        | 河野 元嗣 |
| 茨城西南医療センター病院  | 内科部長             | 飯塚 正  |
| 北茨城市立総合病院     | 外科部長             | 小出 綾希 |
| 常陸大宮済生会病院     | 副院長              | 小島 正幸 |
| なめがた地域総合病院    | 副院長              | 湯原 孝典 |
| 土浦協同病院        | 小児科部長            | 渡部 誠一 |
| 東京医大茨城医療センター  | 副センター長, 集中治療部准教授 | 柳田 国夫 |
| 県医師会          | 常任理事             | 山脇 英範 |
| 筑波大学          | 総合臨床教育センター部長     | 前野 哲博 |
| 茨城県地域医療支援センター | キャリアコーディネーター     | 小島 寛  |
| 茨城県地域医療支援センター | キャリアコーディネーター     | 荒井 康之 |
| 茨城県地域医療支援センター | 教育インストラクター4名     | 3のとおり |

【地域医療対策協議会:20名】<任期1年間(再任可)>

| 所属            | 役職等         | 氏名     |
|---------------|-------------|--------|
| 筑波大学附属病院      | 院長          | 五十嵐 徹也 |
| 東京医大茨城医療センター  | センター長       | 松崎 靖司  |
| 水戸医療センター      | 院長          | 園部 眞   |
| 水戸済生会総合病院     | 院長          | 村田 実   |
| 茨城県立こども病院     | 院長          | 土田 昌宏  |
| 日製日立総合病院      | 院長          | 奥村 稔   |
| 北茨城市立総合病院     | 院長          | 植草 義史  |
| 土浦協同病院        | 院長          | 家坂 義人  |
| 筑波メディカルセンター病院 | 院長          | 軸屋 智昭  |
| 常陸大宮済生会病院     | 院長          | 伊東 紘一  |
| 西南医療センター病院    | 院長          | 亀崎 高夫  |
| なめがた地域総合病院    | 院長          | 田畑 均   |
| 茨城県           | 病院局病院事業管理者  | 金子 道夫  |
| 茨城県医師会        | 副会長         | 諸岡 信裕  |
| 茨城県男女共同参画委員会  | 委員長         | 青木かを里  |
| 自治体病院協議会      | 茨城県支部長      | 永井 秀雄  |
| 茨城県医療改革担当顧問   | 茨城県医療改革担当顧問 | 山口 巖   |
| 筑波大学          | 産婦人科教授      | 吉川 裕之  |
| 茨城県看護協会       | 会長          | 村田 昌子  |
| 茨城県消防長会       | 会長          | 木内 倉治  |

【地域医療支援センター構成メンバー】

1. 正副センター長及び顧問:4名

| 所属     | 役職等         | 氏名    |
|--------|-------------|-------|
| センター長  | 茨城県保健福祉部長   | 土井 幹雄 |
| 副センター長 | 茨城県医師確保対策室長 | 藤枝 昭司 |
| センター顧問 | 茨城県医療改革担当顧問 | 山口 巖  |

2. キャリアコーディネーター:2名<任期2年間(再任可)>

| 所属          | 役職等  | 氏名    |
|-------------|------|-------|
| 茨城県立中央病院    | 副院長  | 小島 寛  |
| 生きいき診療所 ゆうき | 診療所長 | 荒井 康之 |

3. 教育インストラクター:4名<任期2年間(再任可)>

| 所属        | 役職等                         | 氏名     |
|-----------|-----------------------------|--------|
| 水戸協同病院    | 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合診療科教授 | 徳田 安春  |
| 水戸済生会総合病院 | 消化器内科部長                     | 鹿志村 純也 |
| 水戸医療センター  | 内科医長                        | 米野 琢哉  |
| 茨城県立中央病院  | 救急部長代理                      | 関 義元   |

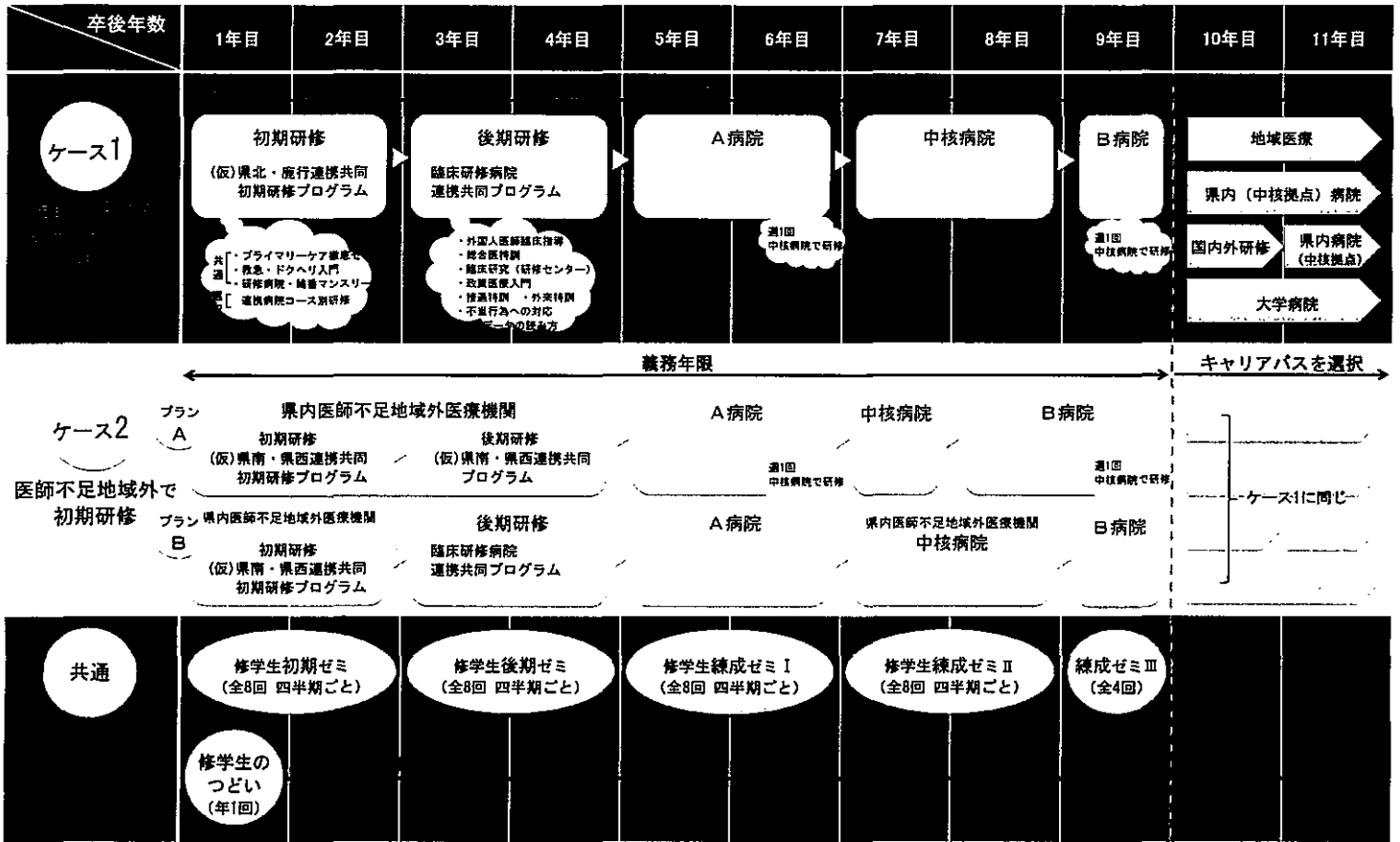
4. アドバイザー:3名(旧医師確保対策監)<任期2年間(再任可)>

| 所属             | 役職等 | 氏名     |
|----------------|-----|--------|
| 茨城県立中央病院       | 副院長 | 吉見 富洋  |
| 北茨城市立総合病院(県派遣) | 院長  | 植草 義史  |
| つば保健所          | 所長  | 石田 久美子 |

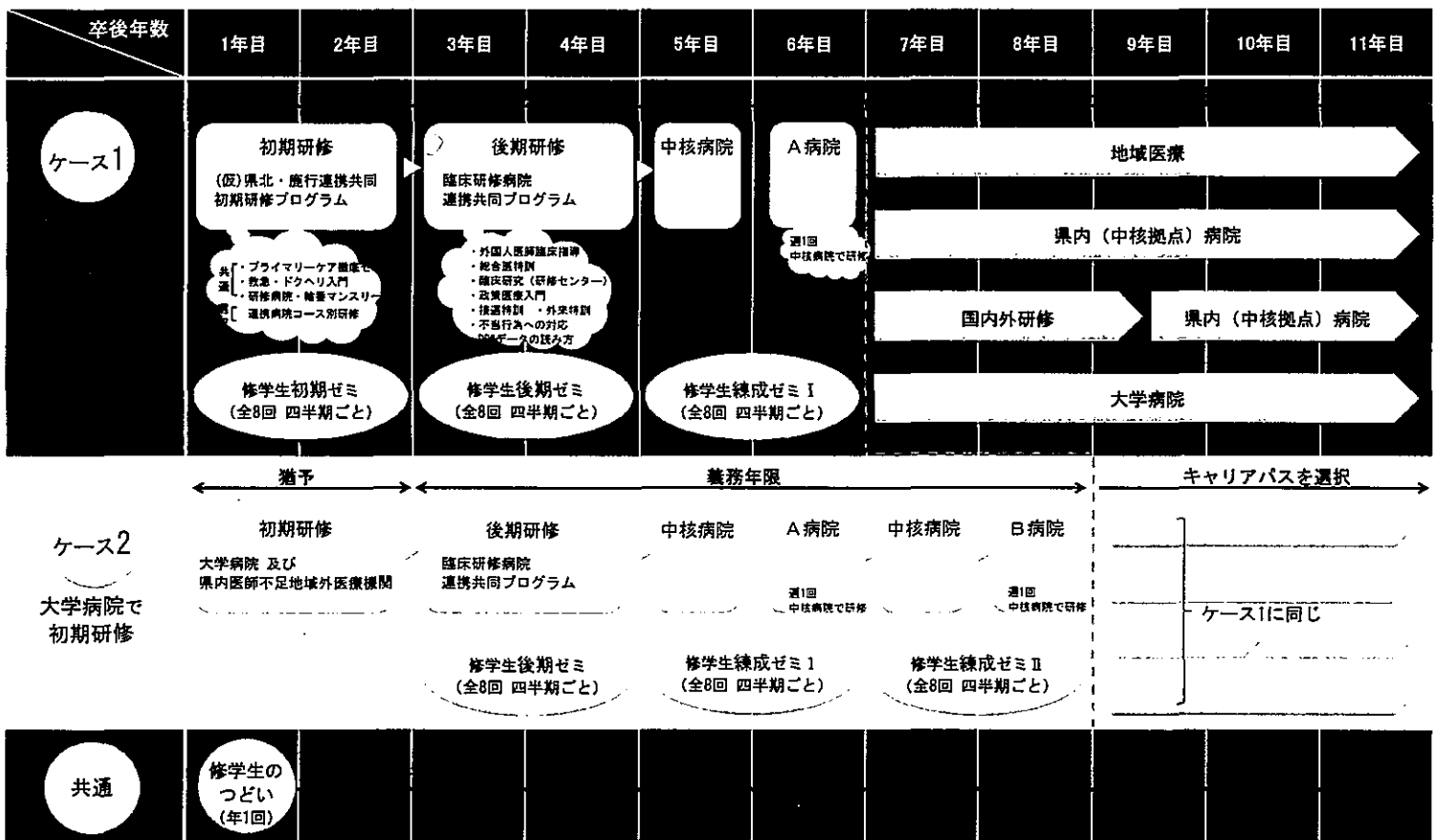
5. 外部協力員:4名【県外地域梓関連大学】

| 所属       | 役職等                                  | 氏名    |
|----------|--------------------------------------|-------|
| 東京医科歯科大学 | 大学院医師学総合研究科<br>小児・周産期地域医療学講座 寄附講座 教授 | 宮坂 尚幸 |
| 東京医科大学   | 放射線医学講座 主任教授                         | 徳植 公一 |
| 杏林大学     |                                      | 調整中   |
| 日本医科大学   |                                      | 調整中   |

地域枠修学生キャリアパス案(義務年限9年の場合)



修学生キャリアパス案(義務年限6年の場合)





#### 4 個別面接・相談支援

##### (1) 目的

- ◎修学生として充実した学生生活を送るとともに、将来、茨城の地域医療を担う使命感と意欲の維持、発展
- ◎将来への不安なく、夢と希望を持って茨城の医療に従事できるようサポート

##### (2) 対象

修学生（全学年）

##### (3) 時期及び趣旨

- 1～4年生：夏休み（8～9月）または冬休み（12月）→年1回  
修学状況など
- 5年生：夏休み（8～9月）と春休み（3月※卒後進路セミナーと同時）→年2回  
進路、マッチング希望病院など
- 6年生：冬休み（12月）  
研修病院決定後、具体的なキャリアパスの相談、策定  
※今年度はマッチング前の6月頃の開催を検討

#### 5 卒後進路セミナー

##### (1) 目的

県内臨床研修病院へのマッチングに向けたサポートを行う。

##### (2) 対象

修学生（新6年生）

##### (3) 時期

春休み中（3月下旬）

##### (4) 内容

- ・県内臨床研修病院の指導医による講話
- ・マッチングに関する個別相談会
- ・懇親会

#### 6 その他

- 研修医向けセミナー等についても、医学生に参加案内するもの有。

#### 【地域医療支援センターの当面の検討事項】

##### (1) 派遣調整ルールの策定

##### (2) 修学生医師へのキャリア形成支援

- ・個別面談とキャリアアップ支援
- ・各種研修事業の具体的カリキュラム等
- ・修学生医師のネットワークづくり（修学生医師のつどい等の企画、運営）

#### 1 新入生オリエンテーション

##### (1) 目的

修学生としてのモチベーション向上及び同期の連帯感醸成

##### (2) 対象

地域枠新入生、修学生新入生、自治医大新入生

##### (3) 時期

大学入学前の春休み中（3月）

##### (4) 内容

- ・県内の指導医による講話（医師になるための心構え、望まれる医師像など）
- ・茨城県について知る
- ・修学生のネットワークづくり

#### 2 修学生の集い（地域医療セミナー・合宿形式）

##### (1) 目的

- ・修学生同士の連帯感を深める。
- ・地域医療について学ぶ
- ・医療技術を学ぶ
- ・キャリアコーディネーターや先輩との意見交換を通じて将来のキャリアについて考える。

##### (2) 対象

修学生(全学年) 1～4年生  
5, 6年生 に分けて実施

##### (3) 時期

夏休み期間中など、宿泊研修

##### (4) 内容

- ・地域医療に関する講義
- ・医師不足医療機関、診療所見学
- ・修学生医師（先輩）とのディスカッション

#### 3 病院見学会

##### (1) 目的

県内の医療事情についての知識を深める機会とする。

##### (2) 対象

全学年

##### (3) 時期

長期休暇期間中

##### (4) 内容

- ・県内医療機関の見学（医師不足医療機関、臨床研修病院）
- ・現場で活躍する医師との意見交換
- ・茨城県の医療事情に関する講話

千禧果

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

本県は人口10万人対医師数が全国平均に比して著しく低い水準にあり、特に地域によっては医師不足から病院経営に支障をきたしている状況である。このため、県では医師修学資金貸付制度等や研修医の定着化対策、医師のキャリア形成支援、ドクターバンク事業などに取り組んでいるところである。

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

大学医学部付属病院や臨床研修病院、県医師会が中心となって設立されたNPO法人による若手医師に対する研修情報等の提供や、医師のキャリアアッププランのアドバイスなどの支援を行っており、平成23年12月から千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター事業として医師のキャリア形成を精力的に支援している。

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

地域の自治体病院の経営が困難になるなか、地域医療に従事する医師を確保することが喫緊の課題であり、地域枠医師の活用や地域医療に関心を持つ医師の把握をいかにセンターが効果的に役割を担えるかの仕組みを今後短期間で整えていく必要がある。

**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

地域医療を志向する医師を増やしていくため、病院見学サポート事業や見学レポートの公開を行い、民間主催の研修病院セミナーへの参加を促進する。医師のキャリア形成支援策としては、指導医講習会の開催を始め、地域医療に従事する医師のキャリア形成上の不安を解消するため、相談体制を整えていく。

～以上～

# 新潟県

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

別添資料「医師確保対策」参照

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

○県修学資金貸与生に対するキャリア形成支援等の検討

- ・大学、行政、医療関係者等から構成される検討委員会を設置。
- ・検討委員会を3回開催し、県修学資金貸与生のキャリア形成支援や効果的な配置のあり方等について検討を実施。

○県外医師等への情報発信を強化するため、民間医師紹介業者のホームページを活用した広報の実施

この他、24年から実施する「医師配置基礎調査」の事前準備、「ドクターバンク事業」の制度構築、「県修学資金貸与生に対する地域医療実習」の新たな企画の検討などを実施。

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

○センター設置後間もないため、医師確保数など具体的な事業実績はありません。

**【設問4】**

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

○人員配置、特に専任医師の安定的な確保

**【設問5】**

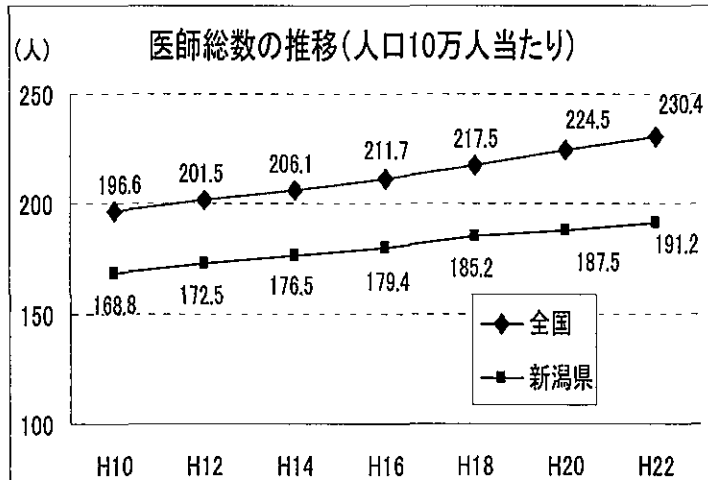
今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- 医療圏別の医師不足状況を把握するための実態調査（医師配置基礎調査）
- 県外医師の招聘を促進するためのドクターバンク事業の運営
- 県修学資金貸与生等に対するキャリア形成支援、配置先医療機関及び配置方針等に関する制度運用のとりまとめ
- 県修学資金貸与生等に対する地域医療実習の実施
- 新潟大学医学部地域枠学生との懇談会の開催
- 県内進学校における医学部進学セミナーの開催

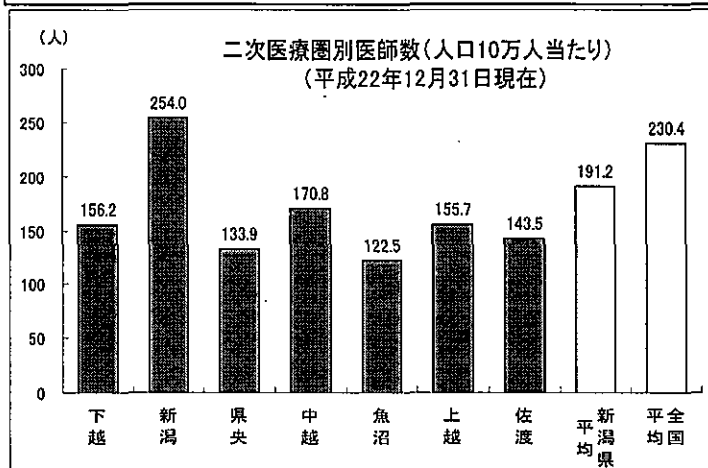
# 医師確保対策

## 現状

- 人口10万人当たり医師数は全国42位で全国との単純比較では931人不足



- 県内二次医療圏で全国平均を上回るのは新潟医療圏のみ



## 課題

- 医師の絶対数の不足(全国との差は拡大傾向)
- 県内の地域偏在の解消(特に魚沼、県央で深刻)

## 取組

事業費:5億4,400万円(勤務医招へい等緊急対策:315百万円、  
医師養成修学資金貸与:184百万円、寄附講座:45百万円)

### 医師数増加対策

#### 【短期的取組】

- 県内17の臨床研修病院と連携した臨床研修医確保対策
- ドクターバンクや民間医師紹介業者活用による県外医師の招へい

#### 【中長期的取組】

- 新潟県地域医療支援センターによる地域医療に従事する医師の養成及び効果的配置の検討(県修学資金貸与医師の活用等)
- 新潟大学大学院に総合地域医療学講座を設置(新潟大学医学生の魚沼地域での地域医療実習)
- 研修・研究機能や高度・救急医療などの機能を備えた医師にとって魅力がある病院の整備(魚沼基幹病院(仮称)、ドクターヘリの導入、県央医療体制の再構築)

### 勤務医負担軽減対策

- 県内病院に対する医師事務補助者の配置支援
- 救急勤務医等の処遇改善や新潟県女性医師ネットによる相談支援

### 国に対する抜本的な制度改革の要望

- 医学部新設等医師養成に関する規制緩和
- 医師の地域偏在解消に向けた実効性ある対策



長野県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

課題：医師の絶対数の不足、地域・診療科における医師の偏在、病院の診療科の休廃止

長野県の取組み：別添「平成24年度 医師確保総合対策事業」のとおり

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ① ドクターバンク事業による医師の無料職業紹介
- ② 専任医師及び担当職員による長野県医学生修学資金貸与者との面談や相談
- ③ 研修会・講演会の開催やメルマガによる情報発信
- ④ 高校生医療現場体験セミナー等の開催

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

- ① ドクターバンク事業（23年度：成約者 13名、新規登録者 25名）
- ② 修学資金貸与者との面談：延べ76回
- ③ 研修会の開催（7月）、地域医療講演会の開催（3月）、メルマガの発行（9号）
- ④ 高校生医療現場体験セミナー（延べ8病院 207名参加）

【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- ① 事業費の県負担分について、地域医療再生基金終了後の財源確保が困難。
- ② 専任医師の確保。
- ③ 大学地域枠入学者全員が修学資金貸与者ではないことから、大学側の関り方が課題。

**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| ① | ドクターバンク事業による医師の無料職業紹介             |
| ② | 専任医師及び担当職員による長野県医学生修学資金貸与者との面談や相談 |
| ③ | 修学資金貸与者の配置に向けた貸与者及び関係医療機関等との調整    |
| ④ | 総合医を養成するための研修プログラムの作成             |
| ⑤ | 研修会・講演会の開催やメルマガによる情報発信            |
| ⑥ | 高校生医療現場体験セミナー等の開催                 |

～以上～

# 平成24年度 医師確保等総合対策事業

医療推進課医師確保対策室

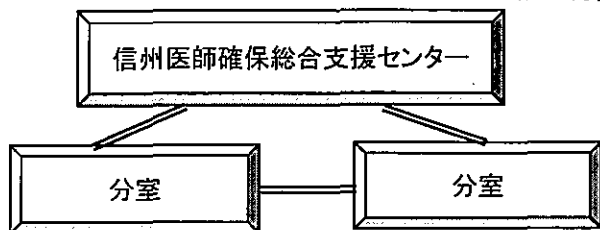
|         |           |   |
|---------|-----------|---|
| 24年度予算額 | 546,169千円 | 国庫補助 : 145,072千円<br>基金繰入金 : 168,320千円<br>一般財源 : 232,777千円 |
| 23年度予算額 | 593,077千円 | 国庫補助 : 130,280千円<br>基金繰入金 : 168,000千円<br>一般財源 : 294,797千円 |

(千円)  
H24予算額  
(H23予算額)

|                         |  |   |   |
|-------------------------|--|---|---|
| 安心して質の高い医療の確保(医師の養成・確保) | 確保   | ◆ 即戦力医師の確保<br>◎ドクターバンク事業<br>医師の求人・求職登録、医師と医療機関とのコーディネート業務<br>(改) ○ 医師研究資金貸与事業<br>医師研究環境整備資金(県外から転任する医師への貸与)<br>がん専門医養成研究資金(がん治療専門医の養成)<br>○ 産科医療機関確保事業<br>分娩を取扱う産科医療機関の確保   | 38,292<br>(36,198)<br>18,000<br>(15,000)<br>22,810<br>(22,810)          |
|                         | ↓  | ◆ 将来の医師確保<br>(改) ○ 医学生修学資金等貸与事業<br>全国の医学生等に修学資金を貸与(信州大学医学部枠を10名に拡充)<br>○ 研修病院合同説明会合同参加事業<br>医学生対象の病院説明会の開催及び県外説明会への参加<br>◎ 高校生進学セミナー等の開催<br>高校生対象の医学部進学セミナーの開催  | 254,400<br>(225,600)<br>16,364<br>(15,790)<br>※38,292                   |
|                         | ↓  | ◆ 医師・研修医・医学生のキャリア形成支援<br>(新) ◎ 修学資金貸与者のキャリア形成支援<br>研修会・講演会の開催、面談・相談の実施<br>(新) ◎ 信州型総合医の研修プログラムの作成<br>地域医療を志す医師向けの研修プログラムの作成<br>◎ 地域医療に関するセミナーの開催等<br>○ 後期研修医確保・養成支援事業<br>中核的病院が実施する後期研修医確保のための取組を支援<br>○ 女性医師復職支援研修事業<br>臨床への復職に必要な研修を病院へ委託 | ※38,292<br>※38,292<br>※38,292<br>80,000<br>(80,000)<br>1,260<br>(1,260) |
| ↓                       | ◆ 医師の勤務環境の改善<br>○ 病院勤務医が働きやすい環境整備促進事業<br>病院が行う働きやすい環境整備のための取組を支援<br>○ 女性医師ネットワーク協議会<br>女性医師が働き続けるための支援策等を検討<br>○ 地域医療をともに考えるシンポジウムの開催<br>住民が地域医療をともに支えていく機運の醸成<br>○ 地域医療検討会の開催<br>二次医療圏ごとの医療体制等の検討 | 4,000<br>(2,000)<br>187<br>(227)<br>343<br>(582)<br>578<br>(866)  |   |
| ↓                       | ◆ 医師の処遇改善<br>○ 勤務環境が過酷な診療科の医師に対する手当への支援<br>産科医・新生児医療担当医・救急勤務医への手当の支給<br>○ 助産師支援研修事業<br>最新の産科医療や助産技術についての研修の実施  | 109,506<br>(142,315)<br>429<br>(429)  |   |

※は再掲

【 信州医師確保総合支援センター 】  
 県・信州大学・県立病院機構が連携して設置。  
 ドクターバンク事業や医師のキャリア形成支援  
 等を実施。(◎:センター事業 38,292千円)



# 医師確保対策の推進

## (新) 信州医師確保総合支援センターの業務)

### 1 医師不足状況等の把握分析と医師不足病院等への配置 (県)

- 【情報分析・方針決定】 ○ 必要医師数調査や病院へのヒアリング等の実施
- 地域や診療科ごとの医師不足の状況を把握、分析
- 医師を優先的に配置する方針等の決定

【ドクターバンク事業 ( 医師無料職業紹介 ) 】

### 2 修学資金貸与者のキャリア形成支援と配置に向けた調整等 (分室)

- 【キャリア形成支援】 ○ 医学生・医師との面談等により相談・助言を実施
- 地域医療を担う医師向けの研修プログラムを作成・提供
- 【医師の配置に向けた調整】 ○ 修学資金貸与者の意向確認及び医療機関との配置調整
- 【将来地域医療を担う人材の開拓・育成】 ○ 高校生・医学生対象のセミナー等の開催

### 3 情報発信や地域医療関係者との調整 (県・分室)

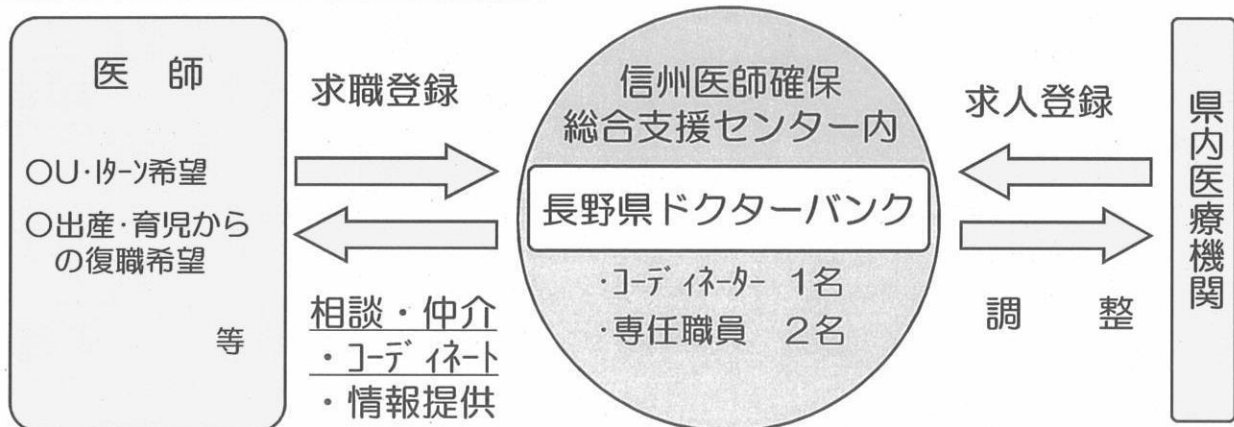
- 【相談への対応と情報発信】 ○ 医師・医学生等からの様々な相談への対応
- 求人・求職情報、地域医療の現状についての情報発信
- 【地域医療関係者との協力関係の構築】 ○ 地域医療対策協議会等の開催



# 医師確保対策の推進

## (信州医師確保総合支援センター事業)

### ドクターバンク事業



病院訪問への同行・サポート、お子さんの保育園やお住まいの案内調整を含め、できる限りきめ細かい対応を心がけています。

【登録状況】 (平成24年3月末現在)

〈求職登録累計〉 122名      〈求人登録〉 80医療機関  
(うち 就業成約 68名)      417人



静岡県

## 地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

### 【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- ・人口当たり医師数が全国平均を大きく下回るとともに、偏在が生じている。
- ・静岡県人口約380万に対して、医科大学が1校であり、医師養成数は全国平均の2分の1以下と、他の都道府県に比して著しく低い。
- ・全国に先駆けて、「ふじのくに地域医療支援センター」を設置し、医師確保対策を推進（別添パンフレット）
- ・医学修学研修資金（奨学金）をH21～H25の5年間で500人貸与を計画

### 【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ・即戦力の医師の確保は現状、非常に困難であるため、本県では、全国から主には臨床研修医及び専門研修医を集め、研修の実施及び修了後の定着を推進することとしている。
- ・1つの病院では専門医資格取得のための研修が困難であるため、複数の病院が連携して提供する「専門医研修ネットワークプログラム」を作成して、募集を開始した。
- ・併せて、研修環境の整備を補助金により支援している。
- ・あっせん業の資格をH23.8に取得し、職業紹介も開始した。

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

- ・「専門医研修ネットワークプログラム」を50プログラム作成（別添パンフレット）
- ・H24.4からのプログラム参加者は10人、年度内に新たに参加する研修医が増加する見込。
- ・あっせんについては、実績なし。なお、県外医師より相談があり、1人県中部地域の病院への勤務を4月から開始した。（あっせんとなる求人及び求職登録までは至っていない。）
- ・医学修学研修資金貸与者の配置調整を行い、H24.4から8人の医師が県内病院で勤務を開始した。

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- ・人口当たり医師数の少ない本県にあつては、医師の余力が少なくドクターバンク制度の実現性は低い。（医師数の多い地域から不足地域への派遣は、地理的要件等で医師の負担が嵩む）
- ・指導医養成について、学会毎に指導医制度の有無や認定要件が異なるため、一律の支援制度の作成が困難。また、係る経費については、学会申請経費が中心のようで、低額補助になりかねない。
- ・専任医師であっても、全ての診療科の状況に精通しているわけではないので、適任者（他の専門医資格に精通し、多くの病院と調整ができる者）の選定は難しい。

**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・ 女性医師支援事業の実施・効果検証及び広報活動
- ・ 研修医の研修状況を管理するシステムの導入の検討（研修進捗度管理、修学資金貸与状況管理など）
- ・ 医学修学研修資金貸与者の勤務調整の充実（研修プログラムの充実、面接の充実など）

～以上～



## ふじのくに地域医療支援センター

### 1 要 旨

本県の医師確保対策を一元的かつ専門的に推進するため「ふじのくに地域医療支援センター」において、魅力ある医療環境づくりを進めている。

### 2 概 要

- (1) 設 置 日 平成22年10月18日  
 (2) 設 置 場 所 健康福祉部医療健康局内（事務局：地域医療課）  
 (3) 組 織 形 態 等 本部（理事会、運営会議）、東中西の保健所に支部を設置  
 (4) 理 事 会

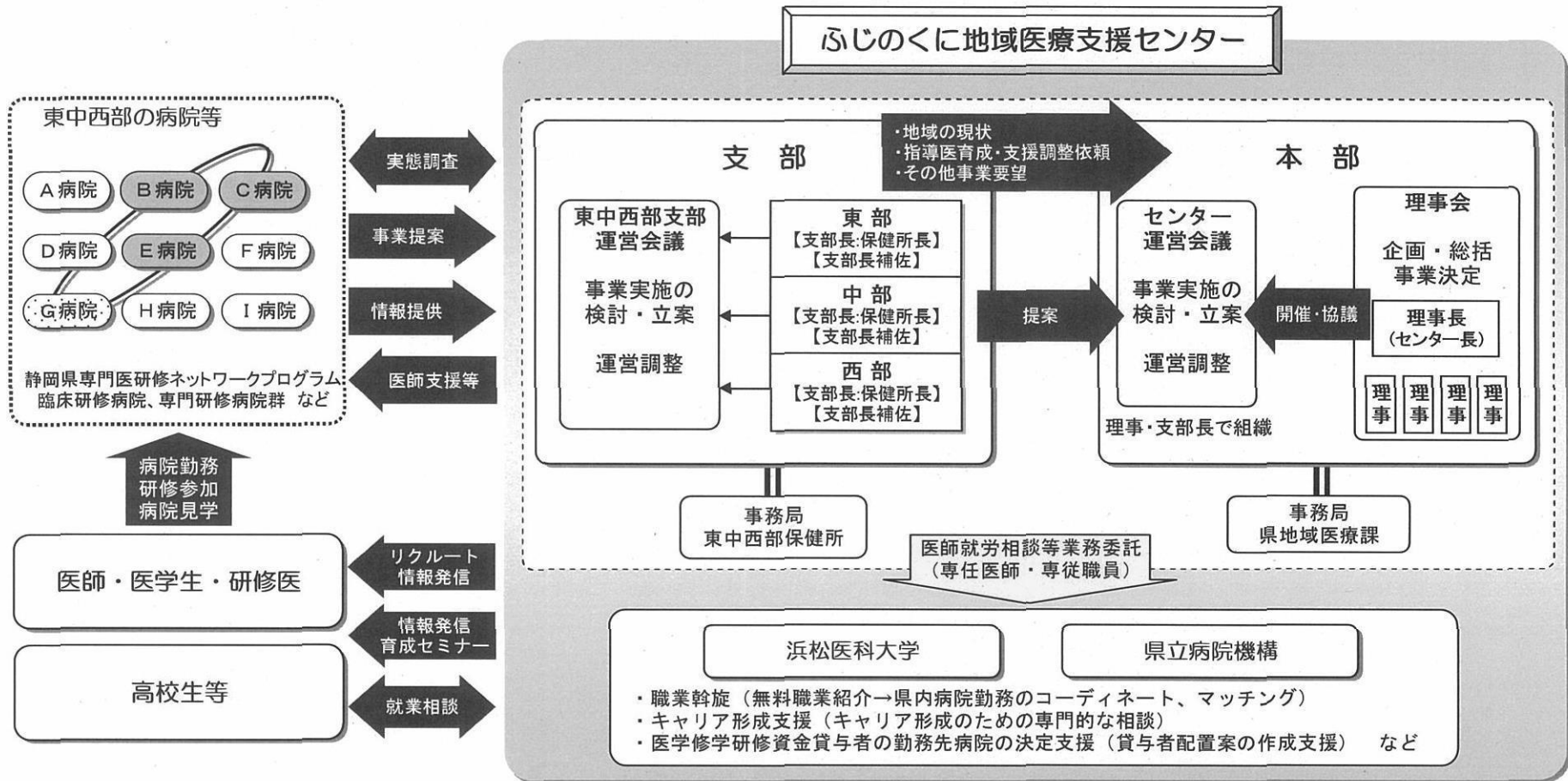
| 区 分     | 氏 名     | 備 考                            |
|---------|---------|--------------------------------|
| 理 事 長   | 寺 尾 俊 彦 | 前浜松医科大学学長                      |
| 副 理 事 長 | 鶴 田 憲 一 | 静岡県理事（医療衛生担当）                  |
| 理 事     | 水 上 泰 延 | 県病院協会副会長（JA厚生連遠州病院長）H23.4.20委嘱 |
| 理 事     | 大 山 邦 雄 | 全国自治体病院協議会静岡県支部監事（沼津市立病院長）     |
| 理 事     | 神 原 啓 文 | 県立病院機構理事長（県立総合病院長）             |
| 理 事     | 篠 原 彰   | 県医療対策協議会会長（県医師会副会長）            |

（委嘱期間 平成22年10月18日～平成25年3月31日）

### ○ふじのくに地域医療支援センターの機能・主要な業務

| 機能区分            | 主 要 な 業 務                        |  |
|-----------------|----------------------------------|--|
| 研 修 機 能         | 医療の質の向上及び医師を確保するための研修の充実         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断的な専門医研修プログラムの構築</li> <li>・病院群のローテーションによる研修システムの構築</li> <li>・指導医の育成・確保支援</li> <li>・女性医師の復職支援 など</li> </ul>    |
| リクルート機能         | 医師及び医学生の県内就職を促進するための情報発信、リクルート活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外医大にいる本県出身者の確保等</li> <li>・県内高等学校との連携（医学科進学等の促進等）</li> <li>・「レジナビ」、「e-レジデント」等の医療情報提供サイトへの情報発信の拡充 など</li> </ul> |
| 医学修学研修資金貸与者配置機能 | 医学修学研修資金貸与者の配置方針の検討              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置方針の検討（H19～H23.10：354人貸与）</li> <li>・病院の意見及び地域の状況を踏まえた配置案の作成 など</li> </ul>                                     |
| 調 査 機 能         | 県内の各地域及び各病院等の医療に関する調査及び研究        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域・病院の医師数等実態把握（常勤医師数・研修医数・専門医数・指導医数等） など</li> </ul>   |

# ふじのくに地域医療支援センター イメージ図



## センターの業務

- 1 医療の質の向上及び医師を確保するための研修の充実（専門医研修ネットワークプログラム等）
- 2 医師及び医学生の県内就職を促進するための情報発信、リクルート活動（合同説明会、ホームページ等）
- 3 医学修学研修資金貸与者の配置方針の検討
- 4 県内の各地域及び各病院等の医療に関する調査及び研究（医師数等調査等）

岐阜県

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

○医師不足に関する課題とその課題に対する岐阜県及び岐阜大学の取組み

課 題

- ① 全県勤務医数の慢性的不足  
(H8-14年度：全国44位、H16：43位、H18：40位、H20：41位、H22：38位)
- ② 県内圏域間の勤務医数の格差・偏在  
(H22：全国219.0、岐阜：243.9、西濃：150.1、中濃：138.3、東濃：169.2、飛騨：169.5)
- ③ 救急医療、周産期～小児医療に従事する医師の偏在(県南地域へ90%以上が集中)

取組み

(1) 岐阜大学医学部に地域医療医学センターを開設

H19年4月に岐阜大学医学部に地域医療医学センター(Center for Regional Medicine:CRM)が自主的に開設され、医師不足及び偏在に対応する組織として取組みが始まった。

(2) 岐阜県寄附講座を開設

H19年10月からH24年3月まで、岐阜県はCRM内に岐阜県寄附講座(地域医療学講座)を開設した。(3名の専任教育職員が配置された。)

(3) 岐阜県医学生修学資金貸付制度を創設

H20年4月に岐阜県は、将来県内の医療機関に従事することにより地域医療に貢献する意思のある者を確保するため、修学資金貸付制度を創設した。

① 第1種修学資金 (岐阜大学医学部医学科地域枠入学者が対象)

「地域枠推薦入試」では第1種修学資金(月額100,000円+授業料及び入学金相当額)を6年間受給することを、合格の条件としている。また、その返還免除条件として、岐阜県内の臨床研修病院での初期臨床研修2年間と、その後9年間の岐阜県内の医療機関での勤務を定めている。9年間のうち6年間は知事が指定する医療機関＝県内で研修医教育が可能な施設での勤務を規定している。H20年度～H24年度の5年間で100名が受給している。

② 第2種修学資金

第1種修学資金のほかに、第2種修学資金(月額100,000円)を設けている。返還免除条件として、岐阜県内の臨床研修病院での初期臨床研修2年間と、その後修学資金受給期間と同期間(受給期間が2年未満の場合は2年間)の岐阜県内の医療機関での勤務を

定めている。そのうち2分の1に相当する期間は、知事が指定する医療機関＝県内で研修医教育が可能な施設での勤務を規定している。

#### (4) 岐阜大学医学部医学科で地域枠推薦入試を開始

H20年度から岐阜大学医学部医学科入学試験に「地域枠推薦入試」の枠を設け、H20年度：10名、H21年度：15名、H22年度以降25名の純増員を実現し、またH22年度からは地域枠以外で、地域定着枠としての入学生2名をさらに増員し、入学定員はそれまでの80名からH22年度以降一気に127名に増えた。なお、「地域枠推薦入試」は募集定員の2倍以上の応募が継続している。

#### (5) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを結成

H22年9月、岐阜大学医学部、同附属病院と研修医等が多く集まる病院（全9病院）が、効果的な初期臨床研修の実施と後期研修医等の育成のためにコンソーシアムを立ち上げ、県内の臨床研修医の増加と医師不足地域への医師の派遣により、岐阜県の地域医療の確保に資することを目的としている。このコンソーシアムでキャリア管理する医師は、主に第1種修学資金又は第2種修学資金受給後の医師である。

なお、岐阜県では本コンソーシアムを「地域医療支援センター事業」と位置付け、コンソーシアムの予算措置と組織づくりなど、事業の強化を図っている。

#### (6) その他

##### ①医師確保広報事業

県外の医師に岐阜県での診療に興味を持ってもらい県内就業につなげるため、民間の医師確保専門サイトへ情報を掲載

##### ②女性医師就業支援等の環境整備

###### イ) 病院内保育所の運営整備支援

病院内保育所の運営支援を拡充するとともに施設設備整備に助成

###### ロ) 女性医師就労支援

女性医師が働きやすい勤務環境づくりを進めるため、女性医師の相談窓口の設置や女性医師の就労環境整備等に関する講演会等を開催

###### ハ) 女性医師等就労環境改善事業費補助金

仕事と家庭の両立のできる働きやすい職場環境の整備について取組みを行う病院への支援を実施

## 【設問 2】

設問 1 で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。(ポンチ絵等、参考資料を添付願います。)

※ 24 年度から実施の 5 県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

★別添パワーポイント資料を参照

<H23 年度実績>

### (1) 初期臨床研修医育成支援事業

#### ①H23 年度初期臨床研修プログラムの実行支援

CRM 地域医療研修コーディネート(H23 年度：39 名、H19 年度からの累計

#### ②H24 年度以降の初期臨床研修プログラムの作成支援準備

#### ③H26 年度以降の地域枠医師等に対する初期臨床研修プログラム作成準備

#### ④初期臨床研修医セミナー充実への取り組み

コンソーシアム各構成病院主催セミナー：29 回

構成病院合同主催セミナー：1 回

### (2) 後期研修医キャリアアップ事業

#### ①キャリアパスの策定

第 2 種修学資金受給後研修医指定勤務管理

H24 年 4 月 1 日現在：初期臨床研修 1 年目：12 名、2 年目：7 名、

指定勤務 1 年目：10 名、2 年目：3 名 合計 32 名

#### ②指導医の派遣：実績なし

#### ③初期臨床研修修了後の若手医師等に対する研修事業の具体化：研修費用支援など

### (3) その他の事業

#### ①臨床研修指導医養成のための講習会の開催

◇H23 年度第 1 回臨床研修指導医養成講習会

6/18 (土)～19 (日) 於：岐阜大学医学部

参加者：15 病院、42 名

◇H23 年度第 2 回臨床研修指導医養成講習会

12/17 (土)～18 (日) 於：岐阜大学医学部

参加者：15 病院、40 名

いずれも、岐阜大学医学部医学教育開発研究センター (MEDC) および岐阜大学医学部附属病院卒後臨床研修センターとの共催・全面協力で実施、構成病院からファシリテーター派遣

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

(設問2を参照)

### 【設問4】

貴道府県の地域医療支援センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

- ・岐阜県医師育成・確保コンソーシアム構成病院以外の、とくに医師不足圏域の病院における、コンソーシアムの意義や取組みに対する理解がまだ不十分であるため、これを解消するための説明に時間と労力をかけなければならない。
- ・今後、修学資金を受給している卒業生が多数排出される。それぞれの希望するキャリアパスを、修学資金指定勤務の内規に従い、しかも安心して教育を受けられる実感を得てもらいながら、結果的に医師確保につなげるこのシステムを、ルールに従って整然と実施するためには、かなりのエネルギーが必要である。
- ・岐阜県医学生修学資金を受給しながら、卒前、卒業時、また卒後に返還してしまう学生が散見される。今のところ地域卒卒業生は出ておらず、また在学生にも Drop Out はいないが、第2種で散見される現状にある。コンソーシアム事務局ないし CRM と、これら学生との卒前のコミュニケーションを風通し良く継続することが課題である。

### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・H24年度以降も、これまでの事業を継続するとともに、そのアウトカム調査を行う。すなわち、修学資金制度とコンソーシアムのアウトカム評価研究として、岐阜大学医学部医科学学生の卒後勤務に対する意識調査、卒業生の動向や岐阜県内勤務定着率などのデータから、現行制度のアウトカム評価を実施するとともに、今後の制度・体制の見直しのための基礎データとする。
- ・H23年度までに実現できなかった、指導医と研修医のセット派遣による医師不足病院の支援、研修医の研修を充実させるための資金援助システムの確立、コンソーシアム構成病院間での初期臨床研修及びその後の研修プログラムの相互乗り入れの促進などについて、徐々に取り組みたい。
- ・地域医療実態調査研究として、各圏域における医療の実態調査に基づき、中長期的な医療ニーズを予測し、適正な医師配置につなげるような基礎データとしたい。

# 地域医療支援センターに係る情報交換会

2012.5.11(金) 厚生労働省 専用第23会議室(19F)

## 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム 活動報告

岐阜大学大学院医学系研究科・医学部地域医療医学センター(CRM)

村上啓雄、奥村陽子、操 奈美、  
山田隆司、北裏 博、清島 満

### 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム

#### 【目的】

岐阜大学医学部、同附属病院と研修医等が多く集まる病院が、効果的な初期臨床研修の実施と後期研修医等を育成するコンソーシアムを組織し、県内の臨床研修医の増加と医師不足地域への派遣により岐阜県の地域医療の確保に資することを目的とする。

#### 【主な機能】

医師会や協力医療機関との連携のもとに、岐阜県医学生修学資金制度と一体的に運用

#### (1) 初期臨床研修医の教育研修機能

- ・特色ある初期臨床研修プログラムの策定
- ・初期臨床研修医に対する教育
- ・岐阜県臨床研修病院協議会への積極的参画

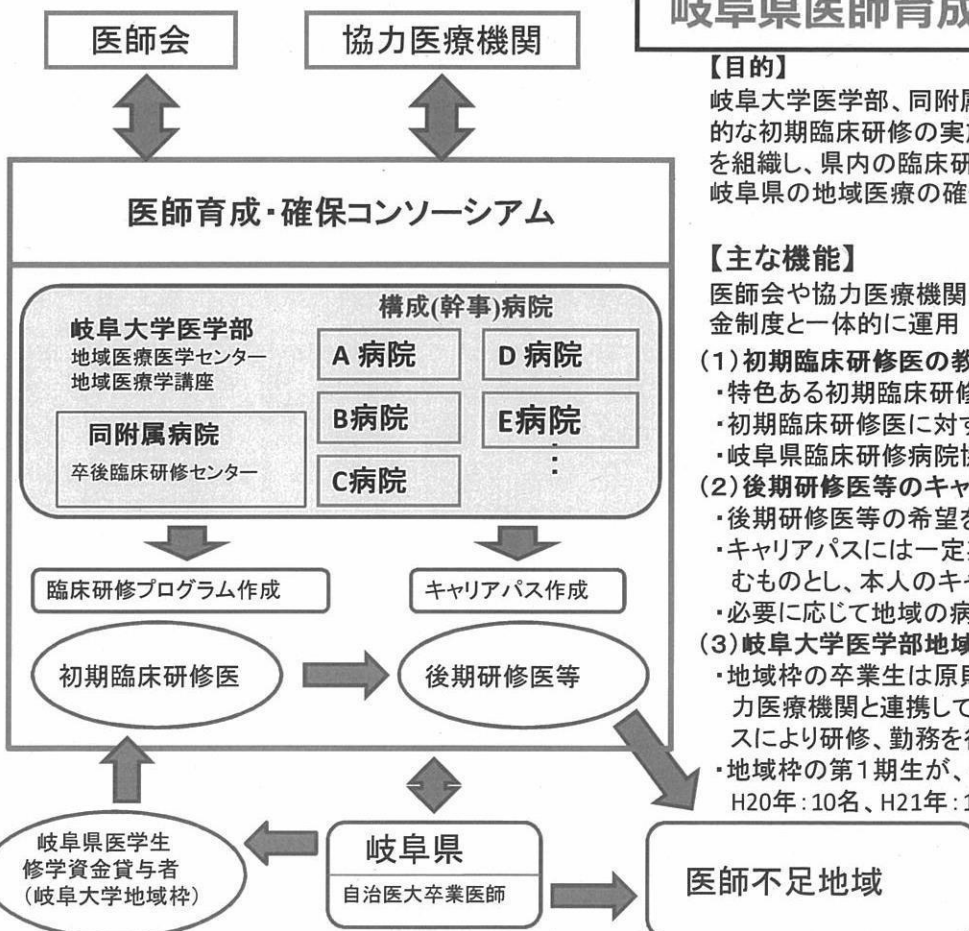
#### (2) 後期研修医等のキャリアアップおよび医師派遣機能

- ・後期研修医等の希望をふまえたキャリアパスの作成
- ・キャリアパスには一定期間の医師不足地域での勤務を含むものとし、本人のキャリアアップと医師不足の解消に寄与
- ・必要に応じて地域の病院へ指導医を派遣

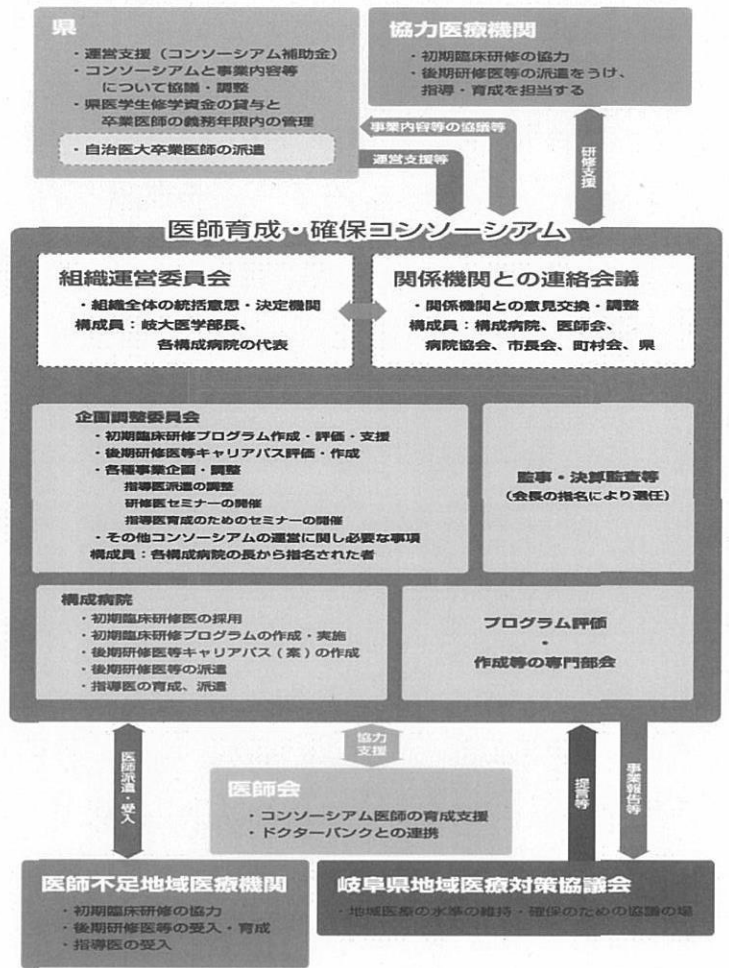
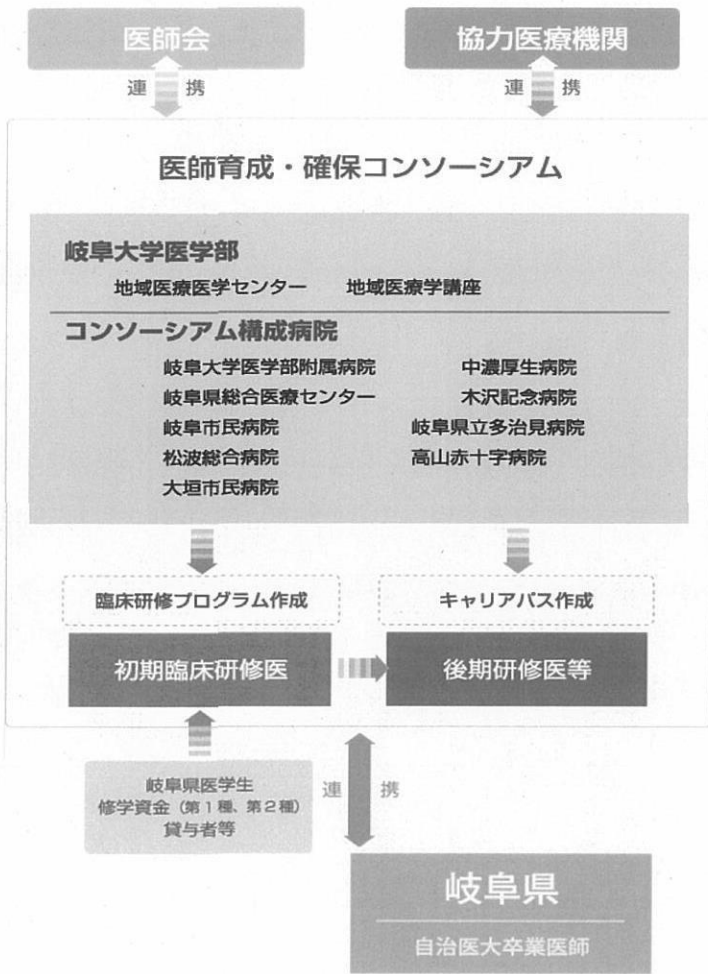
#### (3) 岐阜大学医学部地域枠の卒業生の受け皿としての機能

- ・地域枠の卒業生は原則として、コンソーシアムが医師会や協力医療機関と連携して作成する研修プログラム、キャリアパスにより研修、勤務を行う。

・地域枠の第1期生が、平成26年3月に卒業  
H20年:10名、H21年:15名、H22年~:25名







● 役員

| 役職名 | 氏名     | 所属機関<br>役職名                   |
|-----|--------|-------------------------------|
| 会長  | 清島 満   | 国立大学法人<br>岐阜大学大学院医学系研究科長、医学部長 |
| 副会長 | 渡辺 佐知郎 | 地方独立行政法人<br>岐阜県総合医療センター-病院長   |
|     | 曾根 孝仁  | 大垣市民病院長                       |
| 監事  | 富田 栄一  | 岐阜市民病院長                       |
|     | 棚橋 忍   | 高山赤十字病院長                      |

● 組織運営委員会委員

| 構成病院等の長名                   | 委員名       |
|----------------------------|-----------|
| 国立大学法人 岐阜大学大学院医学系研究科長、医学部長 | 清島 満 (議長) |
| 国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院長        | 岩間 亨      |
| 地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター-病院長   | 渡辺 佐知郎    |
| 岐阜市民病院長                    | 富田 栄一     |
| 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院長        | 山北 直由     |
| 社会医療法人厚生会 木沢記念病院長          | 北島 康雄     |
| 大垣市民病院長                    | 曾根 孝仁     |
| 岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院長     | 林 勝知      |
| 地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院長        | 原田 明生     |
| 高山赤十字病院長                   | 棚橋 忍      |

● 企画調整委員会委員

| 構成病院等名                       | 役職名  | 委員名            |
|------------------------------|--|----------------|
| 国立大学法人 岐阜大学<br>大学院医学系研究科、医学部 | 地域医療医学センター副センター<br>長兼副病院長                          | 村上 啓雄<br>(委員長) |
| 国立大学法人<br>岐阜大学医学部附属病院        | 病院長補佐兼耳鼻咽喉科長                                       | 水田 啓介          |
| 地方独立行政法人<br>岐阜県総合医療センター      | 副病院長兼眼科部長  | 直原 修一          |
| 岐阜市民病院                       | 副病院長   | 鷹尾 明           |
| 社会医療法人蘇西厚生会<br>松波総合病院        | 副病院長   | 村山 正憲          |
| 社会医療法人厚生会<br>木沢記念病院          | 副病院長   | 篠田 淳           |
| 大垣市民病院                       | 副病院長   | 織谷 正敏          |
| 岐阜県厚生農業協同組合連合会<br>中濃厚生病院     | 副病院長   | 勝村 直樹          |
| 地方独立行政法人<br>岐阜県立多治見病院        | 麻酔科部長兼救急科部長兼救命救<br>急センター長                          | 間瀬 則文          |
| 高山赤十字病院                      | 副病院長兼第1外科部長事務取扱<br>兼麻酔科部長事務取扱兼救命救急<br>センター長兼医療秘書室長 | 白子 隆志          |

◎ 関係機関との連絡会議員

|      | 機関名及び役職名                   | 会議員名      |
|------|----------------------------|-----------|
| 構成機関 | 国立大学法人 岐阜大学大学院医学系研究科長・医学部長 | 清島 満 (議長) |
|      | 国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院長        | 岩間 亨      |
|      | 地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター病院長    | 渡辺 佐知郎    |
|      | 岐阜市民病院長                    | 富田 栄一     |
|      | 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院長        | 山北 宜由     |
|      | 社会医療法人厚生会 木沢記念病院長          | 北島 康雄     |
|      | 大垣市民病院長                    | 曾根 孝仁     |
|      | 岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院長     | 林 勝知      |
|      | 地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院長        | 原田 明生     |
|      | 高山赤十字病院長                   | 棚橋 忍      |
| 外部機関 | 岐阜県医師会 常務理事 (二宮医院 院長)      | 二宮 保典     |
|      | 社団法人岐阜県病院協会 常務理事 (西美濃病院長)  | 齋藤 公志郎    |
|      | 岐阜県市長会 (飛騨市長)              | 井上 久則     |
|      | 岐阜県町村会 副会長 (池田町長)          | 岡崎 和夫     |
|      | 岐阜県 (健康福祉部次長)              | 日置 敦巳     |

◎ 顧問

| 機関名及び役職名                     | 氏名    |
|------------------------------|-------|
| 国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院長         | 松尾 清一 |
| 名古屋市立大学医学部附属病院長              | 山田 和雄 |
| 社団法人 岐阜県病院協会会長 (松波総合病院 名誉院長) | 松波 英一 |

**岐阜県医師育成・確保コンソーシアム**  
**ホームページ オープン 2012/4/1**  
[http://www1.gifu-u.ac.jp/~dr\\_conso/index.html](http://www1.gifu-u.ac.jp/~dr_conso/index.html)

The Gifu doctor training retention Consortium  
**岐阜県医師育成・確保 コンソーシアム**

[トップページ](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#)

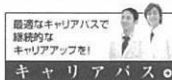
文字サイズ [小](#) | [中](#) | [大](#)

[NEWS](#) | [コンソーシアム紹介](#) | [活動内容](#) | [報告事項](#) | [キャリアパス](#) | [FAQ](#)



TOPICS

2012年4月1日 ■ ホームページがオープンしました。



[ページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [NEWS](#) | [コンソーシアム紹介](#) | [活動内容](#) | [報告事項](#) | [キャリアパス](#) | [FAQ](#)



**コンソーシアム紹介**  
Introduction of a Consortium

- 概要
- 会長あいさつ
- 事務局あいさつ
- 岐阜県健康福祉部次長あいさつ
- 構成団体の紹介
- 名簿
- 概要図
- コンソーシアム組織図

**コンソーシアム紹介**  
consortium introduces

最適なキャリアパスで継続的なキャリアアップを!

**キャリアパス**

## 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの概要

岐阜県は現在極めて厳しい医師不足の状況であり、それによって悪化される医療体制の地域格差を改善するため、2010年9月その後4年間で実行する地域医療再生計画の一環として「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」を立ち上げました。



本コンソーシアムは、当県、岐阜大学医学部のほか県内の研修医が多く集まる9病院（岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松浜総合病院、木沢記念病院、大垣市民病院、中濃厚生病院、東立多治見病院及び高山赤十字病院）を中心に、それら病院と県内の各病院、医師会との連携体制で構成されています。

2008年度、岐阜県内唯一の医師養成機関である岐阜大学医学部では、岐阜県内の高校の卒業見込者・卒業生及び岐阜県在住の他県高校卒業見込者・卒業生を対象として、新たに地域枠推薦入試制度を導入し、これまでの入学定員80名に加え10名の定員増を行いました。その後、2009年度に15名、さらに2010年度には27名（地域枠希望の前期日程2名増を含む）の定員増が戻り現在107名となっております。

この入試制度の導入は、地域での医師不足、診療科の偏在等による医療崩壊の危機が大きな社会問題となり、国の新医師確保総合計画及び岐阜県医師確保対策の一環として、一定期間、地域で勤務することを条件に医師養成の増員が認められたもので、併せて各県自治体が「医学生修学資金」を用意しこれを奨励することを入学要件としたものです。

本コンソーシアムは、岐阜県医学生修学資金受給者（第1種＝地域枠、および第2種）を主な対象者として、その返還免除条件である県内臨床研修指定病院（22病院）での初期臨床研修および、所定の期間、短事が指定した県内医療機関で勤務する（指定勤務）上で十分な指導体制を確保し、医師が円滑且つ効果的にキャリアアップが図れるようサポートするために組織されたものです。

初期臨床研修には魅力的な研修プログラムの提供、後期研修等には自身の将来の希望に応じたキャリアパスの提供、支援を行いながら若手医師の県内定着と育成を図るとともに、後期研修プログラムの中に一定期間の医師不足地域での勤務を含めることによる効果的な地域医療確保の役割を担っています。

そして、何よりも修学資金を受給した若い医師が安心して自分自身の成長を果敢できるような医療現場と教育環境・指導体制と整備するべく、研修医を受け入れる県内医療機関との連携・調整を進めています。

また、岐阜県医学生修学資金受給者以外でも熱意を持って岐阜県の地域医療に貢献したいと希望される医師の方はどうぞ事務局（岐阜大学医学部地域医療医学センター（CRM）内）まで、お気軽にお問い合わせください。ご連絡をお待ちしております。



**コンソーシアム紹介**  
Introduction of a Consortium

- 概要
- 会長あいさつ
- 事務局あいさつ
- 岐阜県健康福祉部次長あいさつ
- 構成団体の紹介
- 名簿
- 概要図
- コンソーシアム組織図

**コンソーシアム紹介**  
Consortium introduces

最適なキャリアパスで継続的なキャリアアップを!

**キャリアパス**

## 事務局あいさつ

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムは、岐阜県医学生修学資金（第1種）を受給している岐阜大学医学部医学部地域枠学生、および同修学資金（第2種）を受給している医学生（岐阜大学および他大学学生を含む）が、修学資金返還免除条件にある、岐阜県内研修病院での2年間の初期臨床研修とそれに続く指定勤務（第1種では9年間、第2種では修学資金受給年間で最長2年間の）を、安心して自分自身のキャリアアップができ、また長時に医師不足地域での勤務を通じて地域医療の課題である患者中心の医療を経験することにより、それぞれの専門領域の中で幅広い臨床能力を身につけ、結果的に医師不足地域の医療の確保につながるために結成されたものです。



岐阜県医師育成・確保コンソーシアム  
会幹事委員会の委員長  
**村上啓雄**  
岐阜大学医学部地域医療医学センター副センター長

これらを実現するために最も重要なことは、岐阜県内のすべての医療機関が教育・指導体制を整え、指導医のみならず全メディカルスタッフが一致団結して研修医を育成するマインドをひとつにすることと見えています。それが実現すれば研修医が育つのみならず、指導する側のレベルアップややりがいにつながり、医療現場全体の活性化、さらには住民にとっても地域医療の確保につながることが予想されます。

コンソーシアムには構成病院（現在9病院：岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜県立多治見病院、岐阜市民病院、大垣市民病院、高山赤十字病院、中濃厚生病院、松浜総合病院、木沢記念病院）と事務局である岐阜大学医学部地域医療医学センターが組織されていますが、これらの病院に研修医を供給させるのではなく、構成病院と事務局が連携協力し、研修プログラムの立案、専門領域のキャリアパスの策定、県内医療地域の指導体制維持のための指導医を含めた派遣医師などを担っていく、すなわちコンソーシアムを運営する幹事施設としての役割を担うために指定された施設となっています。したがって、研修医が実際に勤務するのはコンソーシアム協力病院を含めた、岐阜県内すべての医療機関であることを認識いただきたいと思ひます。

なお、指定勤務期間のうち、第1種においては6年間、第2種においては受給年数の半分は期間が「知事」の指定する医療機関」での勤務が義務付けられていますが、実際の勤務においては知事あるいは岐阜県から個別に指定された病院に赴任するのではなく、個々の研修医が希望する専門領域での育成キャリアパスにおいて「知事」の指定する医療機関」の中から、教育指導体制が整った医療機関を選び、また医師不足地域での勤務確保を考慮しながら適切に勤務プランを立てていくという形になります。

なおこれらの医療機関は主に公立病院、赤十字病院、厚生連が運営する病院、自治体が運営する診療所などが指定されています。

すでに第2種修学資金受給者のうち3名が指定勤務1年目を終えようとしており、また19名が岐阜県内の研修病院で初期臨床研修を行っています。

今後ますます修学資金受給者の県内の医療機関勤務が増え、2年後には地域枠1期生が卒業し、平成20年度には第1種、第2種合わせて100名を超える研修医が岐阜県内で研修していることになり、その後さらに増加する予定です。また、修学資金受給者以外でも、コンソーシアムのシステムを利用して研修したいという研修医は多く門戸を開放することはもちろんですが、盛り込みますが、研修医にとって岐阜県では医師として豊かに成長できる環境が得られるよう、また指導する側にとっては教育によって自分のレベルアップや充実感を持って、さらに地域住民にとっては地域医療の確保につながるよう、岐阜県内の全医療従事者が一丸となって「教育」をキーワードに、このコンソーシアムの運営にご理解ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

# H23年度事業実績

## (1) 初期臨床研修医育成支援事業

### ① 平成23年度初期臨床研修プログラムの実行支援

CRM地域医療研修コーディネート

### ② 平成24年度以降の初期臨床研修プログラムの作成支援

### ③ 平成26年度以降の地域枠医師等に対する

初期臨床研修プログラム作成準備

### ④ 初期臨床研修医セミナー充実への取り組み

コンソーシアム各構成病院主催セミナー: 29回

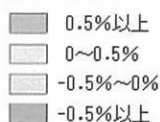
構成病院合同主催セミナー: 1回

岐阜県医師育成・確保コンソーシアム

## CRM地域医療研修

### 人口

人口増加率 (2004年~2005年)



市町村の人口 (2005年)

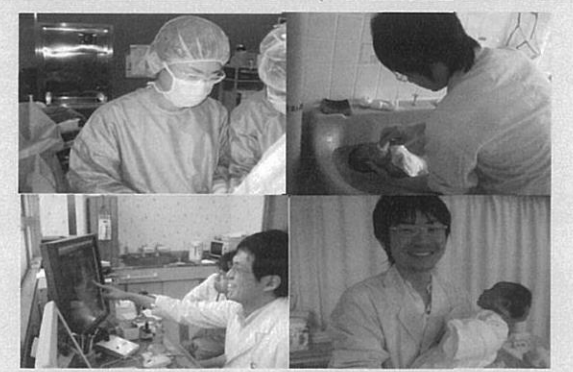


単なるへき地診療所研修ではありません。

へき地医療拠点病院と診療所エッセイを選択し、患者さんの動線で地域全体を使って研修しますので、診療所におけるプライマリケアから、拠点病院での先進医療まで幅広く研修できます。

到達目標は保健(予防事業など)・医療(かかりつけ医との連携、診療所実習、在宅療養など)・福祉(介護など)が一体となった地域包括ケアを修得することです。

岐阜大学医学部地域医療医学センターがコーディネートのお手伝いをします。  
(Center for Regional Medicine : CRM)



\* 市町村の合併状況は2006年1月1日現在

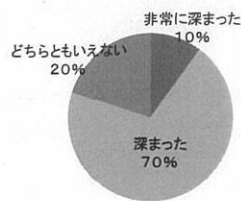
# CRM地域医療研修実績

| 年度 | 県総合<br>↓<br>下呂 | 県総合<br>↓<br>高山 | 県総合<br>↓<br>恵那 | 県総合<br>↓<br>金山 | 県総合<br>↓<br>和良 | 県総合<br>↓<br>美濃 | 岐市民<br>↓<br>下呂 | 岐市民<br>↓<br>高山 | 岐市民<br>↓<br>和良 | 岐大病<br>↓<br>下呂 | 岐大病<br>↓<br>高山 | 岐大病<br>↓<br>美濃 | 岐大病<br>↓<br>郡上 | 羽島市<br>↓<br>高山 | 羽島市<br>↓<br>美濃 | 中濃<br>↓<br>診療 | 中濃<br>↓<br>美濃 | 合計  |
|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-----|
| 07 | 13             |                |                |                |                |                |                |                |                | 2              |                |                |                |                |                |               |               | 15  |
| 08 | 10             | 5              |                |                |                |                | 4              | 4              |                |                | 1              |                |                |                |                |               |               | 24  |
| 09 | 11             | 4              | 1              |                |                |                | 4              | 4              |                |                | 1              |                |                | 4              |                |               |               | 29  |
| 10 | 5              | 11             |                |                |                |                | 1              | 5              |                | 2              | 3              |                | 2              | 3              |                |               |               | 32  |
| 11 | 2              | 4              |                | 3              | 1              |                | 3              | 7              | 1              | 2              | 2              | 1              | 1              | 2              | 2              | 8             |               | 39  |
| 12 | 3              | 3              | 1              | 2              | 2              | 3              | 4              | 2              | 3              | 3              | 4              | 1              | 1              | 2              | 2              | 5             | 1             | 42  |
| 合計 | 44             | 27             | 2              | 5              | 3              | 3              | 16             | 22             | 4              | 9              | 11             | 2              | 4              | 11             | 4              | 13            | 1             | 181 |

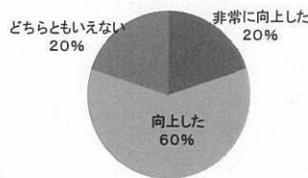
★合計-下呂：69、高山：71、美濃：10、金山：5、郡上：4、和良：7、恵那：2

## CRM地域医療研修研修医アンケート

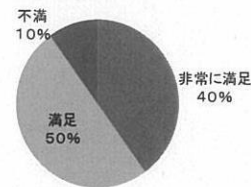
・地域医療に関する理解がふかまりましたか



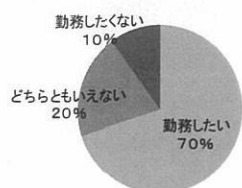
・診療技術は向上しましたか



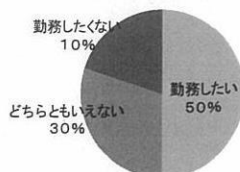
・指導医の指導をどう思いましたか



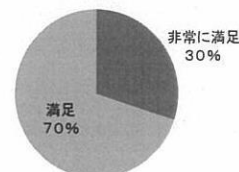
・地域医療に根差した総合病院で勤務したいですか



・地域医療に根差した診療所で勤務したいですか



・地域医療研修全体の満足度



# H23年度事業実績

## (2)後期研修医キャリアアップ事業

### ①キャリアパスの策定

第2種修学資金受給後研修医指定勤務管理

### ②指導医の派遣

### ③初期臨床研修修了後の若手医師等に対する 研修事業の具体化

岐阜県医師育成・確保コンソーシアム

#### 岐阜県第2種修学資金受給者 卒後臨床研修先：圏域別(2012年度)

| 平成21年3月卒業者(指定勤務2年目) |      |    |        |       |           |           |
|---------------------|------|----|--------|-------|-----------|-----------|
| 受給開始年度              | 出身大学 | 性別 | 初期臨床研修 | 専門診療科 | 指定勤務(1年目) | 指定勤務(2年目) |
| 平成20年               | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 消化器外科 | 岐阜        | 岐阜+飛騨     |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     | 耳鼻咽喉科 | 岐阜        | 岐阜+西濃     |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 中濃     | 循環器内科 | 中濃        | 中濃        |
| 平成22年3月卒業者(指定勤務1年目) |      |    |        |       |           |           |
| 受給開始年度              | 出身大学 | 性別 | 初期臨床研修 | 専門診療科 | 指定勤務(1年目) |           |
| 平成20年度              | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     | 泌尿器科  | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 中濃     | 救急    | 中濃        |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 精神科   | 岐阜        |           |
| 平成21年度              | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 循環器内科 | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     | 産婦人科  | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 脳神経外科 | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     | 小児科   | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 眼科    | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     | 脳神経外科 | 岐阜        |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 長良     | 腎臓内科  | 岐阜        |           |
| 平成23年3月卒業者(初期研修2年目) |      |    |        |       |           |           |
| 受給開始年度              | 出身大学 | 性別 | 初期臨床研修 |       |           |           |
| 平成20年度              | 岐阜大学 | 男  | 西濃     |       |           |           |
| 平成21年度              | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成22年度              | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成20年度              | 山形大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成21年度              | 宮崎大学 | 男  | 中濃     |       |           |           |
|                     | 大分大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成24年3月卒業者(初期研修1年目) |      |    |        |       |           |           |
| 受給開始年度              | 出身大学 | 性別 | 初期臨床研修 |       |           |           |
| 平成20年度              | 愛媛大学 | 男  | 西濃     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 飛騨     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成21年度              | 富山大学 | 女  | 岐阜     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 女  | 飛騨     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 西濃     |       |           |           |
|                     | 岐阜大学 | 男  | 岐阜     |       |           |           |
| 平成23年度              | 岐阜大学 | 女  | 岐阜     |       |           |           |

# H23年度事業実績

## (3) その他の事業

### ① 臨床研修指導医養成のための講習会の開催

◇平成23年度第1回臨床研修指導医養成講習会

6/18(土)～6/19(日) 於:岐阜大学医学部

参加者:15病院、42名

◇平成23年度第2回臨床研修指導医養成講習会

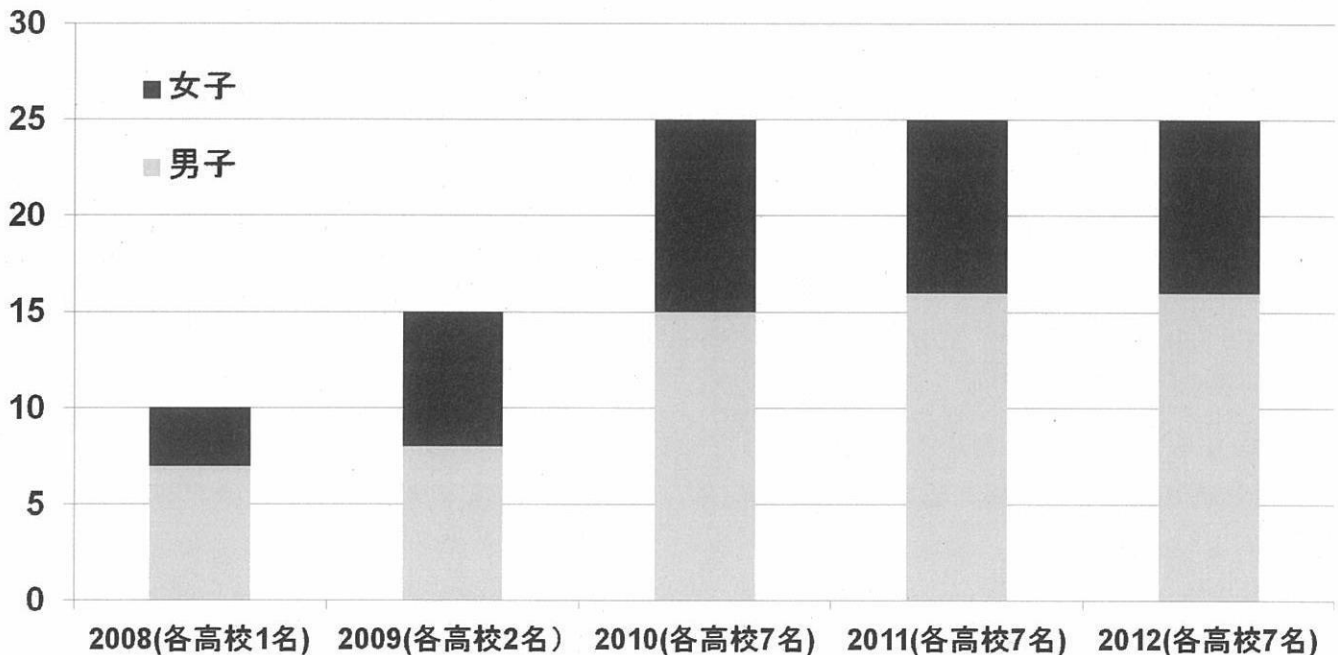
12/17(土)～12/18(日) 於:岐阜大学医学部

参加者:15病院、40名

★いずれも、岐阜大学医学部医学教育開発研究センター (MEDC) および岐阜大学医学部附属病院卒後臨床研修センターとの共催・全面協力を実施、構成病院からファシリテーター派遣

岐阜県医師育成・確保コンソーシアム

## 地域枠推薦入試



# 地域枠入学者

| 年度                  | 居住地 |    |    |    |    | 県内<br>高校 | 他県<br>高校 | 男  | 女  |
|---------------------|-----|----|----|----|----|----------|----------|----|----|
|                     | 岐阜  | 西濃 | 中濃 | 東濃 | 飛騨 |          |          |    |    |
| 2008<br>(10)<br>~各1 | 4   | 2  | 1  | 2  | 1  | 8        | 2        | 7  | 3  |
| 2009<br>(15)<br>~各2 | 6   | 2  | 3  | 3  | 1  | 12       | 3        | 8  | 7  |
| 2010<br>(25)<br>~各7 | 10  | 4  | 3  | 7  | 1  | 18       | 7        | 15 | 10 |
| 2011<br>(25)<br>~各7 | 10  | 2  | 4  | 3  | 6  | 22       | 3        | 16 | 9  |
| 2012<br>(25)<br>~各7 | 7   | 6  | 5  | 5  | 2  | 22       | 3        | 16 | 9  |
| 合計<br>(50)          | 37  | 16 | 16 | 20 | 11 | 82       | 18       | 62 | 38 |

## 岐阜県医学生修学資金(第1種)

| 項目     | 第1種修学資金  |
|--------|--|
| 対象者    | ①岐阜大学医学部地域枠入学者<br>②卒業後、一定期間地域医療に従事する意欲のある者<br>以上の①及び②を満たす者   |
| 貸与金額   | 月 額 : 100,000円<br>授業料相当額 : 535,800円(年額)<br>入学金相当額 : 282,000円(初年度入学時)<br>【年額】<br>初年度 : 2,017,800円<br>2年目以降 : 1,735,800円                                 |
| 返還免除条件 | ①医師免許所得後、直ちに2年間の初期臨床研修を県内臨床研修指定病院で実施<br>②初期臨床研修終了後、引き続き県内医療機関で<br>修学資金貸与期間の2分の3に相当する期間を業務に従事し、<br>うち3分の2に相当する期間は知事の指定する医療機関で勤務<br>以上2つの条件を満たす場合には、全額免除 |

(備考) 救急医療等確保事業 : 医療法第30条の4の2項の5に定める医療の確保に必要な事業。  
救急医療、災害時の医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療、その他特に必要と認める医療

Center for Regional Medicine  
Gifu University School of Medicine

CRM



# 岐阜県修学資金貸与学生の予定 (第1種修学資金)

| 年  | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7   | 8  | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |  |
|----|---|---|---|---|---|---|---|--|---|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 所属 | 医学部医学科<br>卒前教育(6年)  |   |   |   |   |   | 研修指<br>定病院  | 指定勤務   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|    | ★地域枠以外の<br>入学者と<br>加alam同一<br>★医学科全学生平等に<br>地域医療に触れる<br>機会あり<br>★里親制度(担任制)の<br>担当はCRM教官 |   |   |   |   |   | 大学あ<br>るいは<br>大学と<br>連携<br>できる<br>岐阜県<br>内の<br>研修<br>指定<br>病院<br>(22) | ①うち2/3年(6年)は、知事<br>が指定する県内の医療機関<br>に勤務。<br>②1/3年(3年)は大学を含む<br>県内の医療機関に勤務。こ<br>の間、大学に在籍中に国内、<br>国外の短期研修を許可する。 |   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |

## 岐阜県医学生修学資金(第2種)

| 項目         | 第2種修学資金   |
|------------|---|
| 対象者        | ①岐阜大学医学部医学科在学者(地域枠入学者を除く)<br>又は県内出身者であって岐阜大学以外の大学の医学を履修する過程に<br>在籍している者<br>②卒業後、一定期間地域医療に従事する意欲のある者<br>以上の①及び②を満たす者   |
| 貸与金額       | 月 額 : 100,000円<br>【年額】<br>1,200,000円  |
| 返還免除<br>条件 | ①医師免許所得後、直ちに2年間の初期臨床研修を県内臨床研修指定病院で実施<br>②初期臨床研修終了後、引き続き県内医療機関で<br>修学資金貸与期間と同期間(貸付期間が2年未満の場合は2年)を業務に従事し、<br>うち2分の1に相当する期間は知事の指定する医療機関で勤務<br>以上2つの条件を満たす場合には、全額免除 |

(備考) 救急医療等確保事業 : 医療法第30条の4の2項の5に定める医療の確保に必要な事業。  
 救急医療、災害時の医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療、その他特に必要と認める医療

Gifu University School of Medicine

CRM

# 岐阜県修学資金貸与学生の予定 (第2種修学資金)

| 年  | 1  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7   | 8  | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|----|--|---|---|---|---|---|---|--|---|----|----|----|----|----|
| 所属 | 医学部医学科<br>卒前教育(6年)   |   |   |   |   |   | 研修指<br>定病院  | 指定勤務<br>(貸与期間6年の場合)  |   |    |    |    |    |    |
|    | ★地域枠以外の<br>入学者と<br>加枠17名同一<br><br>★医学科全学生平等に<br>地域医療に触れる<br>機会あり |   |   |   |   |   | 大学あ<br>るいは<br>大学と<br>連携<br>できる<br>岐阜県<br>内の<br>研修<br>指定<br>病院<br>(22) | ①うち1/2年(3年)は、知<br>事が指定する県内の医療<br>機関に勤務。<br><br>②1/2年(3年)は大学を含<br>む県内の医療機関に勤務。<br>この間、大学に在籍中に<br>国内、国外の短期研修を<br>許可する。 |   |    |    |    |    |    |

## 修学資金応募状況(2008-2012年度)

| 学年          | 2008年度 |    | 2009年度 |    | 2010年度 |    | 2011年度 |    | 2012年度 |             | 合計   |
|-------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|-------------|------|
|             | 1種     | 2種 | 1種     | 2種 | 1種     | 2種 | 1種     | 2種 | 1種     | 2種          |      |
| GUM-M1      | 10     | 18 | 15     | 3  | 25     | 3  | 25     | 2  | 25     | 募<br>集<br>中 | 126  |
| GUM-M2      |        | 3  |        | 1  |        |    |        | 2  |        |             | 6+a  |
| GUM-M3      |        | 3  |        | 1  |        |    |        |    |        |             | 4+a  |
| GUM-M4      |        | 2  |        | 5  |        |    |        |    |        |             | 7+a  |
| GUM-M5      |        | 4  |        | 3  |        |    |        |    |        |             | 7+a  |
| GUM-M6      |        | 3  |        | 7  |        | 1  |        | 1  |        |             | 12+a |
| Other Univ. |        | 14 |        | 5  |        | 6  |        | 5  |        |             | 30+a |
| 合計          | 10     | 47 | 15     | 25 | 25     | 10 | 25     | 10 | 25     | 14          | 206  |

# 修学資金貸与者卒業後の状況

## 第1種（地域枠）、第2種の合計

|          | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26    | H27    | H28    |           |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|--------|--------|-----------|
| 新規マッチング者 | 3   | 11  | 7   | 12  | 8   | 30(10) | 21(14) | 35(26) | (括弧内は地域枠) |
| 初期研修     | 3   | 14  | 18  | 19  | 30  | 38     | 51     | 57     |           |
| 後期研修     |     |     | 3   | 14  | 18  | 19     | 23     | 48     |           |
| 合計       | 3   | 14  | 21  | 33  | 48  | 57     | 74     | 105    |           |

## 第1種（地域枠）のみ

|      | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | H35 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 初期研修 | 10  | 24  | 40  | 51  | 50  | 50  | 50  | 50  | 50  | 50  |
| 後期研修 |     |     | 10  | 24  | 50  | 75  | 100 | 125 | 150 | 175 |
| 合計   | 10  | 24  | 50  | 75  | 100 | 125 | 150 | 175 | 200 | 225 |

- \* 第1種修学資金はH24年度移行毎年25名、第2種はH24年度のみ14名、H25年度以降は10名に対し第1学年に貸し付けるものとして計算
- \* 返還免除となる期間に限る人数計算

# 初期臨床研修

## 2年間

### 岐阜県内の

### 22臨床研修指定病院で研修

## マッチングは特別枠なく

## よろしくフリーに行う

# 岐阜県内の臨床研修指定病院

|               |             |
|---------------|-------------|
| 1 岐阜大学医学部附属病院 | 12 中濃厚生病院   |
| 2 岐阜県総合医療センター | 13 東濃厚生病院   |
| 3 岐阜市民病院      | 14 久美愛厚生病院  |
| 4 大垣市民病院      | 15 岐阜社会保険病院 |
| 5 羽島市民病院      | 16 東海中央病院   |
| 6 岐阜県立多治見病院   | 17 松波総合病院   |
| 7 中津川市民病院     | 18 木沢記念病院   |
| 8 土岐市立総合病院    | 19 みどり病院    |
| 9 岐阜県立下呂温泉病院  | 20 河村病院     |
| 10 岐阜赤十字病院    | 21 長良医療センター |
| 11 高山赤十字病院    | 22 村上記念病院   |

## 岐阜県修学資金貸与学生の予定 (第1種修学資金)

| 年  | 1  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7   | 8  | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |  |
|----|--|---|---|---|---|---|---|--|---|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 所属 | 医学部医学科<br>卒前教育(6年)   |   |   |   |   |   | 研修指<br>定病院  | 指定勤務   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|    | ★地域枠以外の<br>入学者と<br>加ナラム同一<br>★医学科全学生平等に<br>地域医療に触れる<br>機会あり<br>★里親制度(担任制)の<br>担当はCRM教官 |   |   |   |   |   | 大学あ<br>るいは<br>大学と<br>連携<br>できる<br>岐阜県<br>内の<br>研修<br>指定<br>病院<br>(22) | ①うち2/3年(6年)は、知事<br>が指定する県内の医療機関<br>に勤務。<br>②1/3年(3年)は大学を含む<br>県内の医療機関に勤務。こ<br>の間、大学に在籍中に国内、<br>国外の短期研修を許可する。 |   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |

# 知事が指定する医療機関

知事が指定する医療機関

| 種別                               | 開設者         | 病診の別                                | 医療機関名   |
|----------------------------------|-------------|-------------------------------------|---|
| 医療法（昭和23年法律第205号）第31条に規定する公的医療機関 | 岐阜県地方独立行政法人 | 病院                                  | 岐阜県立希望が丘学園<br>岐阜県総合医療センター<br>岐阜県立多治見病院<br>岐阜県立下呂温泉病院  |
|                                  | 市町村         | 病院                                  | 岐阜市民病院<br>羽島市民病院<br>大垣市民病院<br>国民健康保険関ヶ原病院<br>美濃市立美濃病院<br>郡上市民病院<br>郡上市国民自島病院<br>社会医療法人厚生会多治見市民病院<br>土岐市立総合病院<br>総合病院中津川市民病院<br>国民健康保険坂下病院<br>市立忠節病院<br>国民健康保険上矢作病院<br>下呂市立金山病院<br>国民健康保険飛騨市民病院  |
|                                  |             | 常勤の医師が勤務する（へき地）診療所（へき地医療対策等実施要綱による） | 国民健康保険根尾診療所<br>国民健康保険上石津診療所<br>春日診療所<br>坂内国民健康保険診療所<br>藤橋国民健康保険診療所<br>久瀬診療所<br>国民健康保険洞戸診療所<br>国民健康保険板取診療所<br>国民健康保険上之保診療所<br>郡上市地域医療センター国保和良診療所<br>可児市国民健康保険診療所<br>東白川村国保診療所<br>国民健康保険虹川診療所<br>国民健康保険飯地診療所<br>国民健康保険三郷診療所<br>国民健康保険山岡診療所<br>国民健康保険清見診療所<br>国民健康保険花川診療所<br>国民健康保険久々野診療所<br>国民健康保険朝日診療所<br>国民健康保険高根診療所<br>国民健康保険根尾診療所<br>国民健康保険飛騨市河合診療所<br>国民健康保険飛騨市宮川診療所<br>下呂市立小坂診療所<br>国民健康保険白川診療所 |
|                                  | 日本赤十字社岐阜県支部 | 病院                                  | 岐阜赤十字病院<br>高山赤十字病院  |

| 種別  | 開設者   | 病診の別 | 医療機関名   |
|---|---|------|---|
| 国立大学法（平成15年法律第112号）に基づき設置された法人が開設した病院         | 岐阜県厚生農業協同組合連合会  | 病院   | 岐阜厚生病院<br>西美濃厚生病院<br>掛斐厚生病院<br>中濃厚生病院<br>東濃厚生病院<br>久美愛厚生病院<br>高山厚生病院  |
|   | 国立大学  | 病院   | 国立大学法人岐阜大学医学部附属病院   |
| 独立行政法人国立病院機構法（平成14年法律第191号）に基づき設置された法人が開設した病院 | 独立行政法人国立病院機構  | 病院   | 独立行政法人国立病院機構長良医療センター  |
|   | 救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき指定を受けた病院のうち上記に記載されていないもの | 病院   | 朝日大学歯学部附属村上記念病院<br>笠松病院<br>医療法人社団志明会加納渡辺病院<br>河村病院<br>医療法人社団誠心会岐阜中央病院<br>岐阜ハートセンター<br>医療法人社団慈明会澤田病院<br>医療法人慶應会千手堂病院<br>医療法人社団豊会近石病院<br>医療法人社団及樹会早徳病院<br>医療法人社団誠心会平野総合病院<br>医療法人社団厚仁会外科病院<br>みどり病院<br>医療法人社団幸起会安江病院<br>医療法人生友会柳津病院<br>山内ホスピタル<br>公立学校共済組合東海中央病院<br>医療法人秀峯会横山病院<br>朝日大学歯学部附属病院<br>社会医療法人蘇厚生会松波総合病院<br>名和病院<br>医療法人社団正和会馬淵病院<br>医療法人社団帯水会藤井病院<br>医療法人社団豊正会大垣中央病院<br>海津市医師会病院<br>新生病院<br>博愛会病院<br>医療法人徳洲会大垣徳洲会病院<br>医療法人香徳会関中央病院<br>医療法人社団白鳳会鷺見病院<br>本沢記念病院<br>太田病院<br>濃成病院<br>岐阜社会保険病院<br>医療法人馨仁会藤掛病院<br>東可児病院<br>桃井病院<br>医療法人白木会白川病院<br>タジミ第一病院 |

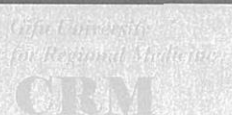
## 後期臨床研修 指定勤務9年間のうち 3分の2(=6年間)

### 県知事が指定する

- ① 岐阜大学医学部附属病院
- ② 研修指定病院(22施設)
- ③ その他の地域中核的な病院・診療所  
(国公立, 赤十字, JA、救急指定病院等)

などの教育体制が整った施設をローテーション

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムがキャリア管理  
⇒キャリア記録・ルール遵守評価



## 後期臨床研修 指定勤務9年間のうち3分の2(=6年間)

### ローテーションルール(内規・案)

- ① 県内5圏域の複数圏域で勤務
- ② 少なくとも50%以上は岐阜圏域以外で
- ③ ただし、医師不足圏域に長期間勤務可能
- ④ 各圏域の勤務病院指定にあたっては、圏域全体の医療機関の医療確保に配慮する。
- ⑤ 構成病院9施設で勤務する場合は、外勤などの形で医師不足圏域医療機関の診療支援を
- ⑥ 専門診療科によっては、バリエーションに臨機応変に対応

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムがキャリア管理  
⇒キャリア記録・ルール遵守評価

Gifu University  
Center for Regional Medicine  
CRM

## 後期臨床研修 指定勤務9年間のうち 3分の1(=3年間)

- ① 岐阜県内の医療機関であればいずれで勤務してもよい。
- ② 県外(国内外含む)の短期研修可能。
- ③ 大学院入学も可能。

岐阜県医師育成・確保コンソーシアムがキャリア管理  
⇒キャリア記録・ルール遵守評価

Gifu University  
Center for Regional Medicine  
CRM

# 地域枠卒業生 - コンソーシアム管理キャリアパス(例)

## 循環器内科専門医希望

| 年次   | 1              | 2 | 3                    | 4               | 5               | 6                | 7                | 8             | 9                       | 10               | 11              |
|------|----------------|---|----------------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|---------------|-------------------------|------------------|-----------------|
| 研修病院 | 岐阜県内研修指定病院     |   | 岐阜県総合医療センター<br>循環器内科 |                 | 岐阜大学病院<br>循環器内科 | 岐阜赤十字病院<br>循環器内科 | 郡上市民病院<br>循環器内科  | 岐阜県内<br>私立A病院 | 郡上市<br>国保白鳥病院<br>循環器内科  | 白鳳会聖見病院<br>循環器内科 | 岐阜大学病院<br>循環器内科 |
| 備考   | 当該病院のカリキュラムに従う |   |                      | 日本内科学会<br>認定医取得 |                 |                  | 日本循環器学会<br>専門医取得 |               | 日本内科学会<br>総合内科専門医<br>取得 |                  |                 |

## 消化器内科専門医希望 (大学院希望者)

| 年次   | 1              | 2 | 3               | 4               | 5               | 6 | 7                 | 8                       | 9                                 | 10 | 11 | 12   |
|------|----------------|---|-----------------|-----------------|-----------------|---|-------------------|-------------------------|-----------------------------------|----|----|------|
| 研修病院 | 岐阜県内研修指定病院     |   | 羽島市民病院<br>消化器内科 |                 | 下呂温泉病院<br>消化器内科 |   | 中濃厚生病院<br>消化器内科   |                         | 岐阜大学病院 消化器内科<br>(一定期間岐阜県内私立病院も可能) |    |    |      |
| 備考   | 当該病院のカリキュラムに従う |   |                 | 日本内科学会<br>認定医取得 |                 |   | 日本消化器病学会<br>専門医取得 | 日本内科学会<br>総合内科専門医<br>取得 | 社会人大学院入学                          |    |    | 学位取得 |

## 総合医・家庭医希望(CRMがコア・イネット)

| 年次   | 1              | 2 | 3            | 4               | 5                      | 6 | 7                       | 8                       | 9      | 10            | 11 |
|------|----------------|---|--------------|-----------------|------------------------|---|-------------------------|-------------------------|--------|---------------|----|
| 研修病院 | 岐阜県内研修指定病院     |   | 市立東郷病院<br>内科 |                 | 郡上市地域医療センター<br>国保和良診療所 |   | 田舎郡北西部地域医療センター<br>久瀬診療所 |                         | 岐阜大学病院 | 岐阜県内<br>私立B病院 |    |
| 備考   | 当該病院のカリキュラムに従う |   |              | 日本内科学会<br>認定医取得 |                        |   | 家庭医認定資格?                | 日本内科学会<br>総合内科専門医<br>取得 |        |               |    |

## 脳神経外科専門医希望

| 年次   | 1              | 2 | 3                                 | 4                | 5               | 6                    | 7              | 8               | 9                 | 10 | 11              |
|------|----------------|---|-----------------------------------|------------------|-----------------|----------------------|----------------|-----------------|-------------------|----|-----------------|
| 研修病院 | 岐阜県内研修指定病院     |   | 岐阜大学病院<br>脳神経外科                   | 高山赤十字病院<br>脳神経外科 | 岐阜市民病院<br>脳神経外科 | 岐阜県総合医療センター<br>脳神経外科 |                | 岐阜大学病院<br>脳神経外科 | 土岐市立総合病院<br>脳神経外科 |    | 岐阜大学病院<br>脳神経外科 |
| 備考   | 当該病院のカリキュラムに従う |   | 国内症例<br>総数施設<br>に留学<br>~6ヶ月<br>以内 |                  |                 |                      | 脳神経外科専門医<br>受験 |                 |                   |    |                 |

三  
冊  
源



【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- ・平成22年末現在、三重県の医師数は、人口10万人あたり190.1人（全国219.0人）、全国で37位となっている。
- ・医師の「地域偏在」「診療科の偏在」、さらに診療所と比較して病院勤務医師が不足する「病診偏在」が顕著化している。
- ・県内の医師数は増加しているものの、救急医療などを中心的に担う40代までの医師数が減少傾向にある。
- ・医師修学資金貸与制度利用者や三重大学医学部地域卒業生の県内医療機関への勤務が今後増加する見込みであることから、これらの医師が、県内に定着してもらえるよう、キャリア形成の支援を行う必要がある。

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ①医師無料職業紹介事業による医師確保（H22～）
- ②三重県版医師定着支援システムを活用した診療支援（H21～）
  - ・医師不足地域の病院に対して、支援病院から医師を派遣
- ③医師修学資金貸与制度（H16～）、臨床研修医・専門研修医研修資金貸与制度の運用（H23～）
- ④臨床研修病院の魅力向上支援（H22～）
  - ・臨床研修医確保の取組、コンペ方式で採択し財政支援
- ⑤勤務医師負担軽減対策事業（H22～）
  - ・病院勤務医の負担軽減を図るための病院の創意工夫による取組をコンペ方式で採択し財政支援
- ⑥三重大学や三重県地域医療研修センターにおける医学生等に対する地域医療に関する教育と動機付け（H21～）
  - ・大学、市町、県等の協働による地域医療を担う人材の育成
  - ・医学生・研修医に対する地域医療に関する実践的な研修の提供

### 【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| ①問合数 39 名                   | 成約 14 名、継続 9 名 (24.3 末現在) |
| ②支援実績                       | 3 件                       |
| ③医師修学資金貸与者累計                | 285 名                     |
| 臨床研修医研修資金貸与者累計              | 18 名                      |
| 専門研修医研修資金貸与者累計              | 2 名                       |
| ④平成 22 年度実績                 | 8 病院 1 団体 10 事業           |
| 平成 23 年度実績                  | 8 病院 1 団体 11 事業           |
| ⑤平成 22 年度実績                 | 5 病院 5 事業                 |
| 平成 23 年度実績                  | 5 病院 7 事業                 |
| ⑥三重県地域医療研修センターでの初期臨床研修医受入実績 |                           |
| 平成 21 年度                    | 21 人                      |
| 平成 22 年度                    | 35 人                      |
| 平成 23 年度                    | 35 人                      |

### 【設問 4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

地域医療支援センターにおいて、修学資金貸与者等のキャリア形成の支援を行うにあたり、地域や県民の期待に応えるような勤務形態、研修計画を立案し、かつ専門医取得、大学院入学、国内国外留学を含めた支援を受けられるよう、県民、地域、若手医師のすべてが win-win となるキメの細かいキャリア支援モデルを立案し安心して初期後期の研修に打ち込める体制づくりを行うため、関係医療機関の理解、協力が得られるよう調整する必要がある。

また、修学資金貸与者等が、支援センターを活用したキャリア形成をしてもらえよう、周知に取り組む必要がある。

## 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・ 病院、研修医等への調査による医師不足原因の調査
- ・ 地域別、主要病院別、診療科別等の医師需給予測
- ・ 修学資金貸与者等の医師不足地域・病院への適正配置
- ・ 修学資金貸与者等が勤務しやすい環境整備についての提言
- ・ ホームページにより、医師、医学生等に向け、キャリア形成支援の取組や研修会開催状況等の情報提供
- ・ 修学資金貸与者等の卒後のキャリア形成支援モデルの作成・助言
- ・ 修学資金貸与者等へのキャリア支援セミナー等の実施
- ・ 医師・医学生のキャリア形成に関する問い合わせ対応
- ・ 県内高校生等からの医学部のカリキュラム、医師の職業、修学資金制度等に関する問い合わせ対応
- ・ 後期研修プログラムと一体化したキャリア支援を行い確実に専門医資格の取得をサポート
- ・ 大学院入学や国内海外留学などの支援の実施

滋賀県

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

新医師臨床研修制度の導入を契機に医師不足が顕在化したことから、県独自の基金を創設するとともに医師確保支援センターを設置し、平成19年より医師確保対策に取り組んでいる。また、平成22年からは地域医療再生計画に基づく医師確保に取り組んだ結果、徐々に医師数は増加している傾向にある。しかしながら、依然として地域偏在や診療科偏在の課題が残っており、引き続き医師確保に取り組んでいく必要がある。

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

| ○積極的な医師の養成            |                                   |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 事業名                   | 概要                                |
| 専門研修医貸付事業             | 特定診療科（産科、小児科、麻酔科、精神科）を目指す専門研修医へ貸与 |
| 臨床研修医貸付事業             | 特定診療科を目指す研修医へ貸与                   |
| 医学生修学資金貸付事業           | 特定診療科を目指す医学生へ貸与                   |
| 緊急医師養成奨学金             | 滋賀医大（地域枠）入学者5名に対する奨学金             |
| ○医師確保システムの構築          |                                   |
| 事業名                   | 概要                                |
| 医師不足病院支援事業            | 公立病院が新規就業医師に支払う支度金（貸付金）に対する補助     |
| ○魅力ある病院づくり            |                                   |
| 事業名                   | 概要                                |
| 初期臨床研修医特定医療分野診療医師養成事業 | 小児科・産科の臨床研修コースにおける研修指導医の経費に対する支援  |

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

| ○積極的な医師の養成                |                       |          |
|---------------------------|-----------------------|----------|
| 事業名                       | 期間                    | 貸与者数(累計) |
| 専門研修医貸付事業                 | 平成19～23年度             | 10名      |
| 臨床研修医貸付事業                 | 平成19～23年度             | 9名       |
| 医学生修学資金貸付事業               | 平成19～23年度             | 23名      |
| 緊急医師養成奨学金                 | 平成21～23年度             | 25名      |
| ○医師確保システムの構築              |                       |          |
| 事業名                       | 実績                    |          |
| 医師不足病院支援事業<br>(H21以降の累計)  | (H21)                 | 2病院で5名   |
|                           | (H22)                 | 2病院で5名   |
|                           | (H23)                 | 1病院で3名   |
| ○魅力ある病院づくり                |                       |          |
| 事業名                       | 実績(対象コースに在籍する臨床研修医人数) |          |
| 初期臨床研修医特定医療<br>分野診療医師養成事業 | (H21)                 | 4名       |
|                           | (H22)                 | 4名       |
|                           | (H23)                 | 4名       |

【設問4】

貴道府県の地域医療支援センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

滋賀県の貸付制度を活用している研修医等にいかにより多くの県内病院へ就業し定着してもらえるかが課題である。また、女性医師においては、結婚や出産を契機に臨床現場を離れざるを得ない場合もあり、離職防止や現場復帰への支援が必要である。

【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

滋賀県(滋賀県医師キャリアサポートセンター)では、これまで県が取り組んできた医師確保支援センターの機能に加えて、医師のキャリア形成支援として、貸付制度において貸与している研修医の県内の病院への就業を促進するための支援を実施することや臨床現場を離れた女性医師の現場復帰の促進や仕事と子育て等を両立しながら働き続ける女性医師を支援するための総合的な相談窓口の設置を滋賀医大へ委託し、今年度以降取り組んでいく。

また、医師確保システムの構築の一環として、県内病院での初期臨床研修医を確保するため本年度から県内での医学生向けの病院合同説明会を開催する。

～以上～

京都府

地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

- ・京都府は医師数が多いと言われているが、府内では医師の地域偏在（京都・乙訓以外の5医療圏は全国平均以下）など医師不足問題が存在。
- ・「京都府医療対策協議会」（平成18年10月設置）の検討を踏まえ、市町村、両大学（府立医大・京大）、主要病院、医療関係団体等と連携を図り、平成19年度から、総合的な医師確保対策を開始。地域医療確保奨学金を始め、各種事業を実施してきたところ。
- ・平成23年3月には、今後の対応方向性として、① 医師のキャリア形成支援への取組、② 医師にとって魅力ある医療機関づくり・勤務環境の改善、③ 大学における地域貢献の取組、地域医療への動機付け、④ 医師を安定的に確保する仕組みづくりの4点が、府医療対策協議会より提言された。
- ・これらの新たな取組を、オール京都体制の下で実施していくため「京都府地域医療支援センター(Kyoto Medical Career support Center)KMCC」を国庫事業の採択を受けながら平成23年6月に設置したところ。

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

別紙 京都府地域医療支援センター（KMCC）の取組について のとおり

【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

別紙 京都府地域医療支援センター（KMCC）の取組について のとおり

【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- ・医師不足状況の定義及び把握が困難
- ・医師不足の病院に、コーディネートできるような医師を確保することが困難



**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

キャリアパス募集の拡大  
奨学金貸与者等への相談実施  
府医師会と連携した研修会事業の拡充  
女性医師WGの設置（女性医師対策の検討）  
医師不足状況調査の実施  
京都大学ブランチの設置  
病院就職説明会等への参加拡充等

～以上～

# 京都府における今後の医師確保対策(提言)及び地域医療支援センターの設置について

## 総合的な医師確保対策の展開

医療対策協議会の検討を踏まえ、平成19年度から施策を展開

ワーキンググループにおける検討

## 京都府における今後の医師確保対策について(提言)

### ◎府域の現状、これまでの取組状況等(検証)

- ・医師数:新臨床研修制度導入前と比べ、丹後及び中丹の2医療圏は減少しており、引き続き厳しい状況(「医師・歯科医師・薬剤師調査」平14-20の比較)
- ・臨床研修医:平成23年度マッチングで府立医大がフルマッチする等、臨床研修医数増加に転じる兆しはあるが、府立医大大学院在籍者数は依然として減少傾向
- ・現在の医療提供体制(医師数、診療体制等)は、大学、関係病院、市町村、府の取組によるバランスの上に成り立っており、より安定的に医師の確保・定着・循環ができるよう一層の工夫が必要

### ◎今後の対応方向性(課題)

医師のキャリア形成支援への取組

医師にとって魅力ある医療機関づくり・勤務環境の改善

大学における地域貢献の取組、地域医療への動機付け

医師を安定的に確保する仕組みづくり

### ◎今後の取組

- ・総合的な医師確保対策事業の検証・見直し・改善・推進(PDCA)
- ・医師一人ひとりの経験年数や専門性等に応じたキャリア形成支援、また魅力的なキャリアパスづくりのためのコーディネート機能の強化(大学、関係病院、行政等が連携)
- ・医師確保困難地域で勤務する若手医師等を想定したキャリアパスモデルづくりなどにより、医師の確保・定着・循環をシステム化(大学、関係病院、行政等が連携)
- ・その他、医学教育のあり方、医師確保に関する諸制度の検証等、引き続き中長期的に検討

新たな取組を具体化する実施主体として設置

## 地域医療支援センター

- ・京都府、京都大学、府立医科大学、主要病院、関係団体等が連携して、医師の確保・定着・循環のシステム化、各々の医師に応じたキャリア形成支援やコーディネート機能を担うことにより、地域医療に従事する医師を安定的に確保する。

# 京都府地域医療支援センター（KMCC）の取組について

## 1. 運営会議等実施状況

### (1) 運営会議

|   | 日 程       | 概 要   |
|---|-----------|---|
| ① | H23/6/20  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域医療支援センターの設置、役割について</li> <li>・ 医師のキャリア形成支援、キャリアパスモデルづくり等について</li> <li>→ 内科 WG 及び外科 WG の設置</li> </ul>            |
| ② | H23/10/17 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科 WG 及び外科 WG における検討状況について</li> <li>・ 内科、外科キャリアパスモデル案について</li> <li>・ 京都府地域医療支援センター(KMCC)開設記念フォーラムについて</li> </ul> |
| ③ | H24/3/2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H23 医師確保対策の状況及び H24 医師確保関係予算案について</li> <li>・ 京都府地域医療支援センター(KMCC)の取組について</li> <li>・ 医師臨床研修制度について</li> </ul>       |

### (2) ワーキンググループ

|       | 日 程        | 概 要   |
|-------|------------|---|
| 内科 WG | ① H23/7/29 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合内科・総合診療科キャリアパスモデルの検討、作成</li> </ul> |
|       | ② H23/9/2  |   |
| 外科 WG | ① H23/7/8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急科キャリアパスモデルの検討、作成</li> </ul>        |
|       | ② H23/8/26 |   |
|       | ③ H23/10/5 |   |

### (3) KMCC 開設記念フォーラム

① 日 時 平成 23 年 11 月 13 日（日）13 時 30 分～17 時

② 場 所 京都府立医科大学附属図書館 図書館ホール

③ 参加者 108 名

（医学生、臨床研修医 53 名、医師、病院関係者等 55 名）

④ 概 要

- ・ KMCC 設置趣旨及びキャリアパスモデル(総合内科・総合診療科、救急科)の紹介
- ・ 基調講演（筑波大学における地域医療教育の取組紹介等）
- ・ ディスカッション（府内病院における総合内科・総合診療への取組を通じた地域医療のあり方について等）

# 京都で暮らし、京都で築く メデイカルキャリア

京都で働きたい医師・医学生の方へ

KMCC  
京都府地域医療支援センター

問い合わせ先  
**京都府地域医療支援センター (KMCC)**  
Kyoto Medical Career support Center  
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入区ノ内町(京都府庁内)  
TEL:075-414-4721 FAX:075-414-4732 E-mail:kyo@pref.kyoto.lg.jp

「京都に縁のある医師との絆ネット」  
<http://www.pref.kyoto.jp/drkyoto/>  
京都に縁のある医師・医学生の皆さんを対象に、  
キャリアプランをはじめとした京都の医療情報を提供するホームページです。

京都 医師 絆ネット

メールマガジンをお送りする  
メール会員も募集中です。

絆ネットホームページから登録できます。

## あなたのキャリアアップを、 京都全体でサポートします。

歴史ある寺社仏閣が市内に点在する山紫水明の地・京都。  
一方で、最先端の学術研究が行われている大学のまち・京都。  
そして、自然に満ちた海や山々に囲まれ、四季の移ろいを身近に感じる京都。  
多彩な魅力を持ったこの地で、キャリアをスタートしたい医学生や、今までの経験を活かしたい医師の方々のために、  
「京都府地域医療支援センター」(KMCC:Kyoto Medical Career support Center)が設置されました。  
【オール京都体制】によるサポート体制を充実し、一人ひとりの医師に合わせたキャリアアップを支援します。

ご挨拶と設置趣旨

京都府地域医療支援センター長  
山岸 久一 (京都府特別参事)



「京都府地域医療支援センター(KMCC)」は、京都に縁のある医師・医学生の方々のキャリア支援を行うとともに、府内の地域医療の安定的な確保を図ることを目的として設置されました。京都府内の行政、医療従事者を養成する大学、医療機関や団体などが連携する「オール京都体制」で、「医療の連携・医師の支援・医療の安定」を目指します。  
また、一人ひとりの医師に合ったキャリア形成支援や医療機関へのコーディネートも実施。京都で働き、研鑽を積み、医師としてのキャリアを磨いていただくための体制を整備します。  
KMCCは、今後の日本の医療向上を図る仲間として、京都に来ていただける医師・医学生の皆さんの長期的なキャリアアップを支援し、京都の医療の充実に尽力してまいります。

事業内容

オール京都体制で若手医師のキャリアアップを支え、  
京都の医療向上を図る

4つの主な取り組み

- 魅力あるキャリアプラン**  
総合内科・総合診療科、救急科におけるキャリアパスを作成し、キャリアアップをサポート。価値分野については、順医療体制を整備(平成24年度)
- 個別に医療キャリア形成を支援**  
京都府で働きたい医師・医学生の相談に対応し、一人ひとりの経験年数や専門性に合わせたキャリア形成を支援
- 京都に縁のある医師とのネットワークを確立**  
「京都に縁のある医師との絆ネット」やメールマガジンなどを通じ、京都府内・府外を問わず医師・医学生向けの京都関連情報を発信
- 医師不足病院の把握および支援**  
京都府内の医療体制や医師不足状況の調査を踏まえて、コーディネート

オール京都体制  
京都府地域医療支援センター運営体制

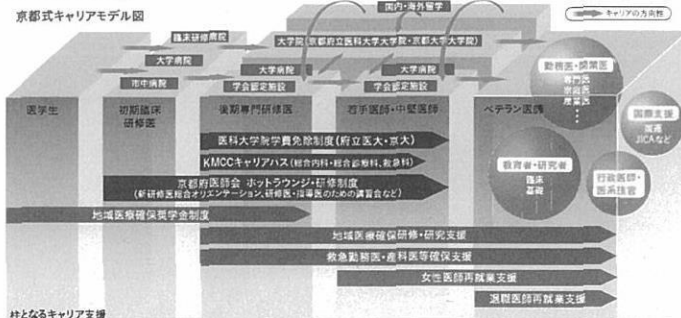


京都市  
キャリア支援制度

10年、20年先の未来を見つめて…

キャリアアップの方法は、一つではありません。様々なキャリアを目指すあなたのために、  
多様なキャリア支援制度を用意しています。

京都市キャリアモデル図



柱となるキャリア支援

- 医科大学院学費免除制度【京都市】**  
大学のまち京都府の独自制度。神戸市以北の医療機関で勤務実績のある医師を対象に、京都府立医科大学大学院・京都大学大学院医学研究科の入学料および学費免除の制度を設けています。地域の医療機関の就職を経て、キャリアアップを図ることが可能です。
- KMCCキャリアパス【京都府地域医療支援センター】**  
京都府も目標の指導医の指導のもと、総合内科・総合診療科、救急科の専門医資格を取得できる魅力的なキャリアプランです。(平成24年度)
- ホットラウンジ・各種研修会・講演会の開催【京都府医師会】**  
「京都府全体で連携を促す」という理念のもと、新研修会総合オンラインセッション、研修会・指導医のための講演会、研修医のための交流会などを開催。また、京都府研修医メーリングリストによる情報交換の場を設定。将来に不安を持つ若手医師を支援するため、ホームページ上で「ホットラウンジ」(<http://www.kyoto.med.or.jp/hotlounge/>)を開発し、現職的立場で様々な相談や悩みにも応じます。お互いに顔の見える交流を通じて、京都に「絆」のある若手医師を育てていきます。
- 地域医療確保奨励金制度【京都市】**  
医師確保困難地域の医療機関へ奨励金を活用する方を対象に、研修・学費支援を奨励
- 地域医療確保研修・研究支援【京都市】**  
医師確保困難地域に勤務する医師の研修・研究に関する経費の一部を、医療機関を通じて助成
- 救急勤務医・産科医等確保支援【京都市】**  
地域の救急・産科・産科医・産科医研修医などの手当てや経費の一部を、医療機関を通じて助成
- 女性医師・産科医等確保支援【京都市】**  
結婚や出産で離職された女性医師、産前などで退職されたベテラン医師の再就業支援を行った医療機関に対し、経費の一部を助成

# 京都のスーパーGeneralists

KMCC開設記念フォーラム

研修医、指導医  
キャリアアップに関心がある医師  
医学生の皆さん

京都府地域医療支援センター(KMCC)の紹介

総合司会 京都府地域医療支援センター長  
山岸 久一(京都府特別参加)

京都府地域医療支援センターの趣旨説明  
キャリアパスモデル紹介

基調講演

座長 京都府立医科大学大学院 医学研究科  
総合医療・医学教育学教授 山脇 正永 先生

筑波大学における地域医療教育の取り組み  
一地域で活躍する医師は地域で育てる

筑波大学 地域医療教育学教授 前野 哲博 先生

スーパーGeneralistsディスカッション

総合診療を通して、これからの医療を考える

【座長】  
香川 恵造 先生(市立福知山市民病院 病院長)  
松村 理司 先生(洛和会音羽病院 院長)

【アドバイザー】  
前野 哲博 先生(筑波大学 地域医療教育学教授)  
太田 凡 先生(京都府立医科大学大学院 医学研究科  
救急・災害医療システム学教授)

【パネリスト】  
神谷 亨 先生(洛和会音羽病院 総合診療科兼感染症科部長)  
瀬尾 泰正 先生(京丹後市立久美浜病院 診療部長)  
川島 篤志 先生(市立福知山市民病院 総合内科医長)

主催 京都府地域医療支援センター(KMCC)  
Kyoto Medical Career support Center  
問い合わせ先 〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町(京都府庁内)  
TEL☎075-414-4721 FAX☎075-414-4752 E-mail☎iryo@pref.kyoto.lg.jp

共催 公立大学法人京都府立医科大学、国立大学法人京都大学大学院医学研究科・  
社団法人京都府医師会、社団法人京都私立病院協会、京都府病院協会

日時 平成23年11月13日(日)  
13:30~17:00(受付13:00~)

場所 京都府立医科大学  
図書館ホール  
京都市上京区広小路通河原町西4

総合診療を通して、これからの医療を考える

参加無料  
定員200名

## フォーラム参加 スーパーGeneralists紹介

基調講演 筑波大学における地域医療教育の取り組み  
一地域で活躍する医師は地域で育てる

前野 哲博 先生 筑波大学 地域医療教育学教授

専門分野/総合診療、家庭医療、臨床医学教育  
経歴/筑波大学 平成3年(1991年)卒業、医学博士  
河北総合病院 内科研修医、筑波大学附属病院 総合医コースレジデント、川崎医科大学 総合診療部、  
筑波メディカルセンター病院、筑波大学 卒後臨床研修部講師、助教授を経て現職  
筑波大学附属病院 総合診療グループ長、総合臨床教育センター 副部長  
日本内科学会専門医・指導医、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・研修指導医

山脇 正永 先生 京都府立医科大学大学院 医学研究科 総合医療・医学教育学教授

座長 専門分野/プライマリ・ケア、リハビリテーション、神経内科、医学教育  
経歴/東京医科歯科大学医学部 昭和63年(1988年)卒業、医学博士、医療管理政策学修士  
国保旭中央病院 研修医、埼玉県総合リハビリテーションセンター、東京医科歯科大学 医学部講師  
(神経内科)、准教授(医学教育学)を経て現職 途中、米国バージニア州立大学生化学教室に留学

スーパーGeneralists ディスカッション 総合診療を通して、これからの医療を考える

香川 恵造 先生 市立福知山市民病院 病院長  
福知山市民病院事業管理者

座長 専門分野/消化器病学、肝臓病学  
経歴/京都府立医科大学 昭和48年(1973年)卒業、医学博士  
米国テンプル大学フェルズ研究所(遺伝子・分子生物部)留学、  
京都府立医科大学 第三内科講師、国立福知山病院 副院長、  
市立福知山市民病院 副院長を経て現職

松村 理司 先生 洛和会音羽病院 院長

座長 専門分野/総合診療、医学教育  
経歴/京都大学医学部 昭和49年(1974年)卒業  
京都大学核核胸部疾患研究所、国立療養所岐南病院、京都市立病院、  
市立舞鶴市民病院 副院長を経て現職  
国立がんセンター、沖縄県立中部病院、米国バファロー総合病院、  
コロラド州立大学病院で研修

太田 凡 先生 京都府立医科大学大学院  
医学研究科 救急・災害医療システム学教授

アドバイザー 専門分野/救急医学  
経歴/京都府立医科大学 昭和63年(1988年)卒業、医学博士  
京都府立医科大学附属病院 研修医、京都第二赤十字病院  
救命救急センター、湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科部長  
を経て現職

神谷 亨 先生 洛和会音羽病院 総合診療科兼感染症科部長

パネリスト 専門分野/内科学、感染症学  
経歴/名古屋大学医学部 平成3年(1991年)卒業  
市立舞鶴市民病院 研修医、自治医科大学附属さいたま医療セン  
ター 総合診療科シニアレジデント、ハワイ大学 内科レジデント、  
ユタ大学 感染症科フェローを経て現職

瀬尾 泰正 先生 京丹後市立久美浜病院 診療部長

パネリスト 専門分野/一般内科  
経歴/自治医科大学 平成4年(1992年)卒業  
京都府立医科大学附属病院 研修医、国保久美浜病院 内科  
医長、国保佐濃診療所 所長、内科部長を経て現職

川島 篤志 先生 市立福知山市民病院 総合内科医長

パネリスト 専門分野/総合診療、内科一般  
経歴/筑波大学医学部専門学群 平成9年(1997年)卒業、公衆衛生学修士  
市立舞鶴市民病院 研修医、米国ジョーンズ・ホプキンス大公衆衛  
生大学院留学、市立堺病院を経て現職

●アドバイザーには前野哲博先生もご参加いただけます。

事前申込 E-mail : iryo@pref.kyoto.lg.jp  
【メール件名:11/13フォーラム申込】とし、メール本文に「氏名、所属名」を明記の上お申し込みください。



「京都に縁のある医師との絆ネット」  
<http://www.pref.kyoto.jp/drkyoto/>

京都に縁のある医師・医学生の皆さんを対象に、  
キャリアプランをはじめとした京都の医療情報を  
提供するホームページです。

京都 医師 絆ネット

メール会員も 募集中です。 メールアドレス : iryo@pref.kyoto.lg.jp  
(京都府健康福祉部医療課)

島根県

## 地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

### 【設問 1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

（課題）医師不足が深刻な地域（県西部や隠岐）や不足する診療科（産科、小児科、外科等）へ勤務する医師の確保

（県の取組）「ドクターバンク」を活用した県外医師の招へいや医学生奨学金や研修医向け研修資金（不足診療科向けを含む）貸与制度などの取組み

### 【設問 2】

設問 1 で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※ 24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ① キャリア形成支援：地域枠や奨学金の貸与を受けた医師などに対して面談等を実施しながら、キャリアプログラムの作成を支援
- ② ドクターバンク事業：県が実施しているドクターバンク事業と連携し、県内医療機関へ医師を招へい

### 【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

- ① キャリア形成支援：平成 23 年度は、センターが支援する奨学金の貸与を受け後期研修医 22 名が県内医療機関へ勤務
- ② ドクターバンク事業：H23 年度は 15 名の医師を県内医療機関へ招へい

### 【設問 4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- 平成 26 年度には奨学金の貸与を受けた医師が約 90 名となり、それ以降も増え続けるため、それらの医師に十分なキャリア支援ができる体制が確保できるか。（専任医師の確保や財源）
- 医師不足が深刻な地域の医療機関で若手医師が充実した研修が受けられるよう県外等への研修機会の提供や指導体制の充実などの財源も含めた支援が必要。

**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・基本的には、昨年度と同様
- ・ただし、本年度末に島根大学医学部敷地内に完成する研修センター内に事務所を設置し、県職員、大学職員等が連携し、事業が取り組めるよう体制を整備する予定

～以上～



# しまね地域医療支援センターの取組み

## 1 設置目的

○平成26年度には県の奨学金の貸与を受けた医師が90人程度となる見込みであり、増加する「島根大学地域枠出身医師」や「奨学金の貸与を受けた医師」などの県内定着に向けた支援体制の充実を図る。

## 2 設置場所

島根大学 医学部 地域医療支援学講座、島根県 健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室 内

## 3 事業内容

### (1) キャリア形成支援

- ・若手医師が県内に軸足を置きながら認定医や専門医等の資格が取得できるよう、大学、医療機関、医師会、行政等が一体となってキャリア形成を支援し、医師の県内定着を図る。
- ・医療機関の研修体制の充実を支援(若手医師の声をフィードバック)する。

#### 支援対象者

- ① 島根大学医学部地域枠卒業医師
- ② 奨学金の貸与を受けた医師
- ③ 初期、後期研修医向け研修資金の貸与を受けた医師
- ④ 義務年限内自治医科大学卒業医師
- ⑤ 支援を希望する医師 等

専任医師等による面談  
(随時)



- #### 10年程度のキャリアプログラムの作成
- ・本人の目標(専門医資格取得など)や希望を基本
  - ・研修先勤務先の調整  
(地域の医療情勢等を踏まえ)
  - ・奨学金の義務履行を果たす時期・場所等
  - ・生活面・結婚、出産 などを考慮

### キャリアプラン

内科コース(事例)

研修医の希望を尊重した県外・海外研修(高度・最先端の医療技術を習得)

|      | 1年目      | 2年目 | 3年目           | 4年目       | 5年目 | 6年目  | 7年目     | 8年目  | 9年目         | 10年目 |
|------|----------|-----|---------------|-----------|-----|------|---------|------|-------------|------|
| 研修施設 | 初期臨床研修病院 |     | 大学病院又は、地域中核病院 |           |     | 地域病院 |         | 県外病院 | 地域病院(地域診療所) |      |
| 資格等  |          |     |               | 【認定内科医取得】 |     |      | 【専門医取得】 |      |             |      |

高度、多様な症例などを経験する専門研修

地域医療を経験し、幅広い診療能力を養成

指導的な立場で後輩を育成

### (2) 研修医の確保

- ・全国規模の病院説明会へ「島根県臨床研修病院群」として出展
- ・県内の病院説明会・個別面談会の開催
- ・医学生と後期研修医の交流会の開催
- ・専用ホームページ、リーフレット、専門医ガイドブックの作成・配布 等



### (3) ワークライフバランスの推進

女性医師の離職防止・復職支援等の推進に向け、県内ネットワークの構築

### (4) 島根大学医学部研修センター(仮称)

平成25年3月に完成する島根大学医学部研修センター(仮称)内に、しまね地域医療支援センターの事務所を設置する予定。

同施設内には、島根大学地域医療支援学講座、島根大学卒後臨床研修センター(初期研修医が所属)、総合医の育成を支援する講座、研修医の居室等が入居し、連携体制を強化する。

広島県

【設問 1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

本県は平成 18 年に「医師・歯科医師・薬剤師調査」において、全国で唯一医師数が減少しました。以降の調査においても、20 歳・30 歳代の医師数が減少している傾向にあります。また、診療科や地域の偏在も課題です。本県においては、平成 23 年 7 月から「(財) 広島県地域保健医療推進機構」を設立し、医師の配置調整や医師確保、人材育成等に総合的かつ機動的に取り組んでいます。(取組みの詳細は別紙 1 のとおり)

【設問 2】

設問 1 で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。(ポンチ絵等、参考資料を添付願います。)

※ 24 年度から実施の 5 県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

【設問 1】の課題に対し、20 歳・30 歳代の若手医師を確保するために、「広島県医師育成奨学金」の貸与を行い、将来の地域医療を担う医師を育成するとともに、前述の機構において、「医師派遣・支援」、「人材育成・研修」、「医師の定着促進」及び「情報収集・情報発信」について、事業を展開しています。(事業の詳細は別紙 2 のとおり)

【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

○ 県内へ就業した県外からの医師数：6 名（ふるさとドクターネットへの登録医師数は 221 名）

○ キャリア支援プログラムの内容：

広島大学と県内の基幹病院の関係者からなる「プログラム策定運営委員会」等にて作成された小児科医と産婦人科医に係るキャリア支援プログラムの運営支援（8 名参加）

【設問 4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

- 県内医療機関への医師の就業促進
  - 女性医師の就業やベテラン医師による地域医療への支援の仕組みづくり
  - 情報発信の充実
- などが現時点の課題です。


**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

昨年度と同様に、「医師派遣・支援」、「人材育成・研修」、「医師の定着促進」及び「情報収集・情報発信」を実施し、各事業を更に拡充させるとともに、関係者からのヒヤリング等により新たな事業展開を模索しつつ、総合的かつ機動的に取り組んで参ります。

～以上～

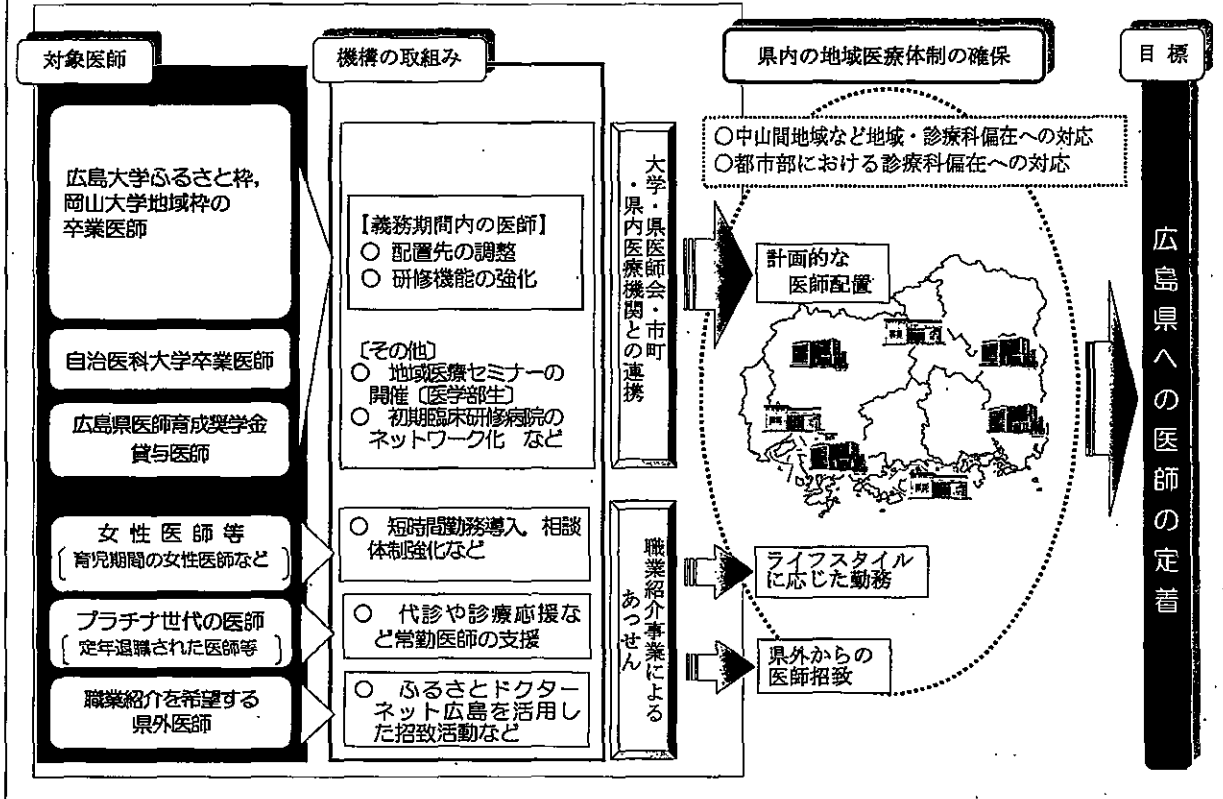
# 医師不足問題対応への考え方と施策

| 基本方針   | 対 策              | 広島県的主要施策・対応   | 推進機構の主要施策・対応   |
|--|------------------|---|--|
| <b>I 医師の絶対数確保</b><br> | 不足地域への医師の派遣      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治医科大学での医師養成</li> <li>・プライマリ・ケア医養成</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治医科大学卒業医師等の配置調整</li> <li>・広島県へき地医療支援機構の事務局機能</li> </ul>                                 |
|  | 不足地域・診療科への医師の招へい | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩・新生児・救急勤務医手当への支援</li> <li>・女性医師等就労環境整備事業</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性医師の育児期間等への対応等、離職防止</li> <li>・プラチナ世代の医師等を地域医療に向ける仕組みづくり</li> </ul>                      |
|  | 県外医師の県内での就業促進    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・求職者・求人者間のあっせん業務</li> <li>・県外医師の県内招致や県内外の医師のリクルート支援</li> <li>・ふるさとドクターネット広島の運営</li> </ul> |
|  | 医師養成数の増大(定着支援)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島大学「ふるさと枠」</li> <li>・岡山大学「広島県地域枠」</li> <li>・広島大学医学部寄附講座の設置</li> <li>・広島県医師育成奨学金</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修病院の支援</li> <li>・基幹病院等複数の医療機関の連携による研修システムの開発, 実施支援</li> <li>・地域医療セミナーの実施</li> </ul>   |
| <b>II 地域医療体制の維持・確保</b>   | 新たな医師確保対策システムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県地域保健医療推進機構の設立</li> </ul>   |  |
|  | 地域住民の理解・協力の促進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療を考える市町, 住民の取組への支援</li> </ul>  |  |

## 広島県地域保健医療推進機構の事業内容

|   |  |
|---|--|
| <b>I. 医師派遣・支援機能</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キャリアパス・キャリアデザインの構築</li> <li>② 医師配置調整</li> <li>③ 求職者・求人者間のあっせん</li> <li>④ 県外医師の県内招致や県内外の医師のリクルート支援</li> </ol> <b>II. 人材育成・研修機能</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑤ 地域医療セミナーの実施</li> <li>⑥ 初期臨床研修病院の支援</li> <li>⑦ 複数の医療機関の連携による研修システムの開発, 実施支援</li> <li>⑧ 新人看護職員研修のサポート</li> <li>⑨ 地域における臨床と研究の橋渡し</li> </ol> | <b>III. 医師の定着促進機能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療のサポート機能</li> <li>⑩ 女性医師の育児期間等への対応等、離職防止</li> <li>⑪ プラチナ世代の医師等を地域医療に向ける仕組みづくり</li> <li>⑫ 地域医療を考える市町・住民の取組への県等と連携した支援</li> <li>⑬ 広島県へき地医療支援機構の事務局機能</li> </ul> <b>IV. 情報収集・情報発信機能</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑭ 情報収集</li> <li>⑮ 情報発信</li> </ol> |
|---|--|

# 広島県地域保健医療推進機構における医師の確保定着に関する全体像



## 広島県の医師確保・定着促進

| (~18歳)                     | 卒業年数   | 0-2年目   | 3-15年目                | 16年目-         | およそ35年目-             |
|----------------------------|--|---|-----------------------|---------------|----------------------|
| 高校等                        | 大学医学部<br>(6年間)   | 初期臨床研修  | 若手~中堅医師<br>主に<br>義務年限 | 中堅・ベテラン医師、指導医 | ベテラン医師<br>(プラチナ世代)   |
| <b>(地域)医療の普及・啓発</b>        | 臨床研修病院合同説明会参加<br>(レジナビフェアin大阪)   | 臨床研修病院ガイドブック作成  | プライマリ・ケア医養成事業         |               |                      |
|                            | 自治医科大学学生の育成<br>広島大学ふるさと枠<br>医学生への育成<br>岡山大学地域枠<br>医学生への育成<br>広島県医師育成奨学金<br>貸与医学生への育成 | ふるさとドクターネット広島による医師招致活動                                      | 医師の配置調整               |               |                      |
|                            | 広島大学寄附講座   | 地域で行う医師の理解促進と定着促進支援   |                       |               |                      |
|                            | 地域医療セミナーの開催  | 女性医師の離職防止支援等(相談窓口・就労環境整備支援制度)                               |                       |               |                      |
|                            |  | 広島県小児科<br>後期研修プログラム   | 広島がん専門医<br>育成研修プログラム  |               | プラチナ医師の活用<br>(事前登録等) |
|                            |  | 産婦人科専門医<br>育成プログラム  |                       |               |                      |
|                            |  | 広島中山間地病院連携<br>地域医療研修プログラム                                   |                       |               |                      |
|                            |  | 基幹病院等や大学病院の指導医等のグループが行<br>う、複数の医療機関の若手医師を対象とする<br>研修会等の活動支援 |                       |               |                      |
|                            |  | 周産期母子医療センター<br>医師研究・研修支援                                    |                       |               |                      |
|                            |  | へき地医療拠点病院・へき地診療所支援<br>へき地医療支援機構を通じた支援                       |                       |               |                      |
| <b>情報発信(ふるさとドクターネット広島)</b> |  |   |                       |               |                      |

□ 内の事業は(財)広島県地域保健医療推進機構で実施予定。それ以外の事業は、県や大学等で実施

## 自治医科大学卒業医師等の配置調整

これまでは、

- ・自治医科大学卒業医師等の配置は県が独自に決定



機構の設立により、新たに

- ・自治医科大学卒業医師等の配置基準の策定

(市町に意見照会後、県、市町、県医師会、大学、地域保健医療推進機構からなる会議で検討し、策定)

- ・市町から提出された配置に係る調査票に基づき、医療機関を点数化し、配置調整案を作成。県、市町、県医師会、大学、地域保健医療推進機構からなる会議で協議・案決定。

5

## 地域医療セミナー(夏季)

### 1 目的

地域医療に従事することを希望している医学生が、中山間地域等の医療現場を実際に体験・学習することにより、地域医療に対する理解を深める。

### 2 参加者

- ・自治医科大学在学中の医学生(広島県出身)
- ・広島大学医学部「ふるさと枠」医学生
- ・広島県から奨学金の貸与を受けた医学生 合計48人(今年度)

### 3 日時

平成23年8月17日(水)、18日(木)

### 4 内容

○セミナー対象者が3つの研修コースから希望するコース(後述)を選択し、コース内の医療機関(1か所)で、1泊2日の現地研修を実施。

○セミナー対象者4名程度を1班とし、計12班を編成。

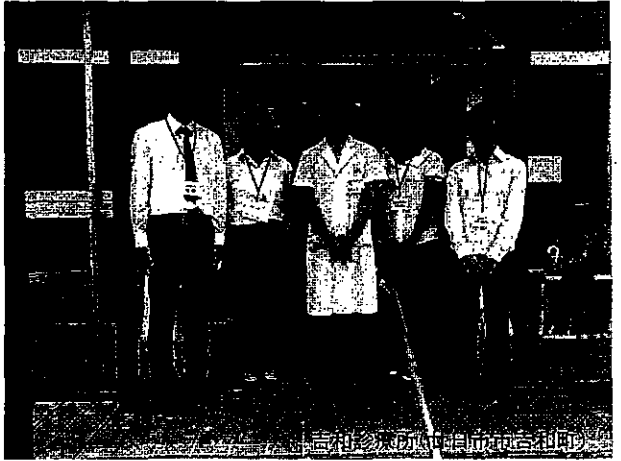
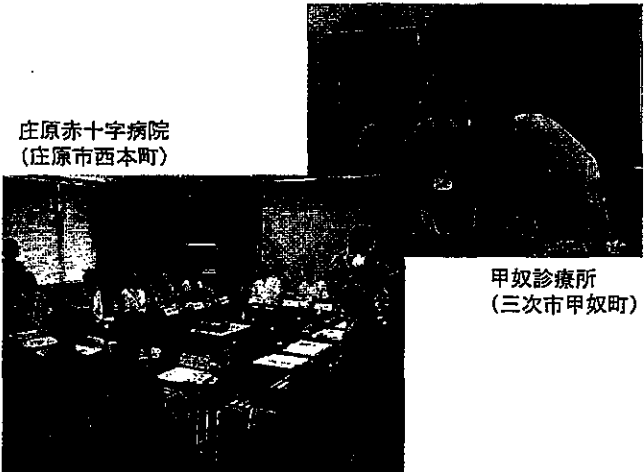
○現地研修終了後は、広島大学霞キャンパスにて 合同で報告会を開催。

6

# 平成23年度地域医療セミナー(夏季) の研修先医療機関一覧

| 中山間地域での診療を学ぶ |      | 島嶼部での診療を学ぶ |       | 大病院での診療を学ぶ |       |
|--------------|------|------------|-------|------------|-------|
| 医療機関名        | 所在   | 医療機関名      | 所在    | 医療機関名      | 所在    |
| 吉和診療所        | 廿日市市 |            |       | 広島総合病院     | 廿日市市  |
| 雄鹿原診療所       | 北広島町 |            |       |            |       |
|              |      | 越智医院       | 呉市    |            |       |
|              |      | 蒲刈診療所      | 呉市    |            |       |
|              |      | 円山医院       | 大崎上島町 |            |       |
| 大和診療所        | 三原市  |            |       | みつぎ総合病院    | 尾道市   |
|              |      |            |       | 神石高原町立病院   | 神石高原町 |
| 甲奴診療所        | 三次市  |            |       | 庄原赤十字病院    | 庄原市   |
| 総領診療所        | 庄原市  |            |       |            |       |

7



8



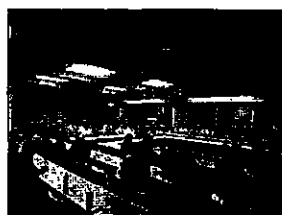


# 若手医師等育成支援

- 目的:若手医師の資質向上及びキャリア形成のため、基幹病院等や大学病院の指導医等のグループが行う、複数の医療機関の若手医師を対象とする研修会等の活動に対して支援する。
- 対象者:県内の複数の医療機関の若手医師を対象とした研究会等を開催するグループ。  
(例:◆◆◆地域医療懇話会, ◆◆◆研修ネットワーク等)
- 対象事業:若手医師等の資質向上及びキャリア形成のために実施する、地域医療などの臨床や疫学などの研究及び研修会等の活動
- 申請のあった6団体に対して、助成金を交付。



広島症候学研究会(代表 横林賢一先生~広島大学病院総合内科・総合診療科)主催の第1回症候学5時間耐久レクチャーの様子



藝州北部ヘルスケアネットワーク(Ge-Net)(代表 土手慶五先生~安佐市民病院循環器内科)主催の第10回藝州北部ヘルスケアネットワーク講演会の様子

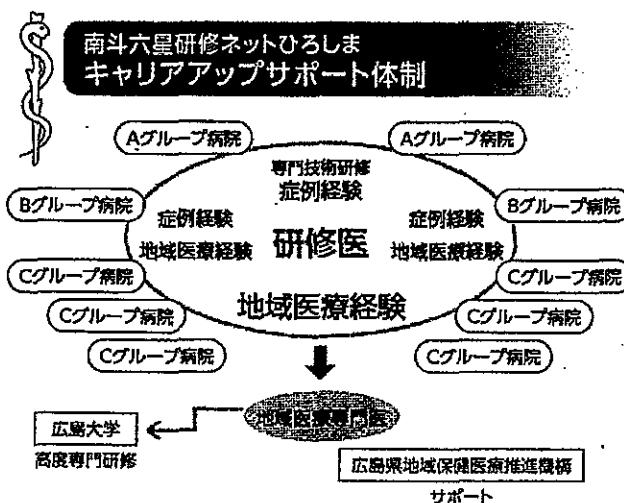


## 広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム (南斗六星研修ネットひろしま)

- 本プログラムは「南斗六星研修ネットひろしま」を活用して、種々の地域のさまざまな医療環境の現場において広範囲の地域医療研修を行い、真に地域に貢献できる正真正銘のプライマリ・ケア専門医を養成するもの。
- 「南斗六星研修ネットひろしま」に参加する病院が一丸となって地域医療のキャリアアップをサポートする。

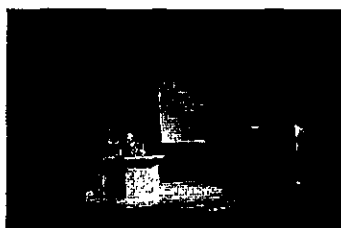
「南斗六星研修ネットひろしま」に参加している10病院をその規模や機能面をもとにA、B、Cの3グループに分け、原則的にはそれぞれのグループから1あるいは2施設を選択し、合計3から6施設をローテーションするもの。

Aグループ:広島市立安佐市民病院, 市立三次中央病院  
Bグループ:JA吉田総合病院, 庄原赤十字病院  
Cグループ:安芸太田病院, 三次地区医療センター,  
庄原市立西城市民病院,  
府中市立府中北市民病院, 公立邑智病院,  
神石高原町立病院



# 地域医療を考える市町や住民の 取り組みに対する支援

- 目的: 地域医療や救急医療体制等について、地域住民の理解・協力を得るために実施する市町や住民グループ等の取組を支援することにより、地域医療の維持・確保を図る。
- 対象事業: 地域医療や救急医療体制等について地域住民の理解・協力を得るために実施する、医療に関するイベント、シンポジウム、講演会等(例: 講演会: 「みんなで考えよう地域医療」, 「◆◆市の地域医療を考える会」)
- 4団体(安芸太田病院, 庄原の地域医療を考える会, 尾道市, 神石高原町)からの申請を受理, 交付決定



第2回広島県西部中山間地域の医療を考える会  
「みんなの力で地域医療を守ろう!!」  
主催: 安芸太田町病院事業, 安芸太田町  
開催日時: 平成23年12月4日(日)  
開催場所: 戸河内ふれあいセンター  
参加者: 安芸太田町の住民の皆さんなど約160名  
特別講演: 「地域が守る医療」  
足立智和氏(兵庫県丹波新聞社 編集部記者)

13

## 講演会の共催

### • 中村伸一医師講演会

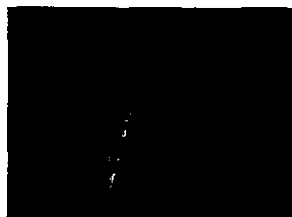
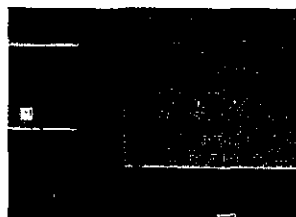
地域に“寄りそ医”20年 ～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～ (平成23年12月11日)

主催: 広島総合診療・地域医療懇話会

共催: 広島県、(財)広島県地域保健医療推進機構

参加者: 医療関係者および一般の方々, 約130名

福井県名田庄地区で20年間にわたり地域医療に携われてきた中村伸一先生をお招きし、講演会、懇話会を開催いたしました。先生が経験されてきた症例と地域性、時代背景を重ね合わせ、地域医療のあるべき姿について熱く語っていただきました。



14

# 「ふるさとドクターネット広島」のリニューアル

- 医師確保対策等の取組みを積極的かつ効果的に実施し、県内医療機関への就業に繋げるため、ホームページをリニューアルした。(平成24年2月10日)。※登録者数193名 H24.3.5現在



## リニューアルの3つの視点, 9つの特徴

「リニューアル後のイメージ」  
※○数字は特徴No.

### 1 デザインの刷新 ~見やすさと使いやすさの向上~

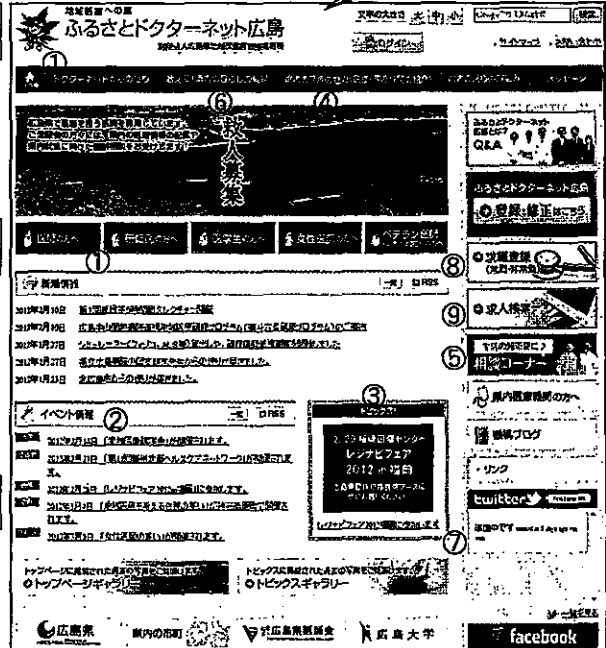
- ① グローバルメニュー・対象者別メニューを設置
- ② 医療関係のイベント情報を、トップページに一覧表示
- ③ イチオシ情報をビジュアルに提供するため、トップページにトピックス枠を設置

### 2 掲載情報の魅力向上 ~広島県での就業に「共感・親しみ」を高める~

- ④ 「生の声」を届けるため、医師インタビューを掲載
- ⑤ 日頃の疑問の解決や意見の募集を図る相談コーナーの設置
- ⑥ タウン情報誌(TJHiroshima)と連携し、市町の紹介記事等を掲載
- ⑦ フェイスブックやツイッターを利用し、県内の医療情報を発信

### 3 職業紹介事業の展開 ~“県内就業”の狙いを大きくPR~

- ⑧ 「職業紹介事業」をさらにPRするため、「求職登録」を設け、トップページに配置
- ⑨ 医療機関の求人内容の項目の充実や検索項目を拡大



## 「広島県地域保健医療推進機構」設立後の地域医療推進部の主な取組内容

地域医療推進部では、広島県、市町、広島県医師会、広島大学等と連携し、県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在・診療科偏在解消のための医師の配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

### 1 医師派遣・支援業務

|                           |   |
|---------------------------|---|
| (1) 医師配置調整                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自治医科大学卒業医師等の配置調整             <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置の考え方を整理の上、市町から提出された調査票を点数化し、医師を配置する医療機関の案を作成。それを踏まえ、県において次の市町の13医療機関に医師を配置</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     三原市1, 尾道市4, 三次市2, 庄原市3, 廿日市市1, 安芸高田市2<br/>                     安芸太田町1 北広島町1 世羅町1 神石高原町2 計18名                 </div> </li> <li>○大学院生による中山間地域診療支援奨励事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島大学大学院生である医師が中山間地域の公立・公的医療機関等で診療支援をした場合に奨励金を支給(24年3月は延べ310回分に対し支給)</li> </ul> </li> </ul> |
| (2) 求職者・求人者間の斡旋           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○有料職業紹介事業の許可取得(厚労省)</li> <li>○県内全病院に病院概要や求人内容を照会し「ふるさとドクターネット広島」に掲載</li> </ul>   |
| (3) 県外医師の県内招致や県内外の医師の就業支援 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ふるさとドクターネット広島」HPの登録者の拡大             <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 24.3.31現在登録者数221人(うち23年度新規登録者数121人)<br/>                 (男性161人, 女性60人 / 医師88人, 研修医44人, 医学生89人)             </div> </li> <li>○同ネット登録医師への面談・県内医療機関見学の実施(延べ11件)</li> <li>○医療情報誌等への求人広告等掲載             <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webドクター、メディカル朝日、医学界新聞、日経メディカルネット、県内高校の同窓会誌等</li> </ul> </li> </ul>  |

### 2 人材育成・研修業務

| (1) 地域医療セミナーの実施            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○広大ふるさと枠、自治医大生、奨学生を対象とした地域医療セミナーを実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季 23.8.17~18(県内12医療機関) 48名参加</li> <li>冬季 24.1.7~8(神石高原町立病院他) 40名参加</li> </ul> </li> </ul>  |        |         |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
|----------------------------|---|--------|---------|--------|---------|--------|-----------------|------|------|---------|-----------------|------|------|---------|-----------------|------|------|
| (2) 臨床研修病院への支援             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○臨床研修病院合同説明会に県内主要病院と共同で参加し、PR活動を実施</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>説明会</th> <th>県内参加病院</th> <th>県ブース来場者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23.7.3</td> <td>レジナビフェア2011in大阪</td> <td>13病院</td> <td>170名</td> </tr> <tr> <td>24.2.26</td> <td>レジナビフェア2012in福岡</td> <td>12病院</td> <td>103名</td> </tr> <tr> <td>24.3.20</td> <td>e-レジフェア2012in大阪</td> <td>16病院</td> <td>128名</td> </tr> </tbody> </table> | 月日     | 説明会     | 県内参加病院 | 県ブース来場者 | 23.7.3 | レジナビフェア2011in大阪 | 13病院 | 170名 | 24.2.26 | レジナビフェア2012in福岡 | 12病院 | 103名 | 24.3.20 | e-レジフェア2012in大阪 | 16病院 | 128名 |
| 月日                         | 説明会   | 県内参加病院 | 県ブース来場者 |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
| 23.7.3                     | レジナビフェア2011in大阪   | 13病院   | 170名    |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
| 24.2.26                    | レジナビフェア2012in福岡   | 12病院   | 103名    |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
| 24.3.20                    | e-レジフェア2012in大阪   | 16病院   | 128名    |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
| (3) 複数医療機関による研修システムの開発、支援等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○基幹病院の連携による研修システムの作成・運営支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科専門医育成プログラム</li> <li>・広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム(南斗六星研修ネットひろしま)</li> </ul> </li> <li>○若手医師等育成支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹病院等や大学病院の指導医等のグループ6団体に助成</li> </ul> </li> <li>○周産期母子医療センター医師研究・研修支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合周産期母子医療センター等の産科・小児科医の研究・研修費用を助成</li> </ul> </li> </ul>   |        |         |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |
| (4) 新人看護職員研修のサポート業務        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療機関への医療・看護技術研修用シミュレーターの貸出(13病院等)</li> <li>○アドバイザーの派遣(3件)</li> </ul>  |        |         |        |         |        |                 |      |      |         |                 |      |      |         |                 |      |      |

### 3 医師の定着促進・地域医療サポート業務

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| (1) 女性医師の育児期間等への対応等、離職防止業務    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○県医師会女性医師部会と連携し、女性医師相談窓口を開設<br/>相談件数 33件 (23.4～24.2月)</li> <li>○女性医師の就業環境整備に向けた実態調査の実施等<br/>県内の全病院に女性医師の就労環境に関するアンケート実施 (回答数 150病院)。</li> <li>○女性医師の就業環境整備に向けた補助事業に関する病院との調整<br/>短時間正規雇用の導入促進等のための県補助制度等の活用を支援 (9 医療機関)</li> </ul>    |
| (2) プラチナ世代の医師等を地域医療に向ける仕組みづくり | <ul style="list-style-type: none"> <li>○プラチナ世代の医師による診療支援システムの構築についてのアンケートを実施し、各市町に結果を送付<br/>(300床以上の国・自治体・公的病院 (19病院) 対象。17病院から回答)<br/>→回答のあった医師 128人中、88人が「条件次第で協力可能」と回答</li> </ul>   |
| (3) 地域医療を考える市町や住民の取り組みに対する支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域医療を考える市町や住民の取り組みを支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸太田病院、庄原の地域医療を考える会、尾道市、神石高原町に助成</li> </ul> </li> <li>○市町等が開催するセミナー等での機構職員による講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・24.3.4 神石高原町において機構医監が講演</li> </ul> </li> </ul> |
| (4) 広島県へき地医療支援機構の事務局業務        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○広島県へき地医療支援機構運営委員会の開催<br/>(第1回 23.10.28 第2回 24.2.23)</li> </ul>   |

### 4 情報収集・情報発信業務

|          |   |
|----------|---|
| (1) 情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自治医科大学卒業医師配置先医療機関に対するヒアリングの実施</li> <li>○「平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査」結果の分析 (医師関連)</li> </ul>   |
| (2) 情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ふるさとドクターネット広島」HPのリニューアル (24.2.10)</li> <li>○中村伸一医師講演会の広島大学との共催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演題「地域に“寄りそ医”20年 ～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～」 (23.12.11 広島市で開催, 128名受講)</li> </ul> </li> </ul> |

徳島県

【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

(医師の地域偏在)

- 自治医科大学における医師の養成
- 地域枠医師の確保，医師修学資金貸与事業
- とくしま医師バンク事業（任期付県職員の採用，女性医師再就業バンク等）
- 高校生・大学生を対象とした「医学部体験授業」，「地域医療研修」等の実施
- 県医師会との連携による支援体制の構築  
（県医師会との基本協定に基づき，開業医有志による公的病院，診療所への応援診療）

(医師の診療科偏在)

- 徳島大学と連携した「寄附講座」の実施（総合診療，産婦人科，救急，外科，脳外）
- 地域医療を担う医師養成プログラムの整備
- 専門医研修資金貸与事業（小児科，産科，外科専門研修の後期研修医への研修資金貸与）

(研修医の確保)

- 徳島県臨床研修連絡協議会の設置（合同説明会への参加，統一パンフの作成等）

(指導医の養成)

- 指導医養成講習会の実施

(勤務環境の改善)

- 救急勤務医・産科医確保支援費補助金（手当を支給する医療機関への補助）

(県民への意識啓発)

- 「地域医療を守る」県民フォーラムの実施（毎年度実施）

【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- 地域医療を担う医師養成プログラムの整備  
総合診療，ER，外傷外科を中心とした研修プログラムの検討
- 指導医向け講習会の実施  
中心静脈穿刺，カテーテル留置の習得講習会の実施



### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

11月に「地域医療支援センター」を設置したところであり、昨年度は、主に体制整備に主眼を置いた取り組みとなったことから、現時点においては、定量的に記載できるものはない。

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

大学、県、各病院、医師会などに対して、それぞれの立場や事情に配慮しながら、地域医療支援センターの役割についてコンセンサスを得る努力と工夫を行い、学生や若手医師にとって魅力的かつ実現可能で、地域医療ニーズにも応えることができる研修プログラムを早期に策定する必要がある。

### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ①医師のキャリア形成支援事業
  - ・研修プログラムの企画・作成(総合診療・ER・外傷外科)
  - ・総合診療・ER・外傷外科に関連する講習会、学会等への参加支援
  - ・教育カンファレンス・教育回診の企画・実施
  - ・合同講習会及び講演会の企画・実施
- ②地域医療に関する調査・分析事業
  - ・指導医の配置状況
  - ・各医療機関における現行の研修プログラムの実施状況等
- ③医師不足医療機関への医師の配置調整
  - ・②の調査結果を踏まえた「医師の適正配置」の検討
- ④医師確保対策事業
  - ・徳島県臨床研修連絡協議会への参画
- ⑤総合相談・情報発信事業
  - ・キャリア形成に関する相談対応
  - ・ホームページの更新、内容充実
  - ・広報誌、News Letterの発行及びリーフレットの作成
- ⑥地域医療関係者との意見調整
  - ・地域医療支援センター運営会議の運営
  - ・地域医療支援センター企画委員会の運営
  - ・徳島県地域医療対策協議会への参画

# 地域医療支援センター運営事業（概要）

地域医療を担う医師の「キャリア形成支援」や「医師の配置調整」など、本県の医師確保対策を総合的に行うため、県が徳島大学病院に委託し、県医師会等関係機関との連携による「徳島県地域医療支援センター」を新たに設置し、本県における地域医療の安定的な確保を図る。

平成23年11月1日設置

総合メディカルゾーン本部

徳島県地域医療支援センター

地域医療支援センター長

副センター長

副センター長

副センター長

担当職員  
(医師・事務)

徳島大学病院に委託

企画委員会  
※中核病院等  
の実務担当者

センター機能

① 医師のキャリア形成支援

② 地域医療に関する調査研究

③ 医師の配置調整

④ 医師確保対策

⑤ 総合相談窓口・情報発信

⑥ 地域医療関係者との意見調整

◆地域医療支援センター運営会議  
(中核病院、市長会、町村会、県医師会 等) ※病院長クラス

高知県

### 【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

(課題)

- ・ 安定的・継続的な医師確保（中長期的視点）
- ・ 現在不足している診療科医師の確保（短期的視点）
- ・ 医師の適正配置機能及びキャリア形成システムの強化

(取組み)

- ・ 県外からの医師の招へい及び赴任医師への支援
- ・ 県外医師確保のための情報収集及び勧誘
- ・ 女性医師の復職支援
- ・ 高知大学医学部定員の増
- ・ 医学生等の卒後の県内定着の促進
- ・ 若手医師にとっての魅力あるキャリア形成環境の整備
- ・ 医学生等の卒後の県内定着の促進
- ・ 安芸保健医療圏連携推進事業

### 【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。(ポンチ絵等、参考資料を添付願います。)

① 高知地域医療支援センター

- ・ センターの運営体制の構築
- ・ 平成24年度以降に実施する事業内容の検討

② 高知医療再生機構

- ・ 指導医の育成及び確保支援事業
- ・ 医学生・研修医の高知県内研修支援事業
- ・ 若手医師レベルアップ事業
- ・ 看護職員・コメディカル職員資質向上支援事業
- ・ 医師招聘・派遣斡旋事業
- ・ 緊急医師確保対策事業
- ・ 医師招聘活動事業
- ・ 県外からの医師招聘定着及び赴任医師の勧誘支援事業
- ・ 医師不足状況等の把握・分析調査事業

(①と②の役割分担については別添資料1参照)

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

(別添資料2参照)

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

### 【設問5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

#### ① 高知地域医療支援センター

- ・ 医師不足状況等の調査・把握分析に基づく医師の適正配置等
- ・ 高知県医師養成奨学貸付金貸与者を含む医師のキャリア形成支援
- ・ 医療情報の発信と県内外の医師及び医師志望者からの相談
- ・ 県内への医師流入促進
- ・ 地域医療関係者との協力・連携の構築
- ・ 高知地域医療支援センター運営委員会の運営
- ・ 高知県医療審議会等への参画

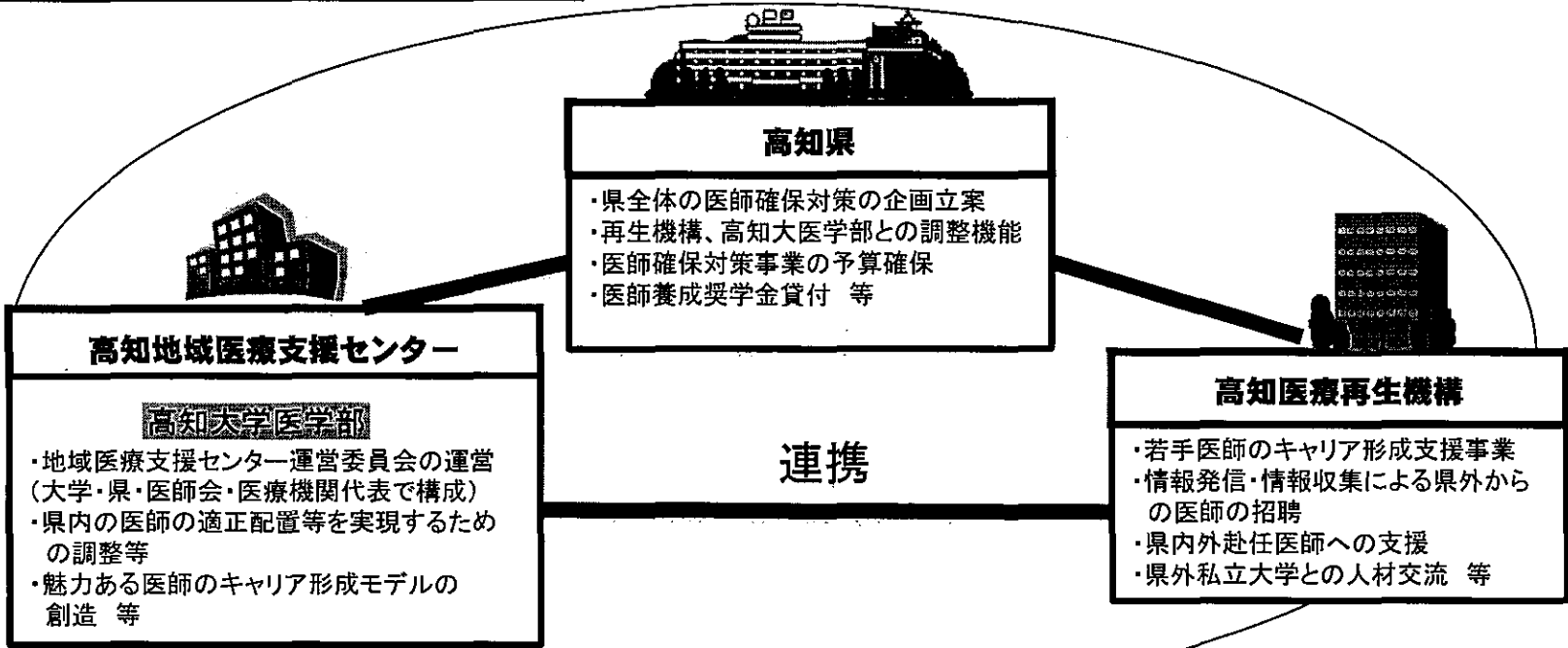
#### ② 高知医療再生機構

(【設問2】参照)

# 高知地域医療支援センター運営事業

### 高知地域医療支援センターの設置

【目的】 1 地域医療機関への医師の適正配置の実現  
2 高知大学医学部医師等の調整等の実施  
3 高知医療再生機構との連携による医師確保体制の強化



### 高知地域医療支援センターの役割

- 高知県における医師の適正配置等を実現するための調整機能等を担う。
- 医師が地域医療機関と高知大学等の間を循環しながらキャリア形成が行えるシステムを構築し、本県において十分なキャリア形成が可能な基盤づくりを行う。

高知地域医療センター事業実績

<高知医療再生機構分>

(1) 指導医の育成及び確保支援事業

新たに指導医資格の取得を目指す専門医に対して、資格取得のための研修支援を行うとともに、指導医資格を有する医師を招聘・確保し、指導医養成事業を行う医療機関に対し補助を行った。

① 指導医資格取得支援

補助事業者：指導医資格の取得を目指す専門医

補助人数：16人

補助金額：9,484千円(1,000千円以内/人)

② 指導医招聘確保支援

ア) 県内病院への招聘

補助事業者：医療機関

補助件数：0件

補助金額：0千円

公募により1病院への補助採択を行っていたが、最終的に指導医の招聘が成功しなかったため、0円となった。

イ) 寄附講座の設置

寄付先：高知大学医学部

寄付講座数：1講座(災害・救急医療学講座)

寄付金額：10,000千円

(2) 医学生・研修医の高知県内研修支援事業

① 県内外医学生・県外研修医研修促進等事業

ア) 医学生地域医療実習支援

補助内容：県内外に在学する本県の医師養成奨学貸付金の借受者等が、県内で行われる地域医療実習等に参加する経費を支援した。

補助人数：15人

補助金額：219千円(60千円以内/人)

イ) 県外臨床研修医地域医療研修者支援

補助内容：県外の臨床研修医が、県内の臨床研修協力施設で地域医療研修を行う際に必要な経費を支援した。

補助人数：21人

補助金額：1,260千円(60千円以内/人)

ウ) 研修病院見学支援

補助内容：県外の医学生又は研修医が、県内の複数の基幹型臨床研修病院を見学する際に必要となる宿泊費を支援した。

補助人数：15人

補助金額：370千円（10千円以内／泊）

② 地域医療研修指導者支援

補助内容：県内の臨床研修協力施設で地域医療研修の指導にあたる医師の資質向上を図るため、研修会への参加や指導医間の情報交換等に要する経費を支援した。

補助先：高知県へき地医療研修指導医連絡協議会

補助金額：1,200千円

③ 臨床研修医確保支援

ア) 高知県臨床研修連絡協議会への支援

補助内容：下記の事業者が実施する県内の臨床研修医の確保のための合同説明会等の開催に要する経費を支援した。

補助先：高知県臨床研修連絡協議会

補助金額：5,665千円以内（補助率1/2）

イ) 県内臨床研修医合同研修会の開催

補助内容：県内の基幹型臨床研修病院が、初期臨床研修医の資質向上のために実施する合同研修会の開催を支援した。

補助件数：1件

補助金額：139千円

(3) 若手医師レベルアップ支援事業

県内の医療機関に勤務する若手医師が、国内外の先進的医療機関に留学することへの支援や、大学や学会認定の研修病院の指導医的な立場にある医師が、若手医師の研修環境を充実させ、専門医資格の取得を支援する環境整備を行うための支援をすることで、若手医師の県内定着を図った。

① 専門医養成支援

補助対象：指導医

補助人数：29人

補助金額：80,516千円（5,000千円以内／件）

② 医師レベルアップ支援

ア) 専門医等資質向上支援

補助対象：概ね経験年数16年以上の医師



補助人数：19人

補助金額：8,250千円（500千円/件）

イ) 短期留学支援

補助内容：国内の先進的医療機関への留学（概ね3～6カ月程度）

補助対象：医師

補助人数：1人

補助金額：1,058千円（2,000千円以内/人）

ウ) 長期留学支援

補助内容：国内外の先進的医療機関への留学（概ね1年程度）

補助対象：医師

補助人数：1人

補助金額：2,738千円（3,000千円以内/人）

エ) 専門医等不足分野支援

補助内容：高知県の医療政策上、確保・養成が特に必要とされている医療分野の若手医師の増加・育成を行うため、病院の枠組みを超えて実施する研修セミナー等の開催を支援した。

補助対象：県内の医療機関に勤務する医師

補助人数：8人

補助金額：6,072千円（1,500千円以内/件）

(4) 看護職員・コメディカル職員資質向上支援事業

① 認定看護師資格取得支援

補助内容：医療機関等による、認定看護師資格取得のための派遣研修を支援する。

補助先：医療機関等

補助件数：7件

補助金額：7,642千円（補助率1/2、800千円以内/人）

② 研修派遣支援

補助内容：医療機関等に勤務する看護職員等が高度な技術を有する資格（認定看護師を除く。）を取得するため、先進的な医療機関等で研修を行うことに対して支援した。

補助先：医療機関等

補助件数：3件

補助金額：2,050千円（1,000千円以内/件）

③ 研修会開催支援

補助内容：看護職員等が職種間協働や、チーム医療等を促進させるために自ら企画

した研修会を開催することに対して支援した。

補助先 : 医療機関又は医療従事者団体

補助件数 : 7 件

補助金額 : 4,157 千円 (1,000 千円以内/件)

#### (5) 医師招聘・派遣斡旋事業

##### ① 医師ウェルカムネット事業

事業内容: 県内の医療機関への就業を希望する医師を、訪問あるいは県内へ招待し、県内の医療状況や生活環境等に関する情報提供、医師のキャリアアップ支援策等の紹介を行い、県内での就業を促した。

実績額 : 2,121 千円

招聘実績: 常勤 2 名、非常勤 2 名

##### ② 広報事業

事業内容: 医学生や若手医師の地域医療への理解・関心を深めるため講演会を開催するとともに、医師・医学生対象の専門誌を活用して機構の支援策等の周知を図る。

実績額 : 2,905 千円

#### (6) 緊急医師確保対策事業

##### ① 県外医師情報の収集強化

###### ア) 医師確保地域協力員の設置

事業内容: 県外で活躍している著名な高知県出身医師等を協力員として委嘱し、県内での勤務を希望する医師等の情報提供・斡旋を依頼した。

実績額 : 2,247 千円

###### イ) 県外医師リクルート支援

事業内容: 医師専門求人サイト等に専用広告を掲載し、機構の支援策等の周知を図った。また、県内の医療機関が、医師求人専門サイトを活用して求職中の医師に対して個別に働きかけを行うことを支援する。

実績額 : 13,335 千円

うち医療機関補助: 10,500 千円 (補助率 1/2、157 千円以内/病院)

###### ウ) 医師ふるさとネットの運営

事業内容: 県出身医師に定期的な情報提供を行い、県内での就業を勧誘した。

実績額 : 254 千円

② 県外からの医師招聘・定着支援

ア) 機構医師の派遣

事業内容：高知県内での勤務を希望する医師を、一定期間機構が雇用し、医師の希望する医療機関へ派遣する。派遣医師の処遇改善、専任職員によるフォローアップを実施し、派遣期間終了後の定着を図った。

実施体制：専務理事、専任のマネージメント職員の配置

実績額：51,000千円

派遣実績：2名

イ) 県外私立大学との連携による医師招聘

事業内容：県外私立大学に所属する医師等が、安定・継続して高知県内の医療機関で勤務することを進めるため、同大学に高知の医療環境を研究し、かつ学内の調整を行う寄附講座を設けた。

寄付先：聖マリアンナ医科大学

寄附講座数：1講座（高知県地域医療支援講座）

寄付金額：3,000千円

ウ) 地域赴任医師研修修学金の貸与

事業内容：県外等から赴任した医師の処遇改善のため研修修学金を貸与する。

被貸与者：赴任医師

貸与計画：県外から高知県郡部への赴任 2,000千円（5人）

県外から高知市周辺部への赴任 1,000千円（40人）

高知市周辺部から郡部への赴任 1,000千円（25人）

予算額：75,000千円

返還免除の要件：赴任病院で1年間継続勤務すること。

大分県

## 地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

### 【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

地域医療を志す医師に対するモチベーションの向上  
キャリアの形成を図るための相談支援体制や研修機会の充実、地域医療に係る実習の場の拡充など

### 【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。（ポンチ絵等、参考資料を添付願います。）

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

- ・ 地域医療体制の現状把握、課題を分析するための調査・研究
- ・ 医師の専門領域に関するキャリアパスの調査検討を行い、相談支援を通じてキャリア形成を支援
- ・ 医学生に対する地域医療セミナーを実施

### 【設問3】

設問2で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。（あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など）

安定的な医師確保を将来的なアウトカム指標に据え、その下地を作るための取り組みを実施

- ・ 国民健康保険のレセプトデータから受療動向を分析し、地域の医療ニーズを調査
- ・ 地域医療セミナーを2日間にかけて開催し、医学生に対して現場実習やワークショップ等を実施（H23.3 医学生20名参加）

### 【設問4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点（課題）があれば、ご記載ください。

業務を委託している大分大学医学部地域医療学センターとの連携  
（大学固有研究分野との棲み分けや研究を主たる業務とするドクターとの事務的な調整）

**【設問5】**

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

- ・地域中核病院の医療提供体制の把握・分析
- ・医師及び医療機関等に対する地域医療研修会の開催
- ・医学生に対する地域医療セミナーの開催
- ・医師のキャリア形成支援
- ・情報発信や相談機能の充実

～以上～

# 地域医療支援センター事業(平成24年度)



地域医療支援センター

専任医師

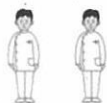


## 地域医療の課題



- ・地域における医療ニーズと医療提供体制の把握
- ・地域枠学生の地域医療への貢献意欲のサポート
- ・へき地診療所医師の安定的・継続的な確保
- ・地域中核病院における医師不足の解消
- ・県内における研修医(臨床・専門)の確保
- ・へき地診療所勤務医師の研修機会の確保
- ・地域医療の現場を体験し、理解する機会の提供
- ・一体的な情報発信と総合相談窓口の開設

## 地域枠医学生の不安感



- ・卒業生がいなくてモデルケースがなくて不安
- ・自分の希望しているような環境で研修できるか不安
- ・臨床研修病院が指定されている中で、自分が目指す医師の技術が身につくか不安
- ・へき地への義務期間と自身のライフイベントとの折り合いをつけることができるか不安

《委託》

## 事業内容(案)

- 1 地域中核病院の医療提供体制の把握・分析
  - ・地域中核病院等における専門研修体制及び研修医等の意識調査・分析
  - ・医学生の地域医療への意識調査・分析 等
- 2 医師及び医療機関等に対する地域医療研修会の開催
  - ・研修医等に対する地域医療セミナー
  - ・地域医療実習協力施設の合同研修会
  - ・臨床研修病院等の合同研修会
  - ・マッチング率向上に向けたレジナビフェアへの参加 等
- 3 医学生に対する地域医療セミナーの開催
- 4 医師のキャリア形成支援
  - ・地域医療を志向する医師からのキャリア形成支援等に関わる相談支援
  - ・地域枠医学生との意見交換会(相談支援を含む)
  - ・医師のニーズに沿った循環型のキャリアパスモデルの検討、策定
- 5 情報発信
  - ・地域医療支援センターのホームページの開設
  - ・Uターン及びIターン支援(「ドクターバンクおおいと」とのリンク)
  - ・県内病院の臨床研修プログラム等の情報提供 等

《事業実施により期待される効果》

## 【地域中核病院】



- ・病院勤務医師の確保
- ・魅力ある研修プログラムの策定
- ・研修医(臨床・専門)の確保
- ・へき地診療所の支援体制の確保

## 【へき地診療所】



- ・へき地診療所の勤務医の確保
- ・医師の休暇や研修機会の確保
- ・勤務環境及び生活環境の整備
- ・医師のネットワークの構築
- ・勤務医の満足度の向上による安定的な医師確保

## 【地域枠医学生等】



- ・地域医療への不安感を払拭し、地域医療マインドを醸成
- ・意欲を持って地域医療に従事
- ・自身のニーズに沿ったキャリア形成支援が受けられる
- ・義務明け後の県内定着

## 【地域医療を志向する医師】



- ・医師が必要とする情報が的確に収集できる
- ・自身のニーズに沿ったキャリア形成支援が受けられる
- ・地域医療に意欲を持って貢献する
- ・県内の地域医療への定着

宮崎県



## 地域医療支援センター情報交換会（5月11日開催）用アンケート

### 【設問1】

貴道府県における医師不足に関する課題、及びその課題に対する県としての取組みについてご記載ください。

県内の医師の地域偏在が顕著であること。診療科においても同様の状況であること。また、医師の高齢化が全国よりも進展しており、若手医師の減少が続いていること。さらには内科、小児科、産科の医師不足が深刻化していることなどが課題となっている。

これらの課題に対処するため、平成23年10月に宮崎大学、県医師会及び市町村と密接に連携した「宮崎県地域医療支援機構」を立ち上げ、医師のキャリア形成支援や臨床研修医の確保等に取り組んでいる。

また、医師修学資金貸与制度により県内の地域医療を担う医師の養成や、宮崎大学医学部に県からの寄附で開設した「地域医療学講座」により、医学生への地域医療教育及び地域医療や救急医療を担う医師の派遣等に取り組んでいる。また、県と公立病院を有する市町村とで構成する医師確保対策推進協議会において、県外医師を対象にした病院説明会を開催している。

### 【設問2】

設問1で記載された取組みについて、地域医療支援センターが関与し、これまで取り組んできた事業内容をご記載ください。(ポンチ絵等、参考資料を添付願います。)

※24年度から実施の5県においては、独自に取り組まれた内容があれば記載願います。

#### ・ 医師需給状況等調査事業

各年調査の三師調査の平成22年医師の状況を集計するとともに、県内の病院に対し、必要医師数調査と入院患者の医療圏ごとの出と入を調査する患者実態調査を行った。

#### ・ 医師配置等促進事業

宮崎県地域医療支援機構に専任医師を配置するとともに、医師修学資金貸与医師等の医師不足病院への配置調整を行った。

#### ・ 医師招へい事業

県外医師との面談及び県内医療機関の案内等を行った。

#### ・ キャリア形成支援事業

県内の中核的な医療機関に勤務する医師の学会等参加に要する経費を助成した。

#### ・ 臨床研修指導医養成事業

優秀な臨床研修指導医を養成するため、医師会に委託し「指導医養成のためのワークショップ」を開催した。

#### ・ 医学生臨床研修ガイダンス事業

医学部5年生を対象にしたより実践に近い臨床実習をへき地病院等で開催した。

- ・ 臨床研修病院説明会事業  
宮崎大学医学部において基幹型 6 病院が参加しての病院説明会を開催。  
東京、大阪、福岡で開催されたレジナビフェアに「宮崎県臨床研修病院群」として出展。
- ・ PR 事業  
宮崎県地域医療支援機構のウェブサイト開設や本県の医療状況や支援策をまとめたパンフレット及び県内で活躍する医師を紹介する広報誌を県内外の医師及び学生に対する情報発信ツールとして作成した。

### 【設問 3】

設問 2 で記載された事業における実績について、できる限り定量的にご記載ください。(あっせん等を行った医師数、作成したキャリアプログラムの数や内容など)

- ・ 県内での定着に向けてあっせんした医師数：27名
- ・ キャリア形成支援事業として医師スキルアップ支援補助医師数：63名
- ・ 指導医養成のためのワークショップ参加医師数：31名

### 【設問 4】

貴道府県の地域医療センターにおける、現時点での問題点(課題)があれば、ご記載ください。

県外から医師を招いたり、医師を育て県内定着を図るためには、医師がやりがいを持ってかつ安心して働き続けることができる勤務環境(キャリア形成モデル)を提示することが重要であるが、まだ、そのモデルを作成できていない。

### 【設問 5】

今年度以降、地域医療支援センターにおいて、どのような事業を実施される予定かご記載ください。

医師の育成・確保のため、大学附属病院を離れ地域の医療機関において、後期 1, 2 年目の若手医師を対象にした総合医育成プログラムを作成する予定である。また、県立病院にある「地域医療科」を拡充させ、医師の希望にそった魅力ある研修プログラムにより医師の確保を図ることとしている。

# 宮崎県地域医療支援機構

(平成23年10月24日設立)

## <構成機関>

- 宮崎大学(※1) ○県医師会
- 県内市町村 ○県
- ※1 地域医療学講座の活用

## <内部組織>

- 代表者会議・構成機関の代表者で構成
- 医師配置調整会議
- 事務局(※2)

※2

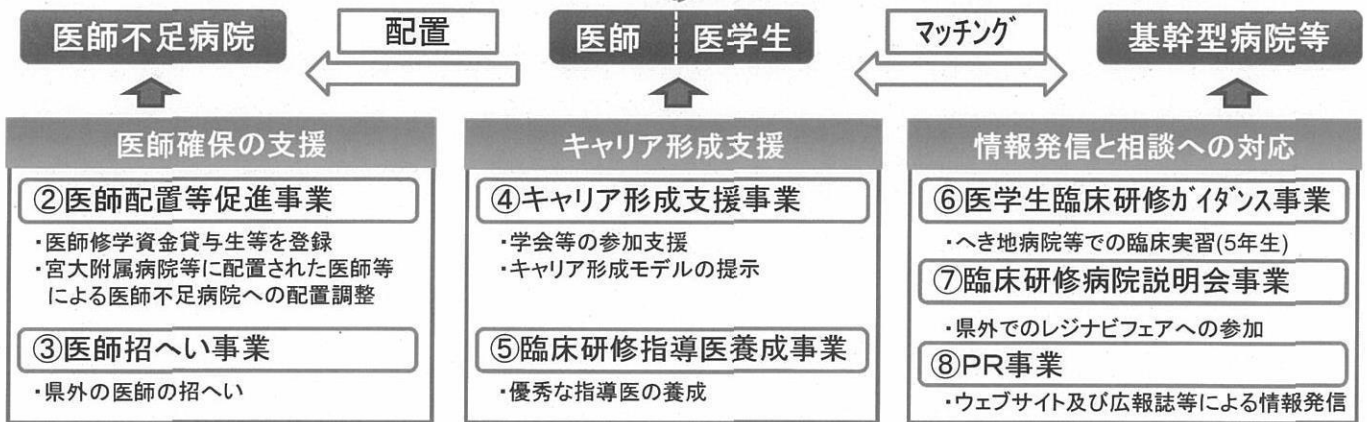
県医療薬務課に設置し、医師2名(宮大附属病院・県立宮崎病院)及び事務職員5名で構成

<取組> 医師不足病院への医師の配置と臨床研修マッチング数の増加

医師不足状況等の把握・分析

① 医師需給状況等調査事業

・宮崎大学地域医療学講座への調査委託



## 医師不足病院の支援・医師のキャリア形成支援について

